

履修の手引き

令和6年度（2024年度）入学生用

人文社会科学部

この手引きには、学習の計画を立てるため、そして卒業するために必要な情報がたくさん書かれています。

【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（農学部共同獣医学科を除く）
- III 専門教育について【人文社会科学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について

※この手引きを読んで、わからないことがあったら
学生センターA棟1F窓口にご相談に来てください。
※この手引きは卒業まで大切に保管してください。



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和6年度（2024年度）行事日程

前期	4月	別途掲示		定期健康診断（学部の令和6年4月入学生以外）	
		3日（水）		外国人留学生オリエンテーション	
		4日（木）		学部新入生学生証等配付	
		5日（金）		入学式 編入生オリエンテーション	
		8日（月）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）	
		9日（火）～10日（水）		定期健康診断（学部の令和6年4月入学生）	
		9日（火）～11日（木）	前期履修申告		
		15日（月）	授業開始【前期・クォーター（Ⅰ）】		
		15日（月）～21日（日）	履修申告訂正		
		30日（火）	月曜授業の日		
	5月	1日（水）	金曜授業の日		
		7日（火）～13日（月）	履修申告取消期間		
		20日（月）		前期授業料口座引落日	
		18日（土）		盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
	6月	1日（土）		開学記念日	
		6日（木）	クォーター（Ⅰ）補講日		
		7日（金）	授業開始【クォーター（Ⅱ）】		
		21日（金）～27日（木）	クォーター（Ⅱ）科目履修申告取消期間		
	7月	19日（金）	月曜授業の日		
		29日（月）～8月2日（金）	前期・クォーター（Ⅱ）補講日		
		下旬		前期授業料免除結果通知	
	8月	7月29日（月）～2日（金）	前期・クォーター（Ⅱ）補講日		
		5日（月）～9月30日（月）	夏季休業		
		6日（火）		オープンキャンパス	
		9日（金）～16日（金）		全学一斉休業（閉庁）	
	9月	8月5日（月）～30日（月）	夏季休業		
		25日（水）		9月卒業式	
		30日（月）	前期成績発表		
		30日（月）～2日（水）	後期履修申告		
	後期	10月	9月30日（月）～2日（水）	後期履修申告	
			1日（火）		10月入学式
			4日（金）	授業開始【後期・クォーター（Ⅲ）】	
			4日（金）～10日（木）	履修申告訂正	
			18日（金）	全学休講（午後）	
			19日（土）～20日（日）		大学祭
		11月	22日（火）～28日（月）	履修申告取消期間	
7日（木）			月曜授業の日		
19日（火）			全学休講（午後）		
20日（水）			全学休講	【入試】学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日	
12月	29日（金）	クォーター（Ⅲ）補講日			
	2日（月）	授業開始【クォーター（Ⅳ）】			
	中旬		後期授業料免除結果通知		
	16日（月）～20日（金）	クォーター（Ⅳ）科目履修申告取消期間			
	23日（月）	木曜授業の日			
	24日（火）	金曜授業の日			
	25日（水）～1月5日（日）	冬季休業			
28日（土）～1月3日（金）		全学一斉休業（年末年始休業）			
1月	12月25日（水）～5日（日）	冬季休業			
	12月28日（土）～3日（金）		全学一斉休業（年末年始休業）		
	16日（木）～17日（金）	全学休講			
	18日（土）～19日（日）		大学入学共通テスト		
2月	4日（火）～10日（月）	後期・クォーター（Ⅳ）補講日			
	20日（木）～21日（金）		入試準備日		
	25日（火）～26日（水）		【入試】一般選抜（前期）		
3月	10日（月）～11日（火）		入試準備日		
	12日（水）		【入試】一般選抜（後期）		
	24日（月）		卒業式		
	25日（火）～31日（月）	春季休業			
	31日（月）	後期成績発表			

※ 上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和7年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

※ 試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

※ 以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

目次

令和6年度（2024年度）行事日程

I 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 教育理念・教育目標	I-1
2 学期区分	I-1
3 本学の履修科目及び履修時期	I-2
4 授業科目の単位	I-3
5 成績評価	I-4
6 授業時間	I-4
7 時間割表の見方	I-4
8 総合学修支援システム	I-5
9 履修の申告	I-5
10 履修科目登録単位の上限	I-6
11 他学部開講科目の履修	I-6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	I-7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	I-8
14 資格試験等による単位認定	I-9
15 ボランティア活動による単位認定	I-10
16 試験	I-10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	I-11
18 成績優秀者	I-11
19 卒業時に授与される学位	I-12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	I-12
21 長期履修学生制度	I-12
22 転学部制度	I-12
23 転学科・転課程制度	I-13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	I-13
25 その他	I-13
参考 学生の修得すべき単位数	I-14
学籍番号	I-14
用語集	I-15
I ⁿ Assistant2.0 & WebClass & I ⁿ Folio	I-16

II 教養教育について（農学部共同獣医学科を除く）

1 教養教育の理念	II-1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	II-1
3 履修方法及び開設授業科目	II-6
4 選択について	II-10
参考 開設授業科目要件区分／標準履修学年・時期早見表	II-11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
人文社会科学部	II-13
教育学部	II-15
理工学部	II-17
農学部（共同獣医学科を除く）	II-19

※履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

Ⅲ 専門教育について【人文社会科学部】

1 人文社会科学部の理念・目的	Ⅲ-1
2 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	Ⅲ-2
3 人文社会科学部教育課程規則	Ⅲ-2 6
4 人文社会科学部教育課程履修細則	Ⅲ-2 7
5 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について	Ⅲ-2 9
6 人間文化課程 科目等一覧	Ⅲ-3 7
7 地域政策課程 科目等一覧	Ⅲ-5 8
8 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧	Ⅲ-6 9
9 取得可能な資格等について	Ⅲ-7 2

Ⅳ 専門教育について【教育学部】

1 教育学部の理念と目的，学位授与の方針，教育課程規則，課程等の紹介	Ⅳ-1
2 教育学部の専門教育科目卒業要件	Ⅳ-8
3 授業科目及び履修年次	Ⅳ-2 2
4 副免及びその他の教員免許の取り方について	Ⅳ-4 2
5 日本語教育副専攻科目について	Ⅳ-6 6

Ⅴ 専門教育について【理工学部】

理念と目標，教育目的，修得すべき能力	Ⅴ-1
理工学部及び各コースの学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	Ⅴ-2
1 岩手大学理工学部教育課程規則	Ⅴ-1 4
2 理工学部専門教育課程	Ⅴ-1 6

Ⅵ 専門教育について【農学部（共同獣医学科を除く）】

農学部の理念と目標，教育目的	Ⅵ-1
各学科等の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	Ⅵ-1
1 岩手大学農学部教育課程規則	Ⅵ-1 2
2 学生が修得すべき単位数	Ⅵ-1 3
3 農学部専門教育科目履修表	Ⅵ-1 4
※各学科カリキュラムマップ	

Ⅶ 農学部共同獣医学科について

1 共通教育について	Ⅶ-1
2 専門教育について	Ⅶ-6
※カリキュラムマップ	Ⅶ-1 1

Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって	Ⅷ-1
人文社会科学部	Ⅷ-2
理工学部	Ⅷ-1 1
農学部	Ⅷ-2 3
2 その他各種資格の取得に当たって	Ⅷ-2 5

Ⅸ 国際教育科目について

1 国際教育科目の理念と教育目標	Ⅸ-1
2 履修方法および開設授業科目	Ⅸ-3

X 関係法規等

1 岩手大学諸規則	
2 関係法令	

I

科目履修に当たって 知っておくべきこと

I 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 教育理念・教育目標

本学は、「教育理念」として次のことを掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨とするとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを旨とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としてしています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の教育理念・目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部に入學し、卒業するまでの4年間（農学部共同獣医学科は6年間）に教養教育科目（農学部共同獣医学科は共通教育科目）及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が27～43単位、共通教育科目が44単位、専門教育科目が82～158単位です。

また、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、更に教職教育科目を履修する必要があります。※農学部共同獣医学科では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、所期の目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部については担任教員や教務委員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、**前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日**となっています。（学則第32条）

3 本学の履修科目及び履修時期

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

- ・ **教養教育科目**（実践知科目，技法知科目，学問知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており，2年次，3年次と学年が進むにつれて減少します。

科目等の詳細については「II 教養教育について」を参照してください。

- ・ **共通教育科目**

共通教育科目は農学部共同獣医学科のみ開設しています。

科目等の詳細については「VII 農学部共同獣医学科について」を参照してください。

- ・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており，1年次には少なく，2年次，3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

※農学部共同獣医学科については「VII 農学部共同獣医学科について」を参照してください。

- ・ **教職教育科目**

各学部で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法」を参照してください。

- ・ **国際教育科目**

国際教育科目は，外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが，日本人学生も受講することができます。詳細は「IX 国際教育科目について」を参照してください。

4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修※）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

※端的には、高等学校では授業時間＝単位でしたが、大学では授業＋授業時間外の学習＝単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (農学部共同 獣医学科)	基礎ゼミナール 外国語 健康・スポーツ 実習, 演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	上記以外	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験, 実習, 実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義 (グループワークなどが行 われることもあります)	100	7	1	30
		100	14	2	60
農学部 共同獣医学科 専門教育科目	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義 (グループワークなどが 行われることもあります)	45	15	1	30
		90	15	2	60

《解説》

例えば、教養教育科目の「基礎ゼミナール」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

《授業外学修時間の算出》

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、農学部共同獣医学科は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

【農学部共同獣医学科専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15) *	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（）*の時間は遠隔講義の時のみ

7 時間割表の見方

（1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1・2年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう計画されています。

「文化科目」，「社会科目」，「自然&科学技術科目」，「環境科目」，「地域科目」は、授業時間割表の下段の選択科目欄に授業科目名が記載されているのでその中から選択してください。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟②番窓口にお問い合わせください。

（2）共同獣医学科共通教育科目

農学部共同獣医学科の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟④番窓口にお問い合わせください。

（3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟③番窓口または④番窓口にお問い合わせください。

8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するため、ポータル・シラバス・LMS等のさまざまなシステムを利用しています。

詳細は「[Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio \(アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ\)](#)」を参照してください。

9 履修の申告

学期の初めには、必ず**履修申告期間内に履修申告（授業科目の登録）をしなければなりません**。申告をしないと授業を受けることができず、単位の取得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日時等は掲示でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬（学年暦参照）に履修申告をした科目を取り消すことができます。（ただし、集中講義科目は開講日の2週間前まで）詳細は掲示でお知らせしますが、**あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません**。

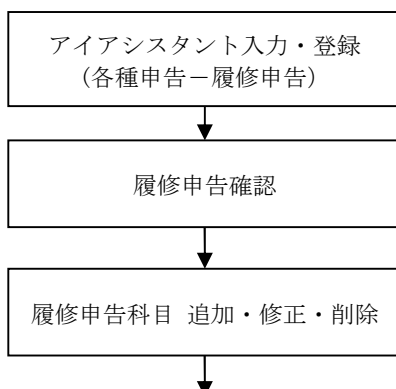
（1）履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス（講義要目）」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科（課程）・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード（アルファベットと数字の4桁）を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが異なります。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位（編入学生及び成績優秀者は28単位）までです。詳細は、「10 履修科目登録単位の上限（CAP制）」を参照してください。

（2）履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告（集中講義の申告はできません。）

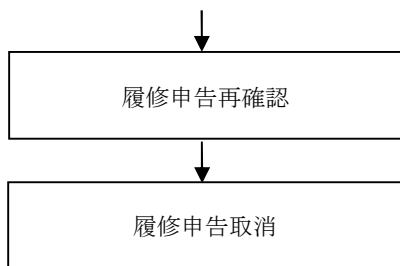


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力**してください。

履修申告結果は、指定された日に**アイアシスタントのMy時間割に表示**されます。

各自で「**時限（校時）・科目名・時間割コード**」などが**正確に登録されているか**を必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。
 なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。
 履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（X 関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、**1学期につき24単位**までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。
 ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・**教育学部学生**の履修登録単位数の上限は、**1学期につき28単位**までになる場合がある。（IV-21ページを参照）
- ・**成績優秀者及び編入学生**の履修登録単位数は、**1学期につき28単位**を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教職に関する科目、教科の指導法に関する科目（VIII参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、掲示に注意してください。

1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続が必要ですので、その都度、掲示でお知らせします。

区分	いわて高等教育コンソーシアム	
協定校	岩手大学，岩手県立大学，岩手医科大学，富士大学，盛岡大学，岩手保健医療大学，一関工業高等専門学校	
身分	特別聴講学生	
授業料等	入学料，授業料，検定料は無料 ただし，追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。	
開講科目	開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。	
出願期間	前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬	
卒業単位上限	教養教育科目	<p>教養教育科目の選択の単位として認定します。 (農学部共同獣医学科の共通教育科目は該当しません。)</p> <p>人文社会科学部：4単位まで 教育学部：2単位まで 理工学部：5単位まで 農学部：4単位まで</p>
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。詳細は、Ⅲ～Ⅶの各学部専門教育のページを参照してください。

※ 上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細は掲示でお知らせします。

1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続が必要ですので、その都度、掲示でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 ※授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

※ この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

※ 上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細は掲示でお知らせします。

※ 放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、掲示でお知らせします。

1 4 資格試験等による単位認定

本学では、資格試験で取得した資格又は本学が関わる研修において合格点を取得した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センターA棟①番窓口で年2回（1月，7月）受け付けます。
詳しくは掲示でお知らせします。

(1) 資格試験によるもの

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S-CBT	準1級	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4	4	
実用英語技能検定試験	準1級		4	4	
	1級		8	8	
TOEFL (マークシート式677点満点)	500～539点	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	
	540点以上		4	4	
TOEFL iBT (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
TOEIC	600～699点	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4級	初級ドイツ語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級ドイツ語（入門・発展）	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5級	初級フランス語（入門・発展）	2	2	
	4級	初級フランス語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級フランス語（入門・発展）	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4級	初級ロシア語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級ロシア語（入門・発展）	4	6	
		中級ロシア語	2		
HSK (漢語水平考試)	2級	初級中国語（入門・発展）	4	4	
	3級以上	初級中国語（入門・発展）	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIKⅠ (1級～2級140点以上)	初級韓国語（入門・発展）	4	4	
		TOPIKⅡ (3級～6級120点以上)	初級韓国語（入門・発展）	4	6
	中級韓国語		2		
ハングル能力検定試験	5級	初級韓国語（入門・発展）	4	4	
	4級以上	初級韓国語（入門・発展）	4	6	
		中級韓国語	2		

《備考》

- 1 認定した単位の評価は、「○合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 一の資格試験において、複数の資格を取得している場合は、上級の資格で認定する。また、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。
- 4 英語科目への認定について、複数の資格試験を取得している場合は、その中で最も上級の資格により認定する。また、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。
- 5 「再履修学生」とは、一度でも初級（入門）あるいは初級（発展）を履修した学生をいう。
- 6 TOEFLとTOEICに関しては、TOEFL-ITPとTOEIC-IPも資格試験の対象とする。

(2) 外国語研修によるもの

該 当 条 件	認定科目・単位数		認定 単位	備 考
	授 業 科 目	単 位		
外国の大学が主催する外国語研修または異文化研修で、60時間を超える研修を終え合格点（60点以上又は評価C以上）を取得（岩手大学教務委員会が承認したものに限る。）	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ，コミュニケーションの現在	2	2	認定した単位の評価は、「○合」とする。
	初級韓国語（入門・発展），コミュニケーションの現在	2	2	

※資格試験等による単位認定は、履修申告し受講している（した）授業の代わりになるものではありません。よって資格試験等による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

1.5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動として実施している「ピアサポート」，「ボランティア・チューター」，「次世代育成サポーター」または「災害ボランティア」として、それぞれ一定時間数以上の研修，活動参加後，レポートを提出し，その活動が認定された場合は，「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます。（年度1単位までとし，最大2単位まで認定されます。）ただし，卒業要件単位には含まれません。

1.6 試 験

試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは，真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって，不正行為を行った者は，訓告処分を受けるだけでなく，不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず，当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また，通年科目については，不正行為が行われた学期・科目を問わず，当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は，留年につながる厳しい処分が科せられます。

1. 教養教育

試験期間は特に設けませんので，試験については担当教員の指示に従ってください。

(1) 試験についての注意事項

- ① 受験に際しては学生証を必ず持参し，机の上に置くこと。
万一学生証を忘れたときには，仮受験証での受験が認められるが，その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟②番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には，その答案は，無効となる。
- ② 原則として，遅刻は認められない。ただし，特別の事情があった場合には，10分程度の遅刻は考慮されることがある。
- ③ 試験開始後20分間，退室は認められない。

- ④ 答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。
- ⑤ 試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。
- ⑥ 試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。
- ⑦ 試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。
- ⑧ 申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

(2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟②番窓口にお問い合わせいただけます。

- ① 負傷又は疾病 (必要添付書類…医師の診断書等)
 - ② 天災その他突発事故 (必要書類…その事由を証明する物)
 - ③ 忌引き (必要書類…死亡診断書の写し等)
 - ④ 列車等の遅延 (必要書類…遅延証明書)
 - ⑤ その他特別に事情があると認められる場合 (必要書類…その事由を証明する物)
- 願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細は掲示でお知らせします。

18 成績優秀者

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を10分の9以上得、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「20 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

19 卒業時に授与される学位

本学に4年以上（農学部共同獣医学科は6年以上）在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士（総合科学）
教育学部卒業生		学士（教育）
理工学部卒業生	化学・生命理工学科 物理・材料理工学科	学士（理工学）
	システム創成工学科	学士（工学）
農学部卒業生	植物生命科学科 応用生物化学科 森林科学科 食料生産環境学科 動物科学科	学士（農学）
	共同獣医学科	学士（獣医学）

20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）

2年次後期までの全学期に成績優秀者（「18 成績優秀者」を参照）として認定された者で、4年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究（最終試験を含む。）の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。（X 関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照）

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

21 長期履修学生制度 ※共同獣医学科の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間（最長6年まで）にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟①番窓口に申し出てください。

（申請時期：2月末日又は8月末日まで 対象：1～3年次まで）

22 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期、方法については、掲示でお知らせします。

2 3 転学科・転課程制度

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期、方法については、掲示でお知らせします。

2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいことです。

（注意事項）

本出願資格により入学する場合は、学部学生の子分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

2 5 その他

（1）大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡（例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など）は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

（2）気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報（暴風警報及び暴風雪警報に限ります。）又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、X 関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

<参考>

* 学生の修得すべき単位数 (詳細は、教養教育 (共通教育), 各専門教育のページを参照) (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		43		82	125
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	27		110~ 119	137~ 146
		中学校教育コース			107~ 116	134~ 143
		理数教育コース			110	137
		特別支援教育コース			108	135
理工学部	化学・生命理工学科		31		96	127
	物理・材料理工学科					
	システム創成工学科					
農学部	植物生命科学科		35		91	126
	応用生物化学科					
	森林科学科					
	食料生産環境学科					
	動物科学科					
	共同獣医学科					

* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

*学部学科等 (3桁)	*入学年度 (2桁)	*通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 S01 化学・生命理工学科化学コース S02 化学・生命理工学科生命コース S03 物理・材料理工学科数理・物理コース S04 物理・材料理工学科マテリアルコース S05 システム創成工学科電気電子通信コース S06 システム創成工学科知能・メディア情報コース S07 システム創成工学科機械科学コース S08 システム創成工学科社会基盤・環境コース 農学部 A01 植物生命科学科 A02 応用生物化学科 A03 森林科学科 A04 食料生産環境学科 A05 食料生産環境学科水産システム学コース A06 動物科学科 186 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2024年入学=24 編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生=22	個人を特定する番号で、3桁となります。 例： 1番=001 10番=010

(例)

「2024年度入学 植物生命科学科99番」の学生の場合は、「A0124099」であり、分解すると、「A01=学部学科等・24=入学年度・099=通番」となります。

科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのことです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などできます。

ESD (イー・エス・ディー : Education for Sustainable Development)

日本では「持続可能な開発(発展)のための教育」と訳されています。今の社会を「持続可能な社会」へ発展させていくために、必要な知識、価値観、行動、生活様式などを学ぶことです。

インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間か長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を登録できる総単位数に上限を設定しています。優秀な学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくはI-6ページを参照)

いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を取得したり、図書館を利用することができます。

集中講義

通常の授業とは別に、特定の日時に集中して行う授業です。土曜日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度掲示でお知らせします。

シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスは岩手大学ホームページから見ることができます。

GPA (ジー・ピー・エー : Grade Point Average)

個々の学生の学力を数値化したもので、学業成績点とも呼ばれています。成績を数値で表す最も共通な方法は、秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0としています。その合計点を履修した単位数で割り算した、いわゆる1単位あたりの平均点のことを言います。

JABEE (ジャビー : Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生が書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。eポートフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオも使われることもあります。

履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、掲示等によく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

1. Iⁿ Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

Iⁿ Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass (LMS) や Iⁿ Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日 (遂次) 利用するようにしてください。

<システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

iphone 等版 (App Store)



Android 版 (Google Play)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

<ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」, 「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ (初回のみ) してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配布されます。

これは、大学の端末室 (パソコン教室) のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

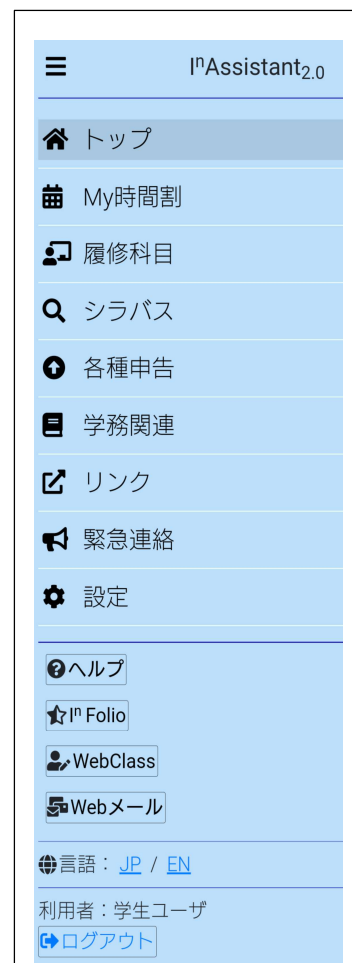
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

<トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係 (休講, 補講, 教室変更, その他), 学務部からの各種お知らせ, 呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活, 学生支援 (授業料免除や奨学金等含む), 就職, 留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



< My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

< 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

< シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

< 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格（等）の種類を登録することができます。

< 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

< リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

< 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

< 設定 >


各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass (以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配布やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

< 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの MY 時間割にある科目名か  をタップして、利用します。

時限(校時)	月	火
1	初級フランス語(入門)	
2		経済のしくみ

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。
授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

<教材>

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

<マイレポート>

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

<成績>

成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

<出席>

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

<マニュアル>

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



3. Iⁿ Folio (アイフォリオ)

Iⁿ Folio（以下「アイフォリオ」という。）は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力（学士課程共通の DP）、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

<利用>

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

<学生情報>

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

<ポリシー>

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」（以下「DP」という。）の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

DP グラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DP に対する重みづけから算出された達成量です。



<履修科目>

履修した科目について、学修状況を評価入力します。
入力しなければ、成績を見ることはできません。

<レポート>

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

<学修状況>

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

<活動内容>

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

<目標・教員からのコメント>

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

<教職ポートフォリオ>

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

<成績を見る>

自身の取得単位、成績の状況を確認することができます。

また、取得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照の上、各自で必ず確認してください（取得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、上記の各種自己評価を入力する必要があります。

大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールのお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

Ⅱ

教養教育について

(農学部共同獣医学科を除く)

Ⅱ 教養教育について (農学部共同獣医学科を除く)

1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「世界や地域で活躍できる人材を育成する上で必要となる多様な学問領域の基礎的知識及び基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力、地域の発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観並びにコミュニケーション能力を涵養する」ことをその理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は岩手大学の全ての教員の関心・責任・協力のもとに実施されています。教養教育科目は、「実践知科目」、「技法知科目」及び「学問知科目」によって構成されています。

2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

教養教育の教育目的及び修得すべき能力

<教育目的>

岩手大学は、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供し、それぞれの学生が所属する学部にかかわらず、多様な学問領域の基礎的知識と基本的思考方法を修得するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会や文化の持続的発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観、並びに多様な人びとと協働するためのコミュニケーション能力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

教養教育では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを旨とする。

- (1) 自らの意欲や関心にに基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見し、それを探究し解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要な母語と外国語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力

各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

A 実践知科目

<教育目的>

「実践知科目」は、技法知・学問知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践化することを目的とする。

<修得すべき能力>

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを旨とする。

- (1) 技法知・学問知科目で得た知識や情報を利用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

1. 転換教育科目

<教育目的>

「転換教育科目」は、初年次教育のイントロダクションとなる教育プログラムであり、新入生が高等学校までの受動的な学習態度や生活のあり方を転換し、大学における能動的な学習スタイルや大学での新しい生活環境に支障なく速やかに適し、自ら主体的に学ぶ力を身につけることや社会的規範・倫理を学ぶことを目的とする。

<修得すべき能力>

「転換教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを旨とする。

- (1) 基本的なアカデミックスキル
- (2) 学習計画を立案する能力と教育資源を有効に活用する能力
- (3) コミュニケーション能力と社会的倫理観

・基礎ゼミナール

<教育目的>

「基礎ゼミナール」は、オリエンテーション、ゼミナール及び教室外活動を通じて、高校時代の教育環境とは質的に異なる大学における学習スタイルや生活環境に新入生が支障なく適合でき、大学における学びに必要なアカデミックスキルを修得することを目的とする。加えて、地域について現状を知り理解を深めることを目的とする。

<修得すべき能力>

「基礎ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自己の表現力やプレゼンテーション能力
- (2) 自主的な学習態度や学習への積極的な意欲
- (3) 論理的に思考し、自ら課題を探求するために必要な基礎的能力
- (4) 図書館や情報検索等の学習資源を有効に活用する能力
- (5) 地域の現状を積極的に知り理解しようとする意欲

2. 地域関連科目

<教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に応じて地域の課題解決に取り組む実践能力

・地域課題演習科目

<教育目的>

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部の枠を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

B 技法知科目

<教育目的>

「技法知科目」は、①外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、②健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

<修得すべき能力>

「技法知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

1. 外国語科目

・英語

<教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身に付けさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集したり、情報発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションの在り方について認識を深めさせることも目的とする。

<修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身に付けていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの復習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の基礎力を既に身に付けている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

・英語以外の外国語

<教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、④外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 4級
 - ・実用フランス語技能検定試験 4級
 - ・ロシア語能力検定試験 4級
 - ・中国語検定試験 4級
 - ・漢語水平考試 (HSK) 3級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK I (1~2級 140点以上)
 - ・ハングル能力検定試験 5級
- (2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
 - ・ドイツ語技能検定試験 3級
 - ・実用フランス語技能検定試験 3級
 - ・ロシア語能力検定試験 3級
 - ・中国語検定試験 3級
 - ・漢語水平考試 (HSK) 4級
 - ・韓国語能力試験 TOPIK II (3~6級 120点以上)
 - ・ハングル能力検定試験 4級
- (2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

・日本語

<教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

<修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力
- (2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

2. 健康・スポーツ科目

<教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
- (2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力
- (3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを実践する能力

3. 情報科目

<教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

<修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

C 学問知科目

<教育目的>

「学問知科目」は、在学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、専門を深める上で必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「学問知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 多様な価値観を受け入れることができる能力
- (3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力
- (4) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

1. 文化科目

<教育目的>

「文化」は、人文科学における各学問分野の観点から、多様な文化がそれぞれどのように形成され、人間にとってどのような意味や機能（はたらき）をこれまでもってきたか、そして現在もっているかを理解し、また人間の心に関する諸問題を理解することを目的とする。

<修得すべき能力>

「文化」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や人間の心について多角的に分析・把握できる能力
- (2) 各種の文化や人間の心についての諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力

2. 社会科目

<教育目的>

「社会」は、社会で生じている様々な問題を社会科学の各学問分野の視点から取り上げることによって、問題の背後にある諸要因やそこに働いている論理を理解するとともに、それら問題が私たち一人ひとりにとって持つ意味

を理解することを目的とする。

<修得すべき能力>

「社会」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 社会問題が生じている基本的背景を多面的・総合的に分析・把握できる能力
- (2) 社会問題に対する諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力

3. 自然&科学技術科目

<教育目的>

「自然&科学技術」は、身の回りの自然科学や、暮らしと関係する科学技術における各分野の視点から、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、専門を深めるうえで必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。

<修得すべき能力>

「自然&科学技術」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門的知識に基づく考え方ができる能力

4. 環境科目

<教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

5. 地域科目

<教育目的>

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

<修得すべき能力>

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを旨す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

同一授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

A 実践知科目

(1) 転換教育科目の開設授業科目及び履修方法等

表 I a

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
基礎ゼミナール	1	1	1年次対象

－履修年次－

1年次に履修すること。

また、学部毎にガイダンス、クラス分け等を行っているの、注意すること（掲示により確認すること）。

(注) 1. 全学部とも基礎ゼミナール（1単位）は、1年次前期に必ず修得すること。

(2) 地域課題演習科目（地域関連科目）の開設授業科目及び履修方法等

表 I b

授 業 科 目	単位数	週時限数
地域マネジメント課題演習	2	1
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1

(注) 1. 地域課題演習科目（2単位）は、人数制限があるので注意すること。

B 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開設授業科目及び履修方法等

表 I c-1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合Ⅰ（上級）	1	1	初級ロシア語（入門）	1	1
英語総合Ⅱ（上級）	1	1	初級ロシア語（発展）	1	1
英語総合Ⅰ（中級）	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合Ⅱ（中級）	1	1	初級中国語（入門）	1	1
英語総合Ⅰ（初級）	1	1	初級中国語（発展）	1	1
英語総合Ⅱ（初級）	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーションⅠ（上級）	1	1	初級韓国語（入門）	1	1
英語コミュニケーションⅡ（上級）	1	1	初級韓国語（発展）	1	1
英語コミュニケーションⅠ（中級）	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーションⅡ（中級）	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーションⅠ（初級）	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーションⅡ（初級）	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語（入門）	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語（発展）	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語（入門）	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語（発展）	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

—履修年次—

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。
また、クラス分けを行っているので、注意すること（掲示により確認すること）。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。
2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。
3. 英語総合Ⅰ・Ⅱは「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱは「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。
4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。
5. 英語以外の外国語は、初級（入門）、初級（発展）の順に履修すること。
ただし、集中型（入門と発展を併せて週4回行う。）の授業の場合は、同時に履修すること。
6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。
7. 外国人留学生は、第一言語（母語）を履修できない。
8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。
9. 「英語」については、上記のほか表I c-2のとおり開設授業科目がある。

表I c-2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展E (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展F (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展G (科学英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展H (科学英語)	1	1	2年次以上対象

—履修年次—

「英語発展」は2年次以上に履修すること。
なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。
2. 英語発展A～Hに履修の順番はない。ただし、英語発展C・D (TOEIC 中級) の単位を修得した場合、英語発展A・B (TOEIC 初級) を履修することはできない。(1学期で英語発展C・D (TOEIC 中級) と英語発展A・B (TOEIC 初級) を同時に履修することはできない。)
3. 英語発展A (TOEIC 初級) 及び英語発展B (TOEIC 初級) は、TOEIC スコア 500 点を到達目標とした授業である。
英語発展C (TOEIC 中級) 及び英語発展D (TOEIC 中級) は、TOEIC スコア 600 点を到達目標とした授業である。
英語発展E (実践英語) 及び英語発展F (実践英語) は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。
英語発展G (科学英語) 及び英語発展H (科学英語) は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開設授業科目及び履修方法等

表 I d

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

—履修年次—

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。健康・スポーツC (シーズン) は集中して行う。

- (注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位) は必ず修得すること。健康・スポーツ科目が2単位必修の学部 (人文社会科学部, 教育学部, 農学部) は、健康・スポーツAに加えて健康・スポーツBを修得することが望ましい。
2. 健康・スポーツC (シーズン) は、「雪上のスポーツ」, 「氷上のスポーツ」から1つ修得できる。
3. 健康・スポーツB (理工学部対象) と健康・スポーツC (シーズン) は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開設授業科目及び履修方法等

表 I e (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎	2	1	機器の操作含む

—履修年次—

1年次前期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること (時間割及び掲示により確認すること) 。

- (注) 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合があります。

C 学問知科目

(1) 「文化科目」の開設授業科目等
表 I f

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
哲学の世界	2	1	アジアの歴史と文化	2	1
倫理学の世界	2	1	欧米の歴史と文化	2	1
日本の思想と文化	2	1	ジェンダーの歴史と文化	2	1
アジアの思想と文化	2	1	女性と科学の関係史	2	1
欧米の思想と文化	2	1	大学の歴史と現在	2	1
心の理解	2	1	岩手大学ミュージアム学	2	1
日本の文学	2	1	日本語表現技術入門	2	1
言葉の世界	2	1	図書館への招待	2	1
中国の文学	2	1	コミュニケーションの現在	2	1
欧米の文学	2	1	英語で学ぶ日本の文化	2	1
欧米の言語論	2	1	日本事情A	2	1
芸術の世界	2	1	日本事情B	2	1
日本の歴史と文化	2	1	心と表象	2	1

(2) 「社会科目」の開設授業科目等
表 I g

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
市民生活と法	2	1	対人関係の心理学	2	1
憲法	2	1	知的財産入門	2	集中
経済のしくみ	2	1	知財ワークショップ	2	集中
現代社会と経済	2	1	キャリアを考える	2	1
市民と政治	2	1	多文化コミュニケーションA	2	1
現代政治を見る眼	2	1	多文化コミュニケーションB	2	1
社会的人間論	2	1	ボランティアとリーダーシップ	2	集中
現代社会の社会学	2	1	公共社会	2	1
地域と生活	2	1	現代の諸問題	2	1
地域と社会	2	1	キャリアデザイン実践	2	集中

(3) 「自然&科学技術科目」の開設授業科目等
表 I h

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
科学と技術の歴史	2	1	物質の世界	2	1
自然のしくみ	2	1	自然と法則	2	1
自然と数理	2	1	くらしと科学技術	2	1
数理のひろがり	2	1	自然と数理の世界	2	1
生命のしくみ	2	1	自然の科学	2	1
宇宙のしくみ	2	1	科学技術	2	1

(4) 「環境科目」の開設授業科目等

表 I i

授 業 科 目	単位数	週時限数
「環境」を考える	2	1
生活と環境	2	1
都市と環境	2	1
地球環境と社会	2	1
水と環境	2	1
廃棄物と環境	2	1
植物栽培と環境テクノロジー	2	1
森林と環境	2	1
動物と環境	2	1
人の暮らしと生物環境	2	1
環境の科学	2	1

—履修年次—

環境科目は全学部とも1年次後期に履修すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること（前期末の掲示により確認すること）。

(注) 農学部生が必修のほか選択として履修する場合は、2年次後期以降に履修すること。

(5) 「地域科目（地域関連科目）」の開設授業科目等

表 I j

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創入門	2	1
岩手の研究	2	1	社会連携学A	2	1
環境マネジメント実践学	2	1	社会連携学B	2	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創A	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創B	1	1
持続可能なコミュニティづくり実践学	2	1	地域協創C	1	集中
地元の企業に学ぶESD	2	1	地域協創D	1	集中
地場産業・企業論	2	集中	地域協創E	1	1
三陸の研究	2	1	地域協創F	1	1
自然災害と社会	2	1			
東北の歴史	2	1			
地域を考える	2	1			
地域と国際社会	2	1			
海外研修—世界から地域を考える—	2	集中			

4 選択について

必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、外国語科目（英語発展）、文化、社会、自然&科学技術、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）（農学部のみ「環境科目」を含む）を選択に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については選択のなかに取り入れることができます。

なお、選択の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考:開設授業科目要件区分/標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
実践知 科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1	必修	1 前	学部毎にクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
	技法知 科目	英語	英語総合 I (初級)	1	必修	1
英語総合 I (中級)			1	必修	1	
英語総合 I (上級)			1	必修	1	
英語総合 II (初級)			1	必修	1	
英語総合 II (中級)			1	必修	1	
英語総合 II (上級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション I (初級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション I (中級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション I (上級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション II (初級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション II (中級)			1	必修	1	
英語コミュニケーション II (上級)			1	必修	1	
英語発展A (TOEIC 初級)			1	選択	2	
英語発展B (TOEIC 初級)			1	選択	2	
英語発展C (TOEIC 中級)			1	選択	2	
英語発展D (TOEIC 中級)			1	選択	2	
英語発展E (実践英語)			1	選択	2	
英語発展F (実践英語)		1	選択	2		
英語発展G (科学英語)		1	選択	2		
英語発展H (科学英語)		1	選択	2		
英語以外		初級ドイツ語(入門)	1	必修	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
		初級ドイツ語(発展)	1	必修	1	
		中級ドイツ語	1	必修	1 後	
		初級フランス語(入門)	1	必修	1	
		初級フランス語(発展)	1	必修	1	
		中級フランス語	1	必修	1 後	
		初級ロシア語(入門)	1	必修	1	
		初級ロシア語(発展)	1	必修	1	
		中級ロシア語	1	必修	1 後	
		初級中国語(入門)	1	必修	1	
		初級中国語(発展)	1	必修	1	
		中級中国語	1	必修	1 後	
		初級韓国語(入門)	1	必修	1	
		初級韓国語(発展)	1	必修	1	
		中級韓国語	1	必修	1 後	
		上級日本語A	1	必修	1 前	
		上級日本語B	1	必修	1 前	
上級日本語C	1	必修	1 前			
上級日本語D	1	必修	1 前			
上級日本語E	1	必修	1 後			
上級日本語F	1	必修	1 後			
上級日本語G	1	必修	1 後			
上級日本語H	1	必修	1 後			
健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前		
	健康・スポーツB	1	必修/選択	1 後		
	健康・スポーツC(シーズン)	※ 1	必修/選択	1 後		
情報科目	情報基礎	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)	
学問知 科目	文化科目	哲学の世界	2	必修/選択	1・2	
		倫理学の世界	2	必修/選択	1・2	
		日本の思想と文化	2	必修/選択	1・2	
		アジアの思想と文化	2	必修/選択	1・2	
		欧米の思想と文化	2	必修/選択	1・2	
		日本の歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		アジアの歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		欧米の歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		ジェンダーの歴史と文化	2	必修/選択	1・2	
		女性と科学の関係史	2	必修/選択	1・2	
		大学の歴史と現在	2	必修/選択	1・2	
		岩手大学ミュージアム学	2	必修/選択	1・2	
		心の理解	2	必修/選択	1・2	
		日本の文学	2	必修/選択	1・2	
		言葉の世界	2	必修/選択	1・2	
		中国の文学	2	必修/選択	1・2	
		欧米の文学	2	必修/選択	1・2	
		欧米の言語論	2	必修/選択	1・2	
		芸術の世界	2	必修/選択	1・2	
		日本語表現技術入門	2	必修/選択	1・2	
		図書館への招待	2	必修/選択	1・2	
		コミュニケーションの現在	2	必修/選択	1・2	
		心と表象	2	必修/選択	1・2	
		日本事情A	2	必修/選択	1・2	
		日本事情B	2	必修/選択	1・2	
		英語で学ぶ日本の文化	2	必修/選択	1・2	

履修区分	科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考	
学問知 科目	社会科目	市民生活と法	2	必修/選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。
		憲法	2	必修/選択	1・2	
		経済のしくみ	2	必修/選択	1・2	
		現代社会と経済	2	必修/選択	1・2	
		市民と政治	2	必修/選択	1・2	
		現代政治を見る眼	2	必修/選択	1・2	
		社会的人間論	2	必修/選択	1・2	
		現代社会の社会学	2	必修/選択	1・2	
		地域と生活	2	必修/選択	1・2	
		地域と社会	2	必修/選択	1・2	
		対人関係の心理学	2	必修/選択	1・2	
		知的財産入門 ※	2	必修/選択	1・2	
		知財ワークショップ ※	2	必修/選択	1・2	
		キャリアを考える	2	必修/選択	1・2	
		ボランティアとリーダーシップ ※	2	必修/選択	1・2	
		現代の諸問題	2	必修/選択	1・2	
公共社会	2	必修/選択	1・2			
多文化コミュニケーションA	2	必修/選択	1・2			
多文化コミュニケーションB	2	必修/選択	1・2			
キャリアデザイン実践	2	必修/選択	1・2			
学問知 科目	自然&科学技術 科目	生命のしくみ	2	必修/選択	1・2	前期末に行う履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
		自然のしくみ	2	必修/選択	1・2	
		自然と数理	2	必修/選択	1・2	
		数理のひろがり	2	必修/選択	1・2	
		宇宙のしくみ	2	必修/選択	1・2	
		物質の世界	2	必修/選択	1・2	
		自然と法則	2	必修/選択	1・2	
		自然と数理の世界	2	必修/選択	1・2	
		自然の科学	2	必修/選択	1・2	
		科学と技術の歴史	2	必修/選択	1・2	
		くらしと科学技術	2	必修/選択	1・2	
		科学技術	2	必修/選択	1・2	
	環境科目	「環境」を考える	2	必修/選択	1後・2後	
		生活と環境	2	必修/選択	1後・2後	
		都市と環境	2	必修/選択	1後・2後	
		地球環境と社会	2	必修/選択	1後・2後	
		水と環境	2	必修/選択	1後・2後	
		廃棄物と環境	2	必修/選択	1後・2後	
		植物栽培と環境テクノロジー	2	必修/選択	1後・2後	
		森林と環境	2	必修/選択	1後・2後	
		動物と環境	2	必修/選択	1後・2後	
		人の暮らしと生物環境	2	必修/選択	1後・2後	
		環境の科学	2	必修/選択	1後・2後	
		学問知 科目	地域関連 科目	現代社会をみる視角	2	
岩手の研究	2			必修/選択	1・2	
環境マネジメント実践学	2			必修/選択	1・2	
宮次賢治の世界	2			必修/選択	1・2	
危機管理と復興 ※	2			必修/選択	1・2	
持続可能なコミュニティづくり実践学	2			必修/選択	1・2	
地元の企業に学ぶESD	2			必修/選択	1・2	
地場産業、企業論 ※	2			必修/選択	1・2	
三陸の研究	2			必修/選択	1・2	
自然災害と社会	2			必修/選択	1・2	
東北の歴史	2			必修/選択	1・2	
地域を考える	2			必修/選択	1・2	
地域と国際社会	2		必修/選択	1・2		
海外研修－世界から地域を考える－ ※	2		必修/選択	1・2		
地域協創入門	2		必修/選択	1・2		
社会連携学A	2		必修/選択	1・2		
社会連携学B	2		必修/選択	1・2		
地域協創A	1		必修/選択	1・2		
地域協創B	1		必修/選択	1・2		
地域協創C	1		必修/選択	1・2		
地域協創D ※	1		必修/選択	1・2		
地域協創E	1		必修/選択	1・2		
地域協創F	1		必修/選択	1・2		
実践知 科目	地域課題 演習科目		地域マネジメント課題演習	2	必修/選択	1・2
		地域防災課題演習	2	必修/選択	1・2	
		地域グローバル課題演習	2	必修/選択	1・2	
		地域クリエイト課題演習	2	必修/選択	1・2	

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の※印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

5 各学部の履修単位数及び履修方法

人文社会科学部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ a 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				人文社会科学部			
				必修 単位	選択		
		上限	単位				
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		10 IV参照	
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1			
	技法知科目	外国語科目	英語	8	2		
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目		2	1		
	情報科目		2				
	技法知科目修得単位数計			12			
	学問知科目	文化科目		6	4		
		社会科目		6	4		
		自然&科学技術科目		4	4		
		環境科目		2			
	実践知科目	地域関連科目	地域科目	2	2		
			地域課題演習科目		4		
学問知科目・実践知科目取得単位合計数			20				
教養教育科目修得単位数計			43				

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（12単位）
 必修単位（12単位）

① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）

英語、英語以外の外国語を次の a～c のいずれか1つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語8単位

英語総合 I・II を各2単位、英語コミュニケーション I・II を各2単位、計8単位

b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位

英語総合 I・II を各1単位、英語コミュニケーション I・II を各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位、合計8単位

c. 英語以外の外国語8単位

1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、中級を4単位、計8単位

- ② 健康・スポーツ科目
 - i 健康・スポーツA（1単位）は必ず修得すること。
 - ii 健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。
 - iii 健康・スポーツC（シーズン）は、「雪上のスポーツ」，「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があるので注意すること。
- ③ 情報科目
 - 情報基礎（2単位）を修得すること。

Ⅲ 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（20単位）

必修単位（20単位）

- ① 「文化科目」から6単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から6単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から4単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※Ⅳ 選択（10単位）

次の区分から10単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- ③ 「文化科目」（4単位まで）
- ④ 「社会科目」（4単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術科目」（4単位まで）
- ⑥ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域課題演習科目」（4単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」，「環境科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「社会科目」で**憲法2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
 また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
 なお、人文社会科学部の学生は、前期末に行う外国語科目の変更希望調査により、後期に履修する決定語学の変更を許可される場合がある。ただし、決定語学の変更は、1年次だけに認められ、2年次以降の変更はできないので、変更の手続きについては掲示を確認すること。

教育学部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ b 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				教 育 学 部		
				必修 単位	選択	
		上限	単位			
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		2 IV参照
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1		
	技法知科目	外国語科目	英語	4	2	
			英語以外	4		
		日本語				
		健康・スポーツ科目		2	1	
	情報科目		2			
	技法知科目修得単位数計			1 2		
	学問知科目	文化科目		2	2	
		社会科目		4	2	
		自然&科学技術科目		2	2	
		環境科目		2		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目	2	2	
			地域課題演習科目		2	
学問知科目・実践知科目取得単位数合計			1 2			
教養教育科目修得単位数計				2 7		

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（1 2単位）
 必修単位（1 2単位）

① 外国語科目（英語）

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位を修得すること。

② 外国語科目（英語以外の外国語）

1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位を修得すること。

③ 健康・スポーツ科目

i 健康・スポーツA（1単位）は必ず修得すること。

ii 健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。

iii 健康・スポーツC（シーズン）は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があるので注意すること。

- ④ 情報科目
情報基礎（2単位）を修得すること。

Ⅲ 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（12単位）

1. 必修単位（12単位）

- ① 「文化科目」から2単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から憲法（2単位）を含む4単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※Ⅳ 選択（2単位）

次の区分から2単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- ③ 「文化科目」（2単位まで）
- ④ 「社会科目」（憲法を除く）（2単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術」（2単位まで）
- ⑥ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域課題演習科目」（2単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」，「環境科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 3 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

理 工 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱc 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				理 工 学 部			
				必修 単位	選択		
					上限	単位	
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		5 IV参照	
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1			
	技法知科目	外国語科目	英語	8	2		
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目		1	1		
		情報科目		2			
	技法知科目修得単位数計			11			
	学問知科目	文化科目		4	2		
		社会科目		4	2		
		自然&科学技術科目		2	2		
		環境科目		2			
		実践知科目	地域関連科目	地域科目	2		2
	地域課題演習科目			2			
	学問知科目・実践知科目取得単位数合計			14			
教養教育科目修得単位数計			31				

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（11単位）
 必修単位（11単位）

- ① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）
 英語、英語以外の外国語を次のa～bのどちらか1つの履修形態を選択し修得すること。
 a. 英語8単位
 英語総合Ⅰ・Ⅱを各2単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各2単位、計8単位
 b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位
 英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位、合計8単位
- ② 健康・スポーツ科目（1単位）
 健康・スポーツA（1単位）を修得すること。
- ③ 情報科目
 情報基礎（2単位）を修得すること。

Ⅲ 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（14単位）

1. 必修単位

- ① 「文化科目」から4単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から4単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」，「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※Ⅳ 選択（5単位）

次の区分から5単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。
また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
健康・スポーツB，健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- ③ 「文化科目」（2単位まで）
- ④ 「社会科目」（2単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術科目」（2単位まで）
- ⑥ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域課題演習科目」（2単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」，「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」，「環境科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また，「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「社会科目」で**憲法2単位，健康・スポーツ科目2単位修得**する必要があるので注意すること。（詳細については、オリエンテーション等で説明する。）
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。決定語学は変更できない。

農 学 部（共同獣医学科を除く）

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ d 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				農 学 部			
				必修 単位	選択		
					上限	単位	
教 養 教 育 科 目	実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1		4 IV参照	
	実践知科目（転換教育科目）修得単位数計			1			
	技法知科目	外国語科目	英語	8	2		
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	2	1			
		情報科目		2			
	技法知科目修得単位数計			12			
	学問知科目	文化科目		6	2		
		社会科目		6	2		
		自然&科学技術科目		2	2		
		環境科目		2	2		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目	2	2		
			地域課題演習科目		2		
学問知科目・実践知科目取得単位合計数			18				
教養教育科目修得単位数計				35			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
 2. 選択の上限欄の数字は上限単位数を表す。
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

I 実践知科目（転換教育科目）（1単位）
 必修単位（1単位）
 基礎ゼミナール（1単位）を修得すること。

II 技法知科目（12単位）
 必修単位（12単位）

① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか1つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各2単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各2単位、計8単位

b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、計4単位、合計8単位

② 健康・スポーツ科目（2単位）

i. 健康・スポーツA（1単位）は必ず修得すること。

ii. 健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。

iii. 健康・スポーツC（シーズン）は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があるので注意すること。

- ③ 情報科目
情報基礎（2単位）を修得すること。

III 学問知科目及び実践知科目（基礎ゼミナールを除く）（18単位） 必修単位（18単位）

- ① 「文化科目」から6単位を修得すること。
- ② 「社会科目」から6単位を修得すること。
- ③ 「自然&科学技術科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「地域科目」, 「地域課題演習科目」から2単位を修得すること。

※IV 選択（4単位）

次の区分から4単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。
また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- ③ 「文化科目」（2単位まで）
- ④ 「社会科目」（2単位まで）
- ⑤ 「自然&科学技術科目」（2単位まで）
- ⑥ 「環境科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域科目」（2単位まで）
- ⑧ 「地域課題演習科目」（2単位まで）

—履修上の注意事項—

- 1 「実践知科目（転換教育科目）」, 「外国語科目」, 「情報科目」, 「健康・スポーツ科目」, 「環境科目（選択分の環境科目は2年次以降で履修）」は1年次に、それぞれ決められた時間帯に履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「社会科目」で**憲法2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。
なお、同一授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

Ⅲ

専門教育について

人文社会科学部

人文社会科学部学生の皆さんへ

皆さんの科目履修については、この「履修の手引き」に全て記載してありますので、関係する部分をよく読んでください。

本手引きの記載内容に変更等ある場合は、その都度、アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

【教養教育科目の履修】

Ⅱ - 13～Ⅱ - 14 に書いてある単位を修得してください。

【専門教育科目の履修】

下記の順に掲載しています。

1. 人文社会科学部の理念・目的
2. 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針
3. 人文社会科学部教育課程規則
4. 人文社会科学部教育課程履修細則
5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について
6. 人間文化課程 科目等一覧
7. 地域政策課程 科目等一覧
8. 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧
9. 取得可能な資格等について

【教育職員免許状等の取得について】

中学校教諭（一種），高等学校教諭（一種）の免許等の取得が可能です。

履修すべき単位数や免許等取得の条件等については、本手引きで確認してください。

ガイダンス等は全てアイアシスタント及び掲示板でお知らせしますので、日頃から注意してください。

【学生センター相談窓口】

教養教育科目に関すること＝学生センター②窓口

専門教育科目・教員免許や学芸員等資格取得に関すること＝学生センター③窓口

※人文社会科学部HPにプログラムごとの履修のながれを示しています。

<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/>

1. 人文社会科学部の理念・目的

◆理念と目標

*理念

岩手大学人文社会科学部は、教育研究における「総合化」と「専門深化」をともに追究する。その実現のため、人文社会諸科学と芸術文化に関する総合的教育研究を、自然科学との連携のもとに行い、地域社会および国際社会の持続的発展に貢献する。

*教育目標

人文社会科学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性、複雑化・高度化が進む現代社会に対応することができる総合的な知見・思考力・判断力、および広い国際的視野を育むための教育を行う。

カリキュラムにおいて、教養教育と専門教育との有機的な連携、および専門教育における人文社会諸科学・芸術文化と自然科学との密接な連携を図り、教育における「総合化と専門深化」の実現をめざす。

*研究目標

人文社会科学部は、グローバル化が進む現代社会の諸問題を解明・解決し、地域社会に暮らす人々の生活に貢献することを目的として、以下の視点から独創的で多面的・総合的な研究を行う。

- (1) 固有の文化を育み、それを歴史的に継承してきた地域社会と、そこに暮らす人々の行動の特徴
- (2) グローバル化が地域社会に及ぼす影響
- (3) 地域における社会システム・環境システムの特徴

*社会貢献目標

人文社会科学部は、地域社会が抱える諸課題を自らの課題として、これらに積極的に対応し、研究成果の地域還元や地域に対する社会教育・芸術活動を通じて地域社会に貢献する。さらに、教育研究活動の場を広げることによって、国際社会に貢献する。

◆教育目的

人文社会科学部は、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材を養成することを目的とする。

◆修得すべき能力

人文社会科学部は、その教育プログラムを通して、学生が次のような能力を獲得することを目指している。

- (1) 分野にとらわれず、幅広く深く学ぶ能力
- (2) 人間・文化・社会・環境を、現象だけにとらわれず、それぞれの本質的視点から分析し、それらを総合し、判断する能力
- (3) 地域社会および国際社会のなかで、学び、考え、行動するために必要なコミュニケーション能力

◆課程の教育目的

人間文化課程では、固有文化を育み歴史的に継承されてきた地域社会と、そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し、グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の健やかな生活に貢献できる人材、および地域文化を世界に向けて発信できる人材の養成を目的とする。

地域政策課程では、震災復興から、未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え、地域創生・地域マネジメントの課題に、法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら、総合的視点から取り組むことのできる人材の養成を目的とする。

2. 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは，学生が修得すべき学修の成果を示したもので，端的に言えば，学生が本学部卒業（＝学位授与）までに身に着けるべき知識や能力等です。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は，卒業認定・学位授与の方針実現のために，教育課程（カリキュラム）をどのように編成し，実施するかを示したものです。

本学部では，本学の学位授与の方針に基づき，学部および専修プログラムの卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針を定めています。学修を進めるうえで，本学部卒業までに身に着けることができる知識・能力等を知り，その知識・能力等獲得のために，どのように学修内容が定められているのかを理解することは，皆さんの夢の実現への近道となることでしょう。

自立的な学修の第一歩として，卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針をよく読んで，学修に取り組んでください。

〈学 部〉

卒業認定・学位授与の方針

人文社会科学部では，教養教育を重視しつつ「総合化と専門深化」の教育理念に基づき，現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し，地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的としており，所定の教育課程を学修し，以下に示す能力を修得した者に「学士（総合科学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 教養教育により幅広い分野の知識を修得している。
2. 人間・文化・社会・環境について，教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし，専門的な知識と理解を有するとともに，総合的・学際的な広い視野を有している。

（思考・判断）

3. 総合的な学修を活かし，変化が著しく複雑化する現代社会に対応できる柔軟な思考力と的確な判断力を有している。

（技能・表現）

4. グローバル化が進む社会において，多様な考え方，異質なものを理解するとともに，自らの見解・成果を的確に表現し，発信できる高いコミュニケーション能力を有している。

（関心・意欲・態度）

5. 地域社会・国際社会の諸課題に実践を通して取り組み，貢献しようとする積極的姿勢と高い倫理性を有している。

教育課程編成・実施の方針

人文社会科学部では，「総合化と専門深化」の教育理念に基づき，現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し，地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を教育目的としている。

この目的を達成するために，教養教育で得た多様な学問領域の基礎的知識および基本的思考力，幅広く深い教養と総合的な判断力等を踏まえ，卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき，専門教育科目を「学部共通科目」，「課程科目」，「専修プログラム科目」の3つのカテゴリーに分け，体系的な教育課程を編成する。

教育課程の特色として、学部共通科目の1～2年次必修科目に「総合科学基礎」、高年次必修科目に「総合科学論」を配置し、諸学問のあり方を規定する方法論および諸研究が学際的に取り組む現代の重要課題を学修し、自らの学修の学問的特性や位置づけに対する理解を深める。また、多様な学修成果、能力の養成を可能とする主・副専修プログラムを設けることで、専門性の強化および総合的・複眼的視野の充実を図るだけでなく、地域の諸課題に柔軟に対応できる思考力・判断力と、その解決に必要なコミュニケーション能力を育成する。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い分野の知識等修得のために、教養教育を必修とする。
2. 総合的・学際的視野を養うために、総合科学論、他課程科目および主・副専修プログラムの修得を必修とする。

(思考判断)

3. 柔軟な思考力と的確な判断力を養うために、1つ以上の副専修プログラムの修得を必修とする。

(技能・表現)

4. 基礎的語学力および多様な考え方を理解し、自分の考えを表現する力を養うために、教養教育の外国語科目および1つ以上の副専修プログラム修得を必修とし、学部共通科目に「課題解決型国際研修」を置く。

(関心・意欲・態度)

5. 諸課題に積極的に取り組み、貢献しようとする態度および高い倫理観を養うために、教養教育科目の「地域関連科目」を必修とし、「課題解決型国際研修」を置く。

〈人間文化課程 専修プログラム〉

行動科学専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

行動科学専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と社会的側面から総合的に理解し、情報科学的素養と人間学的素養をもって、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 心理学、社会学を中心とした行動科学的なアプローチから得られた人間行動に関する知識を幅広く身につけており、人間行動を総合的・多元的に理解することができる。

(思考・判断)

2. 人間行動をめぐる諸問題に適切に対処するための情報分析能力やコミュニケーション能力を身につけている。
3. 人間行動に関する専門的な知識等を活用して、現実の問題解決に向けてアプローチでき、地域社会に積極的な提案を行うことができる。

(技能・表現)

4. 現代社会に生きる人々が新たに直面する事象を、自らの力で理解し判断する自発的課題探求力を身につけている。
5. 発表や討論を通じてのコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得している。

6. 経験（実習・実験）を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるスキルを修得している。

（関心・意欲）

7. 専門分野の学問内容、最新の研究成果、動向等について興味・関心を持っている。

8. 専門性を活かして、社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

9. 人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処できる。

行動科学専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

行動科学専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と社会的側面から総合的に理解し、情報科学的素養と人間学的素養をもって、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1. 心理学、社会学を中心とした行動科学的なアプローチから得られた人間行動に関する知識を幅広く身につけ、人間行動について総合的・多角的に理解できるようにするために、2年次には、プログラム基礎科目として、心理学、社会学、情報科学、人間学の各専門分野の基本的な講義科目、3・4年次には、プログラム展開科目として各学問分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。さらに、人間行動の理解に関わる専門分野に通底する学際的な方法論を理解するための科目として「行動科学方法論（心理学研究法）」を配置する。

（思考・判断）

2. 情報分析能力を身につけるために、基礎科目として基礎的および実践・応用的な統計科目と「社会調査法」（1年次）、「社会調査実習」（2年次）があり、コミュニケーション能力の涵養をはかるために、心理学、社会学、情報科学、人間学の各専門分野の演習科目、「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（3年次）、「特別研究」（4年次）を配置する。

3. 現実の問題解決に向けてアプローチでき、地域社会に積極的な提案を行うことができるようにするために、「社会調査実習」（2年次）、「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（3年次）、「特別研究」（4年次）を配置する。

（技能・表現）

4. 現代社会に生きる人々が新たに直面する事象を、自らの力で理解し判断する自発的課題探求力を身につけるために、展開科目として各専門分野の演習科目、プログラム基礎科目の「社会調査実習」（2年次）、「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（3年次）、「特別研究」（4年次）を配置する。

5. 発表や討論を通じてのコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得できるようにするために、展開科目として各専門分野の演習科目、「社会調査実習」（2年次）、「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（3年次）、そして「特別研究」（4年次）を配置する。

6. 経験（実習・実験）を通じたチームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるスキルを修得させるために、2年次の基礎科目として「社会調査実習」を配置する。

（関心・意欲）

7. 専門分野の学問内容に興味を抱かせるために、2年次のプログラム基礎科目として、心理学、社会学、情報科学、人間学の基本的な講義科目が配置されている。また、最新の研究成果・動向等につい

て興味・関心を持たせるために、プログラム展開科目では各専門分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。研究成果を報告し議論する「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次）もまた専門分野への関心を高めるために大きく寄与する科目である。

- ８．専門性を活かした地域社会への参画の意欲を高めるために、「社会調査実習」（２年次）、「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次）、「特別研究」（４年次）、また、情報をデザインし社会に働きかけていく力を修得させる「ソーシャルデザイン論」の講義科目と演習科目を配置する。

（態度）

- ９．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処できるようにするため、２年次のプログラム基礎科目に「社会調査実習」と「心理学基礎実験（心理学実験）」、３・４年次のプログラム基礎科目に「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」、４年次に「特別研究」を配置して、こうした態度の形成を促す。

スポーツ科学専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

（参考：令和６年度入学生は主専修・副専修受入停止）

スポーツ科学専修プログラムでは、スポーツ科学の基礎的な知識を踏まえ、多様な対象者に適切な運動やスポーツの処方や指導ができる資質を身につけ、スポーツを通じた地域づくりや地域住民の心身の健康づくりに適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

- １．スポーツ科学の基礎的な知識を理解している。
- ２．健康づくりに関する知識とその意義を理解している。

（思考・判断）

- ３．スポーツや健康に関する地域の多様なニーズやシーズを察知でき、適切な対応策が講じられる。

（技能・表現）

- ４．対象に応じた適切な運動処方を計画し、具体的な実践指導ができる。
- ５．地域課題を探索するために、社会調査等を利用した方法が活用できる。

（関心・意欲）

- ６．健康やスポーツによる地域の活性化や地域づくりに関心を持ち、自ら地域に出て実践的な活動をする意欲がある。

（態度）

- ７．専門性を生かし、グローバルな視野から地域貢献に積極的に関わる態度を身につけている。

スポーツ科学専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

（参考：令和６年度入学生は主専修・副専修受入停止）

スポーツ科学専修プログラムは、スポーツ科学の基礎的な知識を踏まえ、多様な対象者に適切な運動やスポーツの処方や指導ができる資質を身につけ、スポーツを通じた地域づくりや地域住民の心身の健康づくりに適切に対処できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

- １．スポーツ科学の基礎的な知識を理解するために、基礎科目として「スポーツ文化論」、「スポーツ行

動論」,「健康運動論」,「スポーツ科学方法論」,展開科目として「運動生理学」,「スポーツ心理学」,「バイオメカニクス」等を配置する。さらに,その修得をサポートする「社会学概論」,「心理学概論」等を開設する。

2. 健康づくりに関する知識とその必要性を理解するために,基礎科目として「健康管理論」,「健康づくり運動論」,展開科目として「健康障害と予防」を必修とする。

(思考・判断)

3. スポーツや健康に関する地域の多様なニーズやシーズを察知でき,適切な対応策が講じられるようになるため,理論的側面として「スポーツプロデュース論」,「スポーツNPO論」,「スポーツ政策論」等を配置する。

(技能・表現)

4. 対象に応じた適切な運動処方を計画し,具体的な実践指導ができるために,実技・実習の基礎科目として「健康づくり運動実習」と「健康スポーツ指導法Ⅰ・Ⅱ」,展開科目として「健康運動処方論」を配置する。

5. 地域課題の探索ができるようにするため,課程共通科目の「社会調査法」とプログラム基礎科目の「スポーツ社会調査実習」を配置する。

(関心・意欲)

6. 健康やスポーツによる地域の活性化や地域づくりに関心を持ち,自ら地域に出て実践的な活動や地域住民の健康づくりに意欲を持つために「地域スポーツコーディネート実習」,「スポーツトレーナー実習」を配置する。

(態度)

7. 「スポーツ行動論演習A・B」,「スポーツプロデュース演習A・B」を配置し,より専門性を深め,その過程の中でグローバルな視野から地域貢献に積極的に関わる態度を身に付けさせる。

現代文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

現代文化専修プログラムでは,人間の営みの総体としての文化を近代モダニズムを含む現代的な視点から捉え,文化現象の生成・発展・変容とともに流動化する現代社会を把握し,文化の継承や創成を通じて地域社会の活性化に寄与できる人材の養成を目的としており,以下に示す能力を修得した者を専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と素養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解できる。
3. 地域社会の諸問題を歴史や思想などの根源的原理から考察できる。
4. 現代的状況の下で文化がどのように変容していくかを理解できる。

(思考・判断)

5. 地域社会の現況把握や遭遇する諸課題に対して,多角的な視点から対象を把握できる。
6. グローバルな観点が不可欠な現代的諸課題に対して,柔軟な思考で最適解を導き出せる判断力を有している。

(技能・表現)

7. 対象に応じた認識手段や分析手法を有している。
8. 企画・立案した内容や自身の見解等を的確に説明し発信できる。

(関心・意欲・態度)

9. 未知の事象に対しても積極的に対応し得る好奇心や意欲を持っている。

10. 地域社会の活性化等に主体的に関わろうとする態度を有している。

現代文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

現代文化専修プログラムでは、人間の営みの総体としての文化を近代モダニズムを含む現代的な視点から捉え、文化現象の生成・発展・変容とともに流動化する現代社会を把握し、文化の継承や創成を通じて地域社会の活性化に寄与できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、主要領域である社会文化思想、人間学、音楽文化、表象文化、文化記号に関わる分野を中心に、以下のようカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を涵養するために、1～2年次に課程共通科目を配置する。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解するために、1～2年次に課程共通科目「国際交流研修」、「英語圏文化論」、「ヨーロッパ語圏文化論」、「アジア圏文化論」、外国語の基礎及びコミュニケーション基礎科目などを選択必修として配置する。また、プログラム基礎科目「ロシア文化論講義」を2～3年次に選択必修として配置する。
3. 地域社会の諸問題を歴史や思想などの根源的原理から考察するために、プログラム基礎科目「社会文化思想論」、「人間学」、「美学芸術学入門」、「音楽文化史」を、2年次前期～3年次後期に選択必修科目として配置する。
4. 現代的状況の下で文化がどのように変容していくかを理解するために、プログラム基礎科目「文化記号論」を、2年次前期～3年次後期に選択必修科目として配置する。

(思考・判断)

5. 地域社会の現況把握や遭遇する諸課題に対して、多角的な視点から対象を把握するために、プログラム展開科目「社会文化思想論特講」、「人間学特講」、「芸術文化論特講」、「音楽文化論特講」、「表象文化論特講」、「現代文化特講」を、2年次前期～4年次前期に選択必修科目として配置する。
6. グローバルな観点が不可欠な現代的諸課題に対して、柔軟な思考で最適解を導き出せる判断力を養成するために、「社会文化思想論演習」、「人間学演習」、「芸術文化論演習」、「ロシア文学・文化論演習」、「文化記号論演習」、「ソーシャルデザイン論演習」を、2年次後期～4年次後期に選択必修科目として配置し、特別研究の指導を兼ねることとする。

(技能・表現)

7. 対象に応じた認識手段や分析手法を修得するために、プログラム基礎科目「文化事象探究」を、2年次後期～4年次前期に必修科目として配置する。
8. 企画・立案した内容や自身の見解等を的確に説明し発信できるようになるために、「文化事象探究」に加えて、プログラム展開科目「メディア文化論特講」を、2年次後期～3年次後期に選択必修科目として、「論理学」を選択科目として配置する。

(関心・意欲・態度)

9. 未知の事象に対しても積極的に対応し得る好奇心や意欲を持つために、プログラム基礎科目「文化事象探究」を、2年次後期～4年次前期に必修科目として配置する。
10. 地域社会の活性化等に主体的に関わろうとする態度を養成するために、プログラム展開科目「ソーシャルデザイン論」、「ソーシャルデザイン論特講」を、2年後期～3年後期に選択必修科目として配置する。

異文化間コミュニティ専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

異文化間コミュニティ専修プログラムでは、性別、国籍、言語・民族性などの違いによってマイノリティ（少数者）が生み出されるしくみ、社会的排除の現状と歴史的背景を学び、これらの知識と当事者へのエンパワーメント・スキルを身につけ、社会的排除の乗り越えを目指す地域の創生に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1. マイノリティが生み出されるしくみについて、総合的・多角的に理解する能力を有している。
2. 社会的排除の現状・歴史的背景・乗り越えをめぐる模索について、人文・社会諸科学の幅広い知識にもとづいて理解する能力を有している。

（思考・判断）

3. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らがどのような社会的位置づけに置かれているのかを、人文・社会科学の諸議論をふまえて思考する能力を有している。
4. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らにどのような視座の偏りが生じるのかについて、自覚的な思考ができる能力を有している。

（技能・表現）

5. 社会的排除当事者へのエンパワーメント・スキルのうち、基礎的な技能を身につけている。
6. 社会的排除当事者のヴァルネラビリティ（社会的立場の弱さ）を考慮に入れた、行動や表現ができる能力を有している。

（関心・意欲）

7. 多様なコミュニケーション手段を積極的に学び、国内のみならず国際的な異文化間コミュニティ形成に対する関心を有している。

（態度）

8. 社会的排除の乗り越えに対して、地域の一員として主体的に関わろうとする態度を持っている。

異文化間コミュニティ専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

異文化間コミュニティ専修プログラムでは、性別、国籍、言語・民族性などの違いによってマイノリティ（少数者）が生み出されるしくみ、社会的排除の現状と歴史的背景を学び、これらの知識と当事者へのエンパワーメント・スキルを身につけ、社会的排除の乗り越えを目指す地域の創生に貢献できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1. マイノリティが生み出されるしくみについて、総合的・多角的に理解する能力をはぐくむために、プログラム基礎科目においては「ジェンダー論」・「複合エスニシティ論」・「異文化コミュニケーション論」の3分野いずれもの履修を必修とする。
2. 社会的排除の現状・歴史的背景・乗り越えをめぐる模索について、人文・社会諸科学の幅広い知識にもとづいて理解する能力をはぐくむために、①様々な文化における民族問題や差別問題の概要を知ることのできる、歴史や外国文学・文化に関する科目（「日本思想史講義」、「英米文化論講義」）、②現代における差別や社会的排除の諸相を学ぶことのできる、哲学や社会学に関する科目（「人間学」、「家族社会学」）、③様々な社会的包摂の方法を知ることのできる、心理学やスポーツに関する科目（「臨床心理学（臨床心理学概論）」、「スポーツNPO論」）を幅広く配置する。

（思考・判断）

3. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らがどのような社会的位置づけに置かれている

のかを、人文・社会科学の諸議論をふまえて思考する能力をはぐくむために、プログラム基礎科目において「ジェンダー論」・「複合エスニシティ論」・「異文化コミュニケーション論」以外に、人文系より4単位以上、社会科学系より2単位以上の履修を選択必修とした上で、それらで学修した諸議論をふまえた思考を、「ジェンダー論」・「複合エスニシティ論」・「異文化コミュニケーション論」の各特講の履修を通じて育成する。

4. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らにどのような視座の偏りが生じるのかについて、自覚的な思考ができる能力をはぐくむために、3・4年次に「ジェンダー論」・「複合エスニシティ論」・「異文化コミュニケーション論」の各演習科目を配置し、討論を通じた自覚的思考の涵養をおこなう。

(技能・表現)

5. 社会的排除当事者へのエンパワーメント・スキルのうち、基礎的な技能を身につけるため、プログラム基礎科目は心理学などの社会的包摂の方法を知ることのできる科目も選択できるよう配置するとともに、「社会保障論」、「国際開発と環境・貧困」等、エンパワーメントと関連の深い社会政策・制度についての選択必修科目群を配置する。
6. 社会的排除当事者のヴァルネラビリティ（社会的立場の弱さ）を考慮に入れた、行動や表現ができる能力をはぐくむため、3・4年次に配置する「ジェンダー論」・「複合エスニシティ論」・「異文化コミュニケーション論」の各演習科目では、社会的排除と包摂をめぐる具体的な実践課題を取り上げる。

(関心・意欲)

7. 多様なコミュニケーション手段を積極的に学び、国内のみならず国際的な異文化間コミュニティ形成に対する関心をはぐくむため、課程共通科目として、1年次に「国際交流研修」、「日本語表現基礎」をはじめとする各国語基礎科目、「異文化間コミュニティ論」等を配置する。

(態度)

8. 社会的排除の乗り越えに対して、地域の一員として主体的に関わろうとする態度をはぐくむため、自己の設定した課題テーマを深く主体的に探求する「特別研究」を4年次に配置する。

歴史専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

歴史専修プログラムでは、日本・アジア・西洋の過去を横断的に学び、現代の諸問題の歴史的背景を理解するとともに、過去との対話を通して現代を相対化して捉える能力を身につけ、流動性や越境性を増す現代社会で活躍できる、歴史的視座と国際的視野、および比較の視点を有する人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関する幅広い知識と教養を有し、国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
2. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する横断的、基礎的な知識を有し、現代の諸問題の歴史的背景を理解している。

(思考・判断)

3. 日本・アジア・西洋各国の政治・経済・社会・文化・思想などについて歴史的視座から検討し、また国際的視野から比較することを通して、現代の諸地域の政治・経済・社会・文化・思想などを相対化し、問い直すことのできる能力を身につけている。

(技能・表現)

4. 文献資料あるいは非文献資料を適切に取り扱い、読み解く能力を身につけている。また、従来の研究成果を批判的に検討し、自らの見解を論理的に組み立て、資料に基づいて適切に発表することができる。

(関心・意欲・態度)

5. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する諸問題について自らの課題を見出し、主体的に探究する意欲を持っている。

歴史専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

歴史専修プログラムでは、日本・アジア・西洋の過去を横断的に学び、現代の諸問題の歴史的背景を理解するとともに、過去との対話を通して現代を相対化して捉える能力を身につけ、流動性や越境性を増す現代社会で活躍できる、歴史的視座と国際的視野、および比較の視点を有する人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関する幅広い知識と教養を有し、国際的な視野に立って異文化を理解するために、課程共通科目を配置する。
2. プログラム基礎科目（2・3年次）に配置する、①歴史資料論、史学史、および日本史・日本思想史・アジア史・西洋史・考古学・社会文化思想論の各領域の講義を横断的・総合的に学ぶとともに、②古典籍古文書講読やギリシア語、ラテン語、英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語の各国語などから選択して基礎的な読解力を身につけ、③またプログラム展開科目も含めて、ジェンダー論、ドイツ文学講義、フランス文化論講義などの歴史学に関連する分野の学問を学ぶことにより、歴史を読み解く幅広い能力を修得する。

(思考・判断)

3. プログラム展開科目（2～4年次、演習は3・4年次）に配置する、日本史特講・講読・演習、日本思想史特講・講読・演習、アジア史特講・演習、西洋史特講・講読・演習、考古学特講・演習・考古学文献講読、社会文化思想論特講・演習などの中から選択して学修し、歴史的視座と国際的視野、および比較の視点を身につけ、現代を相対化して捉える能力を修得する。

(技能・表現)

4. プログラム展開科目（2～4年次、演習は3・4年次）に配置する、日本史特講・講読・演習、日本思想史特講・講読・演習、アジア史特講・演習、西洋史特講・講読・演習、考古学特講・演習・考古学文献講読、社会文化思想論特講・演習などの中から選択して学修し、歴史学にかかわる資料の読解力を向上させるとともに、先行研究を批判的に検討し、そのうえで自らの見解を発表できる能力を修得する。

(関心・意欲・態度)

5. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する諸問題について自らの課題を見出し、資料に基づいて自らの見解を論理的に組み立て、最終年次において「特別研究」を達成する。

芸術文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

芸術文化専修プログラムでは、社会における文化・芸術のあり方に関する総合的な学修を基礎として、生涯教育活動の中核となる芸術文化の実践によって、地域における文化の活性化、および地域からの文化発信に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 芸術文化の諸領域に関して総合的な素養を身に付けている。
3. 現代的状況や地域社会の下で、多様な視点から芸術文化を理解することができる。
4. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. 芸術文化について、作品鑑賞や文献を使って自主的に学習し思考することができる。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して、実践的あるいは論理的な技能を身に付け、作品あるいは文章によって表現することができる。
8. 探求する課題について、制作あるいは文章によって自分の考えを展開し、表現することができる。

(関心・意欲)

9. 芸術文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野を社会に活かそうとする態度を身に付けている。

芸術文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

芸術文化専修プログラムでは、社会における文化・芸術のあり方に関する総合的な学修を基礎として、生涯教育活動の中核となる芸術文化の実践によって、地域における文化の活性化、および地域からの文化発信に貢献できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。
2. 芸術文化の諸領域、すなわちアート（絵画・版画・彫刻・書・映像メディア等の造形表現領域）、デザイン（プロダクトデザイン・グラフィックデザイン等のデザイン領域）、クラフト（窯芸・染織等の工芸領域）、理論（美学・芸術史・芸術理論等の芸術学領域）の4領域に関わる分野について総合的な素養を身に付けるために、課程共通科目として、1年次に「デザイン基礎A」、「書法基礎」を、2年次に「芸術文化論」を選択必修科目として配置する。
3. 現代的状況や地域社会の下で、多様な視点から芸術文化を理解することができるために、プログラム基礎科目として、「美学芸術学入門」、「美術史入門」、「デザイン論」、「書道史」、「音楽文化史A・B」を選択科目として配置する。
4. 芸術文化の諸領域のいずれかに関して深い知識を身に付けるために、プログラム基礎科目に「音楽理論I・II」、プログラム展開科目に「美術史I・II」、「書学」、「芸術文化論特講A・B」、「音楽文化論特講A・B」を選択科目として配置する。

(思考・判断)

5. 芸術文化について、作品鑑賞や文献を使って自主的に学習し思考することができるようにするために、「芸術文化論演習A～D」、「美術史演習A～D」をプログラム展開科目として配置する。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」(卒業論文または制作レポートを付した卒業制作)を課程科目の必修科目として配置する。

(技能・表現)

7. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して、実践的あるいは論理的な技能を身に付け、作品あるいは文章によって表現することができるために、2～4年次にかけて各分野の造形実習を自由に選択できるように配置するとともに、「美術史Ⅰ・Ⅱ」、「書学」、「芸術文化論特講A・B」、「音楽文化論特講A・B」も配置する。
8. 探求する課題について、制作あるいは文章によって自分の考えを展開し、表現することができるために、3・4年次にかけて各分野の造形演習や「芸術文化論演習A～D」、「美術史演習A～D」を自由に選択できるように配置するとともに、4年次には「特別研究」を配置する。

(関心・意欲)

9. 芸術文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高めるために、2年次に「プロジェクト実践演習(基礎)」を、3・4年次にかけて各領域の演習科目を配置する。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野を社会に活かそうとする態度を身に付けるために、3・4年次にかけてプロジェクト解決型の授業「プロジェクト実践演習(発展)Ⅰ～Ⅲ」を配置する。

英語圏文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

英語圏文化専修プログラムでは、英語圏の文化・文学・言語について深い理解と英語の高度なコミュニケーション能力を通して、グローバル社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野に関して総合的な素養を身に付けている。
4. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. 英語圏の文化・文学・言語について、英語の資料や文献を使って自主的に学習し思考することができる。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. 実践的な英語コミュニケーション能力を身に付け、英語圏の人と英語で交流することができる。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

(関心・意欲)

9. 英語圏の文化と言語に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野で得た知識や技能を社会に活かそうとする態度を身に付けている。

英語圏文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

英語圏文化専修プログラムでは、英語圏の文化・文学・言語について深い理解と英語の高度なコミュニケーション能力を通して、グローバル社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができるために、課程共通科目として、1～2年次に「国際交流研修」と「英語圏文化論」を選択必修科目として配置する。
3. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野に関して総合的な素養を身に付けるために、プログラム基礎科目として、「英米文化論講義」、「英米文学講義」、「言語習得論」、「英語学講義」をそれぞれ2単位履修するよう配置する。
4. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野のいずれかに関して深い知識を身に付けるために、プログラム展開科目の「英米文学・文化論演習」、「英語習得論演習」、「英語学演習」のいずれかの分野において4単位を選択するよう配置する。

(思考・判断)

5. 英語圏の文化・文学・言語について、英語の資料や文献を使って自主的に学習し思考することができるようにするために、「英米文学・文化論演習」、「英語習得論演習」、「英語学演習」をプログラム展開科目として配置する。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。

(技能・表現)

7. 実践的な英語コミュニケーション能力を身に付け、英語圏の人と英語で交流することができるために、「英語コミュニケーション基礎」、「英語コミュニケーション発展」、「英語コミュニケーション応用」を2～4年次にかけて段階的に学べるように配置するとともに、英語のレベルアップを図るために「アカデミック・イングリッシュ」、「パワーアップ・イングリッシュ」、「スキルアップ・イングリッシュ」を2・3年次に配置する。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができるために、「特別研究」を4年次に配置する。

(関心・意欲)

9. 英語圏の文化と言語に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高めるために、3・4年次に各種演習科目を配置する。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野を社会に活かそうとする態度を身に付けるために、課題解決型の授業科目（英米文学・文化論演習など）を配置する。

ヨーロッパ語圏文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

ヨーロッパ語圏文化専修プログラムでは、ヨーロッパの諸言語（ドイツ語、フランス語、ロシア語）のコミュニケーション能力を養成するとともに、ヨーロッパ諸国の文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、ヨーロッパ諸言語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得

した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. ヨーロッパ諸国の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
4. ヨーロッパ諸国の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. ヨーロッパ社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

(関心・意欲)

9. ヨーロッパの諸言語，文化に関する関心を持ち，自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

ヨーロッパ語圏文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

ヨーロッパ語圏文化専修プログラムでは、ヨーロッパの諸言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語）のコミュニケーション能力を養成するとともに、ヨーロッパ諸国の文化的特徴・社会事情の理解，文学作品・作家についての理解，ヨーロッパ諸言語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができるために、課程共通科目として、「国際交流研修」，「ヨーロッパ語圏文化論」を選択必修科目に配置する。
3. ヨーロッパ諸国の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解するために、プログラム基礎科目として、「ドイツ語学講義」，「フランス語学講義」，「ロシア語学講義」，「ドイツ文学講義」，「フランス文学講義」，「ドイツ文化論講義」，「フランス文化論講義」，「ロシア文化論講義」を配置する。
4. ヨーロッパ諸国の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を身に付けるために、プログラム展開科目の「ドイツ語学演習」，「ドイツ文学演習」，「フランス文学演習」，「ロシア文学・文化論演習」を配置する。

(思考・判断)

5. ヨーロッパ社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために、「ドイツ文化論演習」，「フランス文化論演習」，「ロシア文学・文化論演習」

をプログラム展開科目として配置する。

6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。

(技能・表現)

7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を身につけるために、「ドイツ語コミュニケーション(基礎/発展/実践)」,「フランス語コミュニケーション(基礎/発展/実践)」,「ロシア語コミュニケーション(基礎/発展/実践)」を段階的に学べるように配置する。

8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができるために、「特別研究」を4年次に配置する。

(関心・意欲)

9. ヨーロッパ語圏の文化と言語に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高めるために、3・4年次に各種演習科目を配置する。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を身に付けるために、各分野の演習科目を配置する。

アジア圏文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

アジア圏文化専修プログラムでは、日本および中国を中心としたアジア地域の歴史的文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、日本語および中国語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. アジア圏の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
4. アジア圏の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. アジア圏における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

(関心・意欲)

9. アジア圏の諸言語、文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

アジア圏文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

アジア圏文化専修プログラムでは、日本語および中国語の言語のコミュニケーション能力を養成するとともに、アジア圏の文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、日本語および中国語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができるために、課程共通科目として、1年次に「国際交流研修」、2年次に「アジア圏文化論」を選択必修科目として配置する。
3. 広くアジア圏の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解するために、プログラム基礎科目として、「日本史講義」、「日本思想史講義」、「日本文学講義」、「日本語学講義」、「中国語学講義」、「アジア史講義」、「韓国文化論講義」を配置する。
4. アジア圏の文化・文学・言語の諸分野のいずれかに関して深い知識を身に付けるために、プログラム展開科目の「日本史演習」、「日本思想史演習」、「日本文学演習」、「日本語学演習」、「中国語学演習」、「アジア史演習」を配置する。

(思考・判断)

5. アジア文化圏における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために、「日本史特講」、「日本思想史特講」、「日本文学特講」、「日本語学特講」、「中国語学特講」、「アジア史特講」をプログラム展開科目として配置する。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。

(技能・表現)

7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として日本語を用いて発信できる能力を身につけるために、「日本語表現基礎」と「日本語読解基礎」を2年次で学べるように配置する。中国語による論理的な文章を講読できるために、「中国語学講読」を2～4年次に配置する。
8. 探求する課題について、論理的な文章を講読し、また、自分の考えを文章に表すことができるために、「特別研究」を4年次に配置する。

(関心・意欲)

9. アジア圏の文化と言語に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高めるために、3・4年次に各種演習科目を配置する。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を身に付けるために、課題解決型の授業科目である各分野の演習科目を配置する。

〈地域政策課程 専修プログラム〉

政策法務専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

政策法務専修プログラムは、法学全体、とくに公法、刑事法、政治学などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、公共政策形成の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本

プログラムの教育課程は、公共政策形成に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、実際の政策立案・評価を効果的に行うことのできる能力の修得を目標とし、以下に示す条件を満たした者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域社会が抱える現実的な法的・政治的課題の内容や意義、歴史的経緯についての確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。
4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法学、刑事法学、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

政策法務専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

政策法務専修プログラムでは、プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために、法・経済・環境に関する基礎および公法、刑事法、政治学などの専門に関する学修を目的に、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目（「民法（総則）Ⅰ・Ⅱ」など）、2年次にプログラム基礎科目（「憲法（人権）Ⅰ・Ⅱ」、「憲法（統治機構）A」、「刑法総論A」、「政治学（政治過程）」、「環境生態学A」など）を配置する。
2. 法学全体に関する基礎知識および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的知識を修得するため、プログラム基礎科目として2・3年次に「憲法（統治機構）B」、「刑法各論A」、「刑事訴訟法（証拠法・公判法）」、「行政法（作用法総論）Ⅰ・Ⅱ」、「行政法（救済法）Ⅰ・Ⅱ」、「民法（物権）Ⅰ」、「民法（債権総論）A」、「民法（家族法）Ⅰ」などを配置する。また、地域社会が抱える具体的・現実的課題の内容や意義、歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために、2・3年次にプログラム基礎科目として「政治学（政治理論）」、「行政学」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために、プログラム基礎科目として2・3年次に「憲法（統治機構）B」、「刑法総論B」、「民法（家族法）II」、「政治学（政治理論）」などを、3年次にプログラム展開科目として「刑事訴訟法（捜査法・公訴法）」などを配置する。

4. 身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために、2年次にプログラム基礎科目として「刑事政策」、「政治学（政治過程）」を置き、具体的個別的な政策についての評価を求める。また、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）を配置し、地域の具体的な政策について知り、評価を下す機会を設ける。

（技能・表現）

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）および各演習科目（いずれかを選択必修）を置き、調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに4年次に課程科目として「特別研究」（必修）を配置し、自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）を置き、多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

（関心・意欲）

7. 3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）を配置し、地域政策に携わる実践的機会を与えることで、地域が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。

8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために、2年次にプログラム基礎科目として選択必修の「刑事政策」、「政治学（政治過程）」、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）を配置する。

（態度）

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）および各演習科目（いずれかを選択必修）を配置する。

企業法務専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

企業法務専修プログラムは、法学全体、とくに民法（財産法）、商法、労働法などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、企業法務の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、企業法務に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、地域産業が抱える諸問題の解決を実行ないし提言することのできる能力の修得を目標とし、以下に示す条件を満たした者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。

2. 地域産業が抱える現実的な法的（とくに私法に関する）課題の内容や意義，歴史的経緯についての確に認識している。

（思考・判断）

3. 法と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。

4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

（技能・表現）

5. 法学全体に関する基礎的な観点および民法（財産法），商法，労働法を中心とする専門的な観点から，地域産業が抱える課題につき，法学的思考様式を用いて政策立案を行い，それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

（関心・意欲）

7. 地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。

8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし，地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って，専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

企業法務専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

企業法務専修プログラムでは，プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために，法・経済・環境に関する基礎および民法（財産法），商法，労働法などの専門に関する学修を目的に，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1. 法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために，1年次に課程共通科目（「民法（総則）Ⅰ・Ⅱ」など），2年次にプログラム基礎科目（「民法（物権）Ⅰ・Ⅱ」，「民法（債権総論）A・B」，「会社法A」，「労働法（個別法）」，「環境生態学A」など）を配置する。

2. 法学全体に関する基礎知識および民法（財産法），商法，労働法を中心とする専門的知識を修得するため，プログラム基礎科目として2・3年次に「憲法（人権）Ⅰ」，「民法（債権各論）A・B」，「民法（家族法）Ⅰ」，「商法A」などを配置する。また，地域産業が抱える具体的・現実的課題の内容や意義，歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために，2・3年次にプログラム基礎科目として「雇用管理法」，「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。

（思考・判断）

3. 法と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために，プログラム基礎科目として2・3年次に「憲法（人権）Ⅱ」，「民法（家族法）Ⅱ」，「会社法B」などを，3年次にプログラム展開科目として「民法（相続法）」，「民事訴訟法A・B」などを配置する。

4. 身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために，2・3年次にプログラム基礎科目として「労働法（集団法）」，「商法B」を置き，具体的個別的な政策についての評価を求める。また，3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれか

を選択必修)を配置し、地域の具体的な政策について知り、評価を下す機会を設ける。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および民法(財産法)、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)および各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を置き、多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

(関心・意欲)

7. 3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域政策に携わる実践的機会を与えることで、地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために、2・3年次にプログラム基礎科目として「労働法(集団法)」,「商法B」,3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置する。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)および各演習科目(いずれかを選択必修)を配置する。

地域社会経済専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、理論経済学・財政学・農業経済論といった経済学の専門的学修を通じて、地域の経済、産業、行政などの政策課題を学修することによって、地域経済の創生・再生を担うことができる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域経済のしくみを総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。
4. 経済学をはじめとした専門的知識を活用し、地域経済のしくみとその課題を総合的に思考することができる。

(技能・表現)

5. 地域経済の現状や課題を関連資料・データに基づいて理論的・実証的に分析・評価し、それらに基づく政策的判断ができる。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域経済が抱えるさまざまな諸問題や経済現象に強い関心を持っている。

8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

地域社会経済専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、理論経済学・財政学・農業経済論といった経済学の専門的学修を通じて、地域の経済、産業、行政などの政策課題を学修することによって、地域経済の創生・再生を担うことができる人材の養成を目的としている。この教育目標を達成するために、経済学ならびに地域経済を主に、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目（「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」, 「環境経済論A」, 「民法（総則）Ⅰ・Ⅱ」, 「環境政策論Ⅰ」）, 2・3年次のプログラム基礎科目に多岐にわたる各分野の関連科目を配置する。

2. 地域経済のしくみを理解するための総合的な専門的知識を修得するために、1年次に課程共通科目（「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」, 「環境経済論A」）, 2・3年次のプログラム基礎科目に選択必修科目（「理論経済学Ⅰ・Ⅱ」, 「財政学Ⅰ・Ⅱ」, 「国際経済論A・B」, 「農業経済論Ⅰ・Ⅱ」, 「ミクロ経済学」, 「金融論」）を配置する。

(思考・判断)

3. 経済学的素養を十分に身につけるために、1年次の課程共通科目（「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」, 「環境経済論A」）や2・3年次のプログラム基礎科目における選択必修科目（「理論経済学Ⅰ・Ⅱ」, 「財政学Ⅰ・Ⅱ」等）に加えて、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」, 「会計学Ⅰ・Ⅱ」, 「経済外書講読」, 「簿記論Ⅰ・Ⅱ」, 「環境経済論B」等を配置する。

4. 各分野の専門的知識を活かして地域経済のしくみとその課題を総合的に思考する能力を修得するために、2・3年次のプログラム基礎科目を中心に経済関連科目だけでなく「行政学」, 「行政法（作用法総論）Ⅰ・Ⅱ」, 「環境政策論Ⅱ」等の法・環境関連科目を配置する。

(技能・表現)

5. 地域経済の現象や課題を関連資料・データに基づいて評価・分析し、政策的判断を行うスキルを身につけられるように、調査・分析、口頭発表・集団討議やレポート・論文作成等の教育活動を取り入れた科目（プログラム基礎科目に「地域経済調査演習」, 「地域経済実践演習」（2年次履修）, プログラム展開科目に各分野の演習科目（3年次履修）, 課程科目に「特別研究」（4年次履修））を必修・選択必修として配置し、2年次から系統的に履修できるようにする。

6. 柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけるために、プログラム基礎科目の「地域経済調査演習」, 「地域経済実践演習」, 各分野の演習科目, 課程科目の「特別研究」等の口頭発表・集団討議を取り入れる科目を必修・選択必修とする。

(関心・意欲)

7. 経済関連科目をはじめとする各分野のプログラム基礎科目に加えて、プログラム展開科目に「応用マクロ経済学」、「日本経済史」、「西洋経済史」、「人的資源管理論」、「経済思想」、「企業論」、「労働経済論」、「日本経済論」といった発展的な経済関連科目を配置し、また各分野の演習科目や「特別研究」を通じて現代におけるさまざまな地域経済の諸問題や経済現象への関心を高められるようにする。
8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を高めるために、プログラム基礎科目に「地域経済調査演習」、「地域経済実践演習」、プログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目に「特別研究」等を配置する。
(態度)
9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基礎科目に「地域経済調査演習」、「地域経済実践演習」、プログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目の「特別研究」等を系統的に履修できるように配置する。

地域社会連携専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

地域社会連携専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、政治経済学・経営学総論・農業経済論など経済学ならびに経営学の専門的学修を通じて、地域の現場における企業・産業、労働、生活・福祉をめぐる諸問題を学ぶことによって、地域が抱える諸課題を総合的な観点から解決できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域社会や産業のしくみを総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。
4. 経済学をはじめとした専門的知識を活用し、地域社会や産業のしくみとその課題を総合的に思考することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会や産業が抱える諸課題を関連資料・データに基づいて理論的・実証的に分析・評価し、それらに基づく政策的判断ができる。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会や産業が抱えるさまざまな諸問題や経済現象に強い関心を持っている。
8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域社会や産業の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

地域社会連携専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

地域社会連携専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、政治経済学・経営学総論・農業経済論など経済学ならびに経営学の専門的学修を通じて、地域の現場における企業・産業、労働、生活・福祉をめぐる諸問題を学ぶことによって、地域が抱える諸課題を総合的な観点から解決できる人材の養成を目的としている。この教育目標を達成するために、経済学・経営学ならびに地域産業を主に、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目（「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」、「環境経済論A」、「民法（総則）Ⅰ・Ⅱ」、「環境政策論Ⅰ」）、2・3年次のプログラム基礎科目に多岐にわたる各分野の科目を配置する。
2. 地域社会や産業のしくみを理解するための総合的な専門的知識を修得するために、1年次に課程共通科目（「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」）、2・3年次のプログラム基礎科目に選択必修科目（「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」、「会計学Ⅰ・Ⅱ」、「社会保障論Ⅰ・Ⅱ」、「政治経済学Ⅰ・Ⅱ」、「環境経済論B」）を配置する。

(思考・判断)

3. 経済学的素養を十分に身につけるために、1年次の課程共通科目（「経済学基礎Ⅰ・Ⅱ」、環境経済論A）や2・3年次のプログラム基礎科目における選択必修科目（「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」、「会計学Ⅰ・Ⅱ」等）に加えて、「農業経済論Ⅰ・Ⅱ」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」、「簿記論Ⅰ・Ⅱ」、「国際経済論A・B」等を配置する。
4. 各分野の専門的知識を活かして地域社会や産業のしくみとその課題を総合的に思考する能力を修得するために、2・3年次のプログラム基礎科目を中心に経済関連科目だけでなく「行政学」、「会社法A・B」、「労働法（個別法）（集団法）」、「環境政策論Ⅱ」、「環境社会学Ⅰ・Ⅱ」等の法・環境関連科目を配置する。

(技能・表現)

5. 地域経済の現象や課題を関連資料・データに基づいて評価・分析し、政策的判断を行うスキルを身につけられるように、調査・分析、口頭発表・集団討議やレポート・論文作成等の教育活動を取り入れた科目（プログラム基礎科目に「地域経済調査演習」、「地域環境マネジメント実践演習」（2年次履修）、プログラム展開科目に各分野の演習科目（3年次履修）、課程科目に「特別研究」（4年次履修）を必修・選択必修として配置し、2年次から系統的に履修できるようにする。
6. 柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけるために、プログラム基礎科目の「地域経済調査演習」、「地域環境マネジメント実践演習」、各分野の演習科目、課程科目の「特別研究」等の口頭発表・集団討議を取り入れる科目を必修・選択必修とする。

(関心・意欲)

7. 経済関連科目をはじめとする各分野のプログラム基礎科目に加えて、プログラム展開科目に「地方財政論」、「協同組合論」、「マーケティング論」、「管理会計論」、「企業論」、「日本経済論」といった発展的な経済関連科目を配置し、また各分野の演習科目や「特別研究」を通じて現代におけるさまざまな地域社会や産業の諸問題や経済現象への関心を高められるようにする。
8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を高めるために、プログラム基礎科目に「地域経済調査演習」、「地域環境マネジメント実践演習」、プログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目に「特別研究」等を配置する。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基

礎科目に「地域経済調査演習」,「地域環境マネジメント実践演習」,プログラム展開科目に各分野の演習科目,課程科目の「特別研究」等を系統的に履修できるように配置する。

環境共生専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

環境共生専修プログラムでは,環境学・法学・経済学の総合的学修を基礎に,環境学の専門的学修を環境政策・環境マネジメントの実践に活かし,持続可能な共生社会の構築に貢献できる人材の養成を目的としており,以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 文理融合に基づく環境学諸分野の研究手法と専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について,相互の複雑な連関を踏まえて理解する能力を身につけている。
4. 環境学を始めた専門的知識を活用し,環境問題の解決,「持続可能な共生社会」構築に向けた具体的な方策を総合的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会とその環境に関する調査・分析ができ,そこに潜む問題点やその解決法について,自らの見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地球規模から身近な地域まで,多岐にわたる環境や環境問題に強い関心を持っている。
8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし,環境や地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って,専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

環境共生専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

環境共生専修プログラムでは,プログラムの学位授与の方針を実現するために,以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために,1年次に課程共通科目(「環境政策論Ⅰ」「経済学基礎Ⅰ」「民法(総則)Ⅰ」など),2年次にプログラム基礎科目(「環境社会学Ⅰ」など)を配置する。
2. 環境学諸分野の研究手法と専門的知識を獲得させるために,プログラム基礎科目として2年次に必修の「環境科学演習」,2・3年次に選択必修の「環境政策論Ⅱ」,「環境経済論B」,「環境社会学Ⅱ」,「環境生態学A」,「自然環境学A」,「環境統計学Ⅰ・Ⅱ」,プログラム展開科目として2・3・4年次に選択必修の「環境経済論特講」,「環境社会学特講」,各分野の演習科目などを配置する。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について,相互の複雑な連関を踏まえ,理解する能力を身につけるため

に、1年次に課程共通科目（「環境経済論A」など）、2・3年次にプログラム基礎科目（「環境政策論Ⅱ」、「環境経済論B」、「環境社会学Ⅰ・Ⅱ」など）を配置する。

4. 獲得した様々な専門的知識を用いて、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に取り組む活動を行わせるために、プログラム基礎科目に必修の「環境科学演習」、選択必修の「地域環境マネジメント実践演習」、「環境社会調査演習」に加え、「環境社会調査実習」、「環境科学実験」、各分野の演習科目等の演習・実習・実験科目（2・3年次履修）、4年次必修の「特別研究」などを配置する。

（技能・表現）

5. 地域社会やその環境に関する調査ができ、そこに潜む問題点や解決法に関する見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、プログラム基礎科目に「環境科学演習」、「地域環境マネジメント実践演習」、「環境社会調査演習・実習」、「環境科学実験」、4年次に課程科目の「特別研究」等、調査・分析、フィールド実習、口頭発表、論文執筆などの教育活動を取り入れた科目を必修・選択必修として配置し、2年次から系統的に履修できるようにする。
6. 柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけるために、プログラム基礎科目の「環境科学演習」、課程科目の「特別研究」を必修、各分野の演習科目などを必修・選択必修とする。

（関心・意欲）

7. 地球規模環境問題や開発途上国の開発をテーマとしたプログラム基礎科目の「国際開発と環境・貧困」、身近な地域環境の現状・取り組みに焦点を当てたプログラム基礎科目の「環境科学演習」、「地域環境マネジメント実践演習」、「環境社会調査実習」、「環境科学実験」、各分野の演習など、幅広く環境の現実を扱う科目をプログラム基礎・展開科目を中心に配置し、多岐にわたる環境や環境問題への関心を高められるようにする。
8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境・地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を高められるよう、プログラム基礎科目に「環境科学演習」、「地域環境マネジメント実践演習」、「環境社会調査実習」、プログラム展開科目に「環境経済論特講」、「環境社会学特講」などを配置する。

（態度）

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基礎科目に「地域環境マネジメント実践演習」、「環境社会調査演習・実習」、「環境科学実験」、プログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目の「特別研究」などを系統的に履修できるように配置する。

3. 人文社会科学部教育課程規則（平成16年4月1日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第36条第5項の規定に基づき、岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 本学部は、「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的とする。

（科目及び単位の修得）

第3条 専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は、別表第1に定めるところによる。

- 2 専門教育においては、別表第2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。
- 3 科目の必修と選択の別、履修年次、時間数、履修方法等は、別に定める。

（授業時間割等の公示）

第4条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員等は、学期の初めまでに公示する。

- 2 学期の途中から開講する科目については、その都度公示する。

（履修科目の申告）

第5条 学生は、履修しようとする科目を学期の初めの指定の期間内に学部長に申告しなければならない。

- 2 学期の途中から開講する科目については、その都度前項の申告をすることができる。
- 3 第1項及び第2項の申告をしない者は、単位の認定を受けることができない。
- 4 第1項及び第2項の申告の後には、履修取り消しを認める指定期間を除き、履修を取り消すことはできない。

（他学部科目等の履修）

第6条 学生は、所定の手続きを経て他学部の科目及び国際教育科目の授業科目を履修することができる。

- 2 他学部の学生が、本学部の科目の履修を願い出たときは前項に準ずる。

（他大学等での履修）

第7条 学生は、他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

- 2 前項及び前条第1項の規定により修得した単位及び海外の交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位は、別に定める単位数の範囲内で別表第2の専修プログラム科目又は自由選択科目の単位として認めることができる。

（試験）

第8条 試験を行う場合は、学期末に行う。ただし、科目によっては、その他適当な時期に行うことができる。

（細則）

第9条 この規則に定めるもののほか、専門教育に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

（以下省略）

4. 人文社会科学部教育課程履修細則（平成28年4月1日制定）

（趣旨）

第1条 この細則は、岩手大学人文社会科学部教育課程規則（以下「規則」という。）第9条の規定に基づき、岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）の専門教育の授業科目の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

（学部共通科目）

第2条 本学部の基本的教育目標の一つである「総合性・学際性」を基礎とした幅広い視野を養うとともに、学問研究の根底的基礎となる考え方と方法を深化させ、課題探求能力を育成するため、学部共通科目を置く。

2 本学部の学生（以下「学生」という。）は、規則第3条第2項に定める学部共通科目の単位数のうち、「総合科学基礎」6単位（必修4単位、選択必修2単位）及び「総合科学論」2単位を修得しなければならない。

3 「総合科学基礎」及び「総合科学論」の履修に関し、必要な事項は別に定める。

（課程科目）

第3条 学生は、課程全体の教育目標を達成するために、課程ごとに置く課程科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、課程共通科目8単位以上及び「特別研究」6単位を修得しなければならない。

（専修プログラム科目）

第4条 課程の専門領域の学修を深めるために専修プログラムを置く。

2 本学部の総合的な学修をより系統立てて行わせるために、専修プログラムに主専修プログラム及び副専修プログラムを置く。

3 学生は、主専修プログラムを3年次の学年初めに選択し、学部長に届け出なければならない。

4 主専修プログラムは、所属する課程の専修プログラムから選択しなければならない。

5 学生は、第3項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、主専修プログラム科目34単位以上（うち、プログラム基礎科目を10単位以上、プログラム展開科目を10単位以上含まなければならない）修得しなければならない。

6 学生は、副専修プログラムを3年次の学年初めに選択し、学部長に届け出なければならない。

7 副専修プログラムは、第3項に基づき届け出た主専修プログラム以外の専修プログラム（所属する課程以外の専修プログラム及び課程横断型プログラムを含む）から選択しなければならない。

8 学生は、第6項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、副専修プログラム科目16単位以上を修得しなければならない。

9 前項に定める単位数は、選択した専修プログラムの副専修プログラム科目又は課程横断型プログラムで定める授業科目から修得しなければならない。

10 専修プログラムに関し必要な事項は別に定める。

（他課程科目）

第5条 学生は、他課程科目として、他の課程の「特別研究」を除く課程科目から規則第3条第2項に定める単位数以上を修得しなければならない。

2 他課程科目の単位数には、学部共通科目のうち、「総合科学基礎」（選択必修）の修得すべき最低必要単位数を超えて修得した2単位を加えることができる。

（自由選択科目）

第6条 学生は、自由選択科目として、第2条から前条までに定める科目から規則第3条第2項に定める単位数以上を修得しなければならない。ただし、第2条から前条までに定める科目の修得すべき最低単位数に算入した授業科目の単位は、自由選択科目の単位数に含めることができない。

- 2 前項及び第4条第8項の修得すべき単位数には、規則第7条第2項の規定により修得した単位を合計10単位まで加えることができる。
- 3 グローバル・地域人材育成プログラムを副専修プログラムに選択した学生は、規則第7条第2項に定める単位のうち、国際教育科目の授業科目及び海外の協定交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位を副専修プログラム科目の修得単位数に加えることができ、それ以外の単位は自由選択科目の修得単位数に加えることができる。
- 4 グローバル・地域人材育成プログラム以外を副専修プログラムに選択した学生は、規則第7条第2項に定める単位を自由選択科目の修得単位数に加えることができ、それが自由選択科目の卒業に必要な最低修得単位数を超える場合は、副専修プログラム科目の修得単位数に加えることができる。

(特別研究)

第7条 課程科目に置く特別研究は、最終年次に履修するものとする。

- 2 特別研究(通年、6単位)を履修するには、当該科目を履修する前の学期の、卒業要件として履修する授業科目(教養教育科目を含み、課外科目を除く。以下「卒業要件科目」という。)の修得単位数が96単位以上でなければならない。
- 3 卒業論文等(特別研究の成果をまとめた論文又は作品をいう。)は、卒業予定年度の1月21日(9月卒業予定者の場合は、7月21日。その日が休日の場合は、その翌日)午後5時までに学務課に提出しなければならない。
- 4 特別研究の審査は、課程において行う。
- 5 特別研究の指導体制、題目届け等の手続き、その他必要な事項は別に定める。

(早期卒業)

第8条 学生は、岩手大学における在学期間の特例に関する規則に基づき、2年次の学年末において、卒業要件科目を90単位以上修得し、かつ、すべての学期において成績優秀者(岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則第4条に規定する者をいう。)である場合は、学部長に早期卒業の認定を願い出ることができる。

- 2 教務委員会の審査に基づき、教授会が早期卒業の可能性があると認める場合は、その者を早期卒業の候補者(以下「候補者」という。)とする。
- 3 候補者は、3年次に「特別研究」を履修しなければならない。
- 4 候補者は、候補者として認定を受けた後の各学期において、秀及び優の標語の単位数を10分の9以上得なければならない。
- 5 前項の秀及び優の標語の単位数を10分の9以上得ない場合は、候補者の資格を失う。
- 6 候補者は、3年次の学年末又は4年次の前期末に、特別研究の内容を中心とした最終試験を受けなければならない。
- 7 候補者が卒業の認定を受けるためには、特別研究の成績は秀又は優でなければならない。

(雑則)

第9条 本学部における転課程及び転学部に関し、必要な事項は別に定める。

- 2 本学部における編入学に関し、必要な事項は別に定める。
- 3 本学部における再入学に関し、必要な事項は別に定める。
- 4 本学部における科目等履修生に関し、必要な事項は別に定める。

(以下省略)

5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について

修得しなければならない最低単位数（教育課程規則第3条第1項および履修細則第2～6条より）

科目区分		単位数	
教養教育		43	
専門教育	学部共通科目	8	
	課程科目	課程共通科目	8
		特別研究	6
	専修プログラム科目	主専修プログラム科目	34
		プログラム基礎科目	(10単位以上)
		プログラム展開科目	(10単位以上)
		副専修プログラム科目	16
	他課程科目	4	
	自由選択科目	6	
計		82	
合計		125	

◆専門教育の科目区分ごとの必修・選択必修科目等

学部共通科目

必修：総合科学基礎（4単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（人間文化）A・B」，地域政策課程は「総合科学基礎（地域政策）A・B」を履修します。

総合科学論（2単位）

選択必修：総合科学基礎（2単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（地域政策）A・B」，地域政策課程は「総合科学基礎（人間文化）A・B」から選択してください。

課程科目

・課程共通科目

選択必修：所属する課程の課程共通科目から8単位以上

なお，各課程で必修・選択必修の授業科目が下記のとおり決められています。

人間文化課程

選択必修①：下記授業科目から4単位以上修得

国際交流研修，日本語表現基礎，日本語読解基礎，ドイツ語基礎，フランス語基礎，ロシア語基礎，中国語基礎，韓国語基礎，社会調査法

選択必修②：下記授業科目から4単位以上修得

人間行動論，スポーツ科学，現代文化論，異文化間コミュニティ論，芸術文化論，歴史学概論，英語圏文化論，ヨーロッパ語圏文化論，アジア圏文化論，デザイン基礎A，書法基礎，ドイツ語コミュニケーション基礎，フランス語コミュニケーション基礎，ロシア語コミュニケーション基礎

地域政策課程

必修：民法（総則）I，経済学基礎I，環境政策論I

選択必修：下記授業科目から2単位以上修得

民法（総則）II，経済学基礎II，環境経済論A

・特別研究

必修（6単位） 特別研究の期間は、最低1年間（2学期分の期間）です。履修申告は不要です。

専修プログラム科目

・主専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「◆主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

・副専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムの副専修プログラム科目から、各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「◆主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

他課程科目

所属していない課程の課程共通科目から4単位以上

自由選択科目

本学部専門教育の授業科目から6単位以上（課外科目を除く）※1、※2

※1 学部共通科目，課程科目，専修プログラム科目，他課程科目の修得しなければならない最低単位数を超えて修得した単位は，自由選択科目の単位に算入されます。

※2 他学部・他大学の専門教育の授業科目の修得単位，国際教育科目の修得単位および海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，10単位を上限に副専修プログラム科目または自由選択科目の修得単位に算入することができます（履修細則第6条）。

◆授業科目履修に係る注意事項

- ①授業科目名に「Ⅰ」、「Ⅱ」とある場合は，数字順に履修・単位修得することを推奨します。一部授業科目では下位数字の授業科目の単位を修得しなければ上位数字の授業科目を履修することができません（例：民法（総則）Ⅰの単位を修得しないと民法（総則）Ⅱを履修できない）。上記履修制限がある授業科目は「科目等一覧」にその旨を記載していますので，注意して履修申告してください。
- ②同じ授業科目を，重複して単位修得することはできません。
- ③各授業科目の対象学年より下の学年の学生はその授業科目を履修することはできませんが，それ以上の学年は履修することができます。
- ④主専修に選択した専修プログラム以外の演習科目を履修しようとする場合は，事前にその授業科目を担当する教員の下承を得て履修してください。下承を得ずに履修すると，後日，履修申告が取り消され，単位修得できない場合があります。
- ⑤集中講義の履修申告は，通常の履修申告（各学期の初め）とは別に行います。履修申告の開始時期や方法は，アイアシスタント・掲示板でお知らせします。
- ⑥一部授業科目はクォーター制で開講されます。クォーター制の授業科目は週2回開講となりますので，履修する授業科目の選択や履修申告の際はご注意ください。クォーター制で開講する授業科目は，科目等一覧の「備考」欄にその旨を記載しています。

上記のほか，一般的な注意事項等は，本手引き「Ⅰ 科目履修に当たって知っておくべきこと」で確認してください。

◆主・副専修プログラムについて

主・副専修プログラムの選択は2年次末までに行い，3年次から本格的な学修を開始します（2年次から履修可能な授業科目もあるので，詳細は科目等一覧で確認してください）。

主専修プログラムは、自分の所属する課程の専修プログラムから1つを選び、そのプログラムの授業科目（主専修プログラム科目）を履修し、学修を進めていきます。主専修プログラム科目は、選択した専修プログラムのプログラム基礎科目10単位以上、プログラム展開科目10単位以上を修得したうえで、34単位以上修得しなければなりません。各専修プログラムでは、必修・選択必修の授業科目等を【別表A】のとおり設定しているので、科目等一覧とあわせて確認し、履修・単位修得してください。

副専修プログラムは、全ての専修プログラム（課程問わず）および課程横断型プログラムから1つ以上を選んで学修を進めていきます。ただし、主専修プログラムに選択した専修プログラムを、副専修プログラムに選択することはできません。各専修プログラムでは、副専修プログラム用の授業科目（副専修プログラム科目）を定めていて（科目等一覧で、授業科目名の左に「副」とある授業科目）、その副専修プログラム科目から16単位以上修得しなければなりません。

副専修プログラムでも必修・選択必修の授業科目等が【別表B】のとおり決められており、それを満たさないと、副専修プログラム科目を16単位以上修得しても卒業できません。課程横断型プログラムの授業科目は、課程横断型プログラムの科目等一覧で確認してください。

なお、自由選択科目の卒業に必要な最低修得単位数（6単位）を超えて修得した、他学部・他大学の専門教育の授業科目の修得単位（①）、国際教育科目の修得単位（②）および海外の交流協定締結大学への留学により修得した単位のうち、本学部の専門教育の授業科目に振り替えられなかった単位（③）は、4単位まで副専修プログラム科目の修得単位に含める場合があります。

（卒業に必要な修得単位数に算入可）。この4単位が、副専修に算入できるか、また算入する場合に副専修プログラム科目のどの単位修得要件の単位数に算入できるかは、選択した副専修プログラムにより異なりますので、プログラム担当教員に相談してください。

課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した場合は、前述の②、③の単位を自由選択科目の修得単位数に算入せず、副専修プログラム科目の修得単位数に算入することができます（①の単位は先に自由選択科目に算入）。ただし、「自由選択科目」の説明にあるように、算入できる単位数の上限は10単位です。下記に修得単位の算入方法を示しますので、参考にしてください。

副専修プログラム科目に定められている授業科目を履修する場合は、自分が選択している主・副専修プログラムに関わらず、履修申告時に、主専修プログラム科目として履修するのか、副専修プログラム科目として履修するのかを選択してください。時間割表には「主」用、「副」用の申告コードが記載されているので、注意して履修申告してください。

《参考》他学部科目等の修得単位の算入方法

例1.

選択した副専修プログラム：行動科学専修プログラム

他学部科目等の単位修得状況：他学部科目2単位（2年前期修得）、国際教育科目6単位（3年前期修得）、留学で修得した単位のうち振替できなかった単位4単位（3年後期修得）

自由選択科目の修得単位＝他学部科目2単位＋国際教育科目4単位

→修得しなければならない最低修得単位数（6単位）を満たす

副専修プログラム科目の修得単位＝国際教育科目2単位＋留学で修得した単位で振替できなかった単位のうち2単位

→修得しなければならない最低修得単位数（16単位）に4単位算入できる場合がある

これにより、他学部科目等の上限（10単位）に達した場合は、留学で修得した単位で振替できなかった2単位は、修得しなければならない最低単位数に算入できません。副専修プログラム科目の修得しなければならない最低単位数の不足分（12単位）は、行動科学の副専修プログラム科目から単位修得することになります。

例 2.

選択した副専修プログラム : グローバル・地域人材育成プログラム

他学部科目等の単位修得状況 : 他学部科目 2 単位 (2 年前期修得), 国際教育科目 6 単位 (3 年前期修得), 留学で修得した単位のうち振替できなかった単位 4 単位 (3 年後期修得)

グローバル・地域人材育成プログラムの単位修得要件を満たすように, 次のとおり算入します。

副専修プログラム科目の修得単位 = 国際教育科目 6 単位, 留学で修得した単位で振替できなかった単位 4 単位

これにより, 他学部科目等の上限 (10 単位) に達したので, 他学部科目の 2 単位は, 修得しなければならない最低単位数には算入できません。

◆学修ポートフォリオについて

学修ポートフォリオは, 学生が自分の学修状況の記録や関係する資料等を 1 つにまとめたものです。学期初めに履修申告した授業科目を記録したあと, 履修している授業科目での配布物や課題, 参考資料をまとめ, 学期の終わりには履修した授業科目の成績を記録します。また, ポートフォリオを使って, 次学期の学修目標や履修する授業科目の検討を行います。

☆用語解説

学修

学問をまなび身につけること。「学習」も同様の意味で使われるが, 大学設置基準 (大学を設置するのに必要な最低の基準を定めた文部科学省令) では「学修」を使っている。2012 年 8 月の中央教育審議会答申の注釈に「大学設置基準上, 大学での学びは『学修』としている。これは, 大学での学びの本質は, 講義, 演習, 実験, 実習, 実技等の授業時間とともに, 授業のための事前の準備, 事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した『単位制』により形成されていることによる。」とあり, 高校までの教育 (学習内容は学習指導要領で規定) と大学教育は異なることを意味している。

修得

学問・技芸などを学んで会得すること。主体的な学びの場である大学での学修は, 「修得」であり, 習い覚える「習得」とは異なる。

必修

卒業するために, 必ず修得しなければならない授業科目・単位を指す。

選択必修

指定された複数の授業科目から, 指定された単位数分の授業科目を修得する場合を指す。本手引きでは科目一覧表等で「選必」と略す場合がある。

クォーター制

本学の授業科目は, 通常, 1 年間で 2 つの学期に分けて開講しているが (セメスター制), 一部授業科目は, 学期を 4 つに分けて開講している。1 年間で 4 つの学期に分けることをクォーター制と言う。クォーター制で開講する授業科目は, 週 2 回授業が行われ, 期間はセメスター制の半分になる

専修プログラム

専門性の明確化と総合化の充実を図ることを目的に作られたカリキュラム (教育計画) のこと。各専修プログラムはそれぞれの教育目的に基づき, 授業科目の履修年次や必修・選択必修の授業科目を決めており, 学生は体系的に学修を進めることができる (基礎的内容学修後に発展的内容を学修等)。また, 主専修 (高度な専門性養成) と副専修 (一定程度の専門知識修得や技能養成) の組み合わせで, 多様な学修目的・進路目標に応えることができる。

ポートフォリオ

英語で, 紙挟み, 書類かばんという意味。「学修ポートフォリオ」は, 学修状況を記録した書類や関係する資料等を, 紙挟みや書類かばんに収めたように, 取りまとめたものを指す。

【別表A】各専修プログラム 主専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：プログラム基礎科目から10単位以上，プログラム展開科目から10単位以上修得したうえで，計34単位以上修得

専修プログラム名	科目区分等		単位数	授 業 科 目 名 等	
行動科学	基礎	必修	10	社会調査実習，心理学基礎実験（心理学実験），特殊実験調査ⅠおよびⅡ，行動科学方法論（心理学研究法）	
		選必①	2	基礎統計学，統計学（検定・推定），行動科学統計法A（心理学統計法Ⅰ）	
		選必②	4	心理学概論，実験心理学（神経・生理心理学），認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ），人格心理学（感情・人格心理学），臨床心理学（臨床心理学概論），社会心理学（社会・集団・家族心理学）	
		選必③	4	人間学，社会学概論，家族社会学，地域社会学，ソーシャルデザイン論	
	展開	選必④	6	分野aから2単位以上，分野bから2単位以上で合計6単位以上修得 分野a<心理系> 実験心理学演習AまたはB，認知心理学演習AまたはB，人格心理学演習AまたはB，臨床心理学演習AまたはB，社会心理学演習AまたはB，犯罪心理学演習 分野b<社会系> 人間学演習AまたはB，家族社会学演習AまたはB，地域社会学演習AまたはB，ソーシャルデザイン論演習AまたはB	
				（この行は表の構造上、内容が重複しているため省略）	
	人間文化課程	スポーツ科学	基礎 必修	令和6年度から受入停止します。	
			展開 必修		
		展開 選必			
	現代文化	基礎	必修	4	文化事象探究A～D
選必①			6	2分野以上から修得 分野a: 社会文化思想論Ⅰ～Ⅳ，人間学 分野b: ロシア文化論講義AまたはB 分野c: 文化記号論Ⅰ～Ⅳ 分野d: 美学芸術学入門，音楽文化史AまたはB	
展開		選必②	4	2分野以上から修得 分野e: 社会文化思想論特講AまたはB 人間学特講AまたはB 分野f: 表象文化論特講AまたはB 分野g: 芸術文化論特講AまたはB，音楽文化論特講AまたはB 分野h: ソーシャルデザイン論，ソーシャルデザイン論特講，メディア文化論特講AまたはB 分野i: 現代文化特講AまたはB	
		選必③	6	2分野以上から修得 分野j: 社会文化思想論演習A～D，人間学演習AまたはB 分野k: ロシア文学・文化論演習A～C 分野l: 文化記号論演習A～D 分野m: 芸術文化論演習A～D 分野n: ソーシャルデザイン論演習AまたはB	
		（この行は表の構造上、内容が重複しているため省略）			

人間文化課程	異文化間コミュニケーション	基礎	選必①	8	各分野から2単位以上修得 分野a: ジェンダー論A～E 分野b: 複合エスニシティ論A～D 分野c: 異文化コミュニケーション論A～D
			選必②	2	民法（家族法）IまたはII, 社会保障論, 国際開発と環境・貧困
			選必	4	選必①および②以外のプログラム基礎科目から修得
		展開	選必③	6	2分野以上から修得 分野d: ジェンダー論特講A～D 分野e: 複合エスニシティ論特講A～D 分野f: 異文化コミュニケーション論特講A～D
			選必④	6	ジェンダー論演習A～D, 複合エスニシティ論演習A～D, 異文化コミュニケーション論演習A～D
			選必	4	選必③および④以外のプログラム展開科目から修得
	歴史	基礎	必修	4	歴史資料論, 史学史
		展開	選必	4	日本史演習I～IV, 日本思想史演習I～IV, アジア史演習A～D, 西洋史演習A～D, 考古学演習A～D
	芸術文化	基礎	必修	2	プロジェクト実践演習（基礎）
			選必①	2	美学芸術学入門, デザイン論, 色彩演習, 美術史入門, 書道史, 音楽文化史AまたはB
		展開	必修	6	プロジェクト実践演習（発展）I～III
			選必②	4	芸術文化論演習A～D, 美術史演習A～D, 造形演習（絵画）A～D, 造形演習（彫刻）A～D, 造形演習（版画）IまたはII, 造形演習（窯芸）IまたはII, 造形演習（染織）IまたはII, 造形演習（視覚文化）A～D, 造形演習（応用書法）I～IV
	英語圏文化	基礎	必修	4	英語コミュニケーション基礎I, 英語コミュニケーション発展I
			選必①	2	英米文化論講義A～F
			選必②	2	英米文学講義C～D
			選必③	2	言語習得論AまたはB
			選必④	2	英語学講義A～F
		展開	必修	2	英語コミュニケーション応用I
			選必⑤	4	1分野から修得 分野a: 英米文学・文化論演習A～D 分野b: 英語習得論演習A～D 分野c: 英語学演習A～H
	ヨーロッパ語圏文化	基礎	選必①	4	ドイツ語学講義A～C, ドイツ文学講義A～C, ドイツ文化論講義A～C, フランス語学講義, フランス文学講義A～C, フランス文化論講義A～C, ロシア語学講義, ロシア文化論講義AまたはB
展開		選必②	4	ドイツ語学演習A～C, ドイツ文学演習A～C, ドイツ文化論演習AまたはB, フランス文学演習A～C, フランス文化論演習A～C, ロシア文学・文化論演習A～C	

人間文化課程	アジア圏文化	基礎	選必①	2	日本史講義AまたはB, 日本思想史講義A～D
			選必②	2	アジア史講義AまたはB
			選必③	2	日本文学講義A～D, 日本語学概説, 日本語学講義A～D
			選必④	2	中国文学講義IまたはII, 中国語学講義A～D
		展開	選必⑤	6	2分野以上から修得 分野a: 日本史特講A～C, 日本思想史特講A～C, アジア史特講A～D 分野b: 日本文学特講AまたはB, 日本文学講読AまたはB, 日本語学特講A～D 分野c: 中国語学特講AまたはB, 中国文学特講AまたはB, 中国思想史特講AまたはB
			選必⑥	4	1分野から修得 分野d: 日本思想史演習I～IV 分野e: アジア史演習A～D 分野f: 日本文学演習A～D 分野g: 日本語学演習I～IV 分野h: 中国語学演習A～D
地域政策課程	政策法務	基礎	選必①	4	憲法(人権)I, 憲法(統治機構)A, 刑法総論A, 政治学(政治過程), 刑事政策
			選必②	2	環境統計学I, 環境生態学A, 自然環境学A
		展開	選必③	2	地域政策実践演習AまたはB
			選必④	4	同名演習科目のIおよびIIを修得 政治学演習I・II, 憲法演習I・II, 民法(財産法)演習I・II, 民法(家族法)演習I・II, 商法演習I・II, 刑法演習I・II, 刑事訴訟法演習I・II, 労働法演習I・II, 理論経済学演習I・II, 政治経済学演習I・II, 財政学演習I・II, 農業経済論演習I・II, 経営学演習I・II, 環境政策論演習I・II, 環境経済論演習I・II, 環境社会学演習I・II, 自然環境学演習I・II, 環境生態学演習I・II
	企業法務	基礎	選必①	4	民法(物権)I, 民法(債権総論)A, 民法(債権各論)A, 会社法A, 労働法(個別法)
			選必②	2	環境統計学I, 環境生態学A, 自然環境学A
		展開	選必③	2	地域政策実践演習AまたはB
			選必④	4	同名演習科目のIおよびIIを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ
	地域社会経済	基礎	選必①	4	理論経済学IまたはII, 財政学IまたはII, 国際経済論AまたはB, 農業経済論IまたはII, ミクロ経済学, 金融論
			選必②	2	地域経済調査演習, 地域経済実践演習
			選必③	2	環境統計学I, 環境生態学A, 自然環境学A
	展開	選必④	4	同名演習科目のIおよびIIを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ	
地域社会連携		基礎	選必①	4	経営学総論IまたはII, 会計学IまたはII, 社会保障論, 政治経済学IまたはII, 環境経済論B
	選必②		2	地域経済調査演習, 地域環境マネジメント実践演習	
	選必③		2	環境統計学I, 環境生態学A, 自然環境学A	
展開	選必④	4	同名演習科目のIおよびIIを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ		
	環境共生	基礎	必修	2	環境科学演習
選必①			4	環境政策論II, 環境経済論B, 環境社会学IまたはII	
選必②			2	環境生態学A, 自然環境学A, 環境統計学I, 環境統計学II	
選必③		2	環境社会調査演習, 地域環境マネジメント実践演習		
展開	選必④	4	同名演習科目のIおよびIIを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ		

【別表B】各専修プログラム 副専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：各専修プログラムの副専修プログラム科目（科目等一覧で授業科目名に「副」とある授業科目（課程横断型を除く））から16単位以上修得

課程	プログラム名	要件	
人間文化課程	行動科学	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	スポーツ科学	令和6年度から受入停止します。	
	現代文化	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	異文化間 コミュニティ	選必①	プログラム基礎科目から6単位以上修得し，そのうちジェンダー論A～E，複合エスニシティ論A～D，異文化コミュニケーション論A～Dから4単位以上修得
		選必②	プログラム展開科目から6単位以上修得し，そのうちジェンダー論特講A～D，複合エスニシティ論特講A～D，異文化コミュニケーション論特講A～Dから4単位以上修得
	歴史	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	芸術文化	プログラム基礎科目10単位以上，プログラム展開科目6単位以上修得	
	英語圏文化	プログラム基礎科目12単位以上，プログラム展開科目4単位修得	
	ヨーロッパ語圏 文化	選必①	プログラム基礎科目から10単位以上修得し，そのうちドイツ，フランス，ロシアの語学講義，文学講義，文化論講義から6単位以上修得 ※「**語コミュニケーション発展」，「総合**語」は含まない
選必②		プログラム展開科目から6単位以上修得し，そのうちドイツ，フランス，ロシアの語学演習，文学演習，文化論演習，文学・文化論演習から2単位以上修得 ※授業科目名に「演習」とあるものから修得すること	
アジア圏文化	プログラム基礎科目6単位以上，プログラム展開科目10単位以上修得		
地域政策課程	政策法務	憲法（人権）I，憲法（統治機構）A，刑法総論A，政治学（政治過程），刑事政策から4単位以上修得	
	企業法務	民法（物権）I，民法（債権総論）A，民法（債権各論）A，会社法A，労働法（個別法）から4単位以上修得	
	地域社会経済	指定なし ※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎I」を履修することが望ましい	
	地域社会連携	指定なし ※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎I」を履修することが望ましい	
	環境共生	選必①	環境政策論II，環境経済論B，環境社会学IまたはIIから4単位以上修得
選必②		環境生態学AまたはB，自然環境学AまたはBから2単位以上修得	

※グローバル・地域人材育成プログラムについては，III-69で確認してください。

6. 人間文化課程 科目等一覧

- 注1 単位数の「必」は必修科目、「選」は選択必修科目、「自」は自由選択科目の略です。必修、選択必修科目については、「4. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。
- 注2 下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。
- 注3 「総合科学基礎（地域政策）A・B」を4単位修得した場合、2単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

★課程科目単位修得要件

選必①から4単位以上、選必②から4単位以上修得

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数			対象学年	開講間隔	備考
			必	選	自			
学部共通科目	2	総合科学論	2			3前	1回/1年	集中 集中 集中 集中
	4	総合科学基礎（人間文化）A	2			1前	1回/1年	
		総合科学基礎（人間文化）B	2			1後	1回/1年	
	2	総合科学基礎（地域政策）A		2		2前	1回/1年	
		総合科学基礎（地域政策）B		2		2後	1回/1年	
	-	課題解決型国際研修（英語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（フランス語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（中国語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（韓国語）			2	1・2前	1回/1年	
		統計的機械学習実践			2	3後	1回/1年	
		プログラミング基礎			1	1後	1回/1年	
	プログラミング入門			2	2・3後	1回/1年		
課程科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年	選必①
		日本語表現基礎		2		2前後	1回/1年	選必①
		日本語読解基礎		2		2前後	1回/1年	選必①
		ドイツ語基礎		2		2後	1回/1年	選必①
		フランス語基礎		2		2後	1回/1年	選必①
		ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
		中国語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
		韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
		社会調査法		2		1後	1回/1年	選必①
		4	人間行動論		2		2前	1回/1年
	スポーツ科学			2		1後	1回/1年	選必②
	現代文化論			2		2前	1回/1年	選必②
	異文化間コミュニケーション論			2		2前	1回/1年	選必②
	芸術文化論			2		2前	1回/1年	選必②
	歴史学概論			2		2前	1回/1年	選必②
	英語圏文化論			2		2前	1回/1年	選必②
	ヨーロッパ語圏文化論			2		2前	1回/1年	選必②
	アジア圏文化論			2		2前	1回/1年	選必②
	デザイン基礎A			2		1前	1回/1年	選必②
	6	特別研究	6			4通	1回/1年	
他課程科目	4	民法（総則）Ⅰ		2		1前	1回/1年	要「Ⅰ」
		民法（総則）Ⅱ		2		1後	1回/1年	
		経済学基礎Ⅰ		2		1前	1回/1年	要「Ⅰ」
		経済学基礎Ⅱ		2		1後	1回/1年	
		環境政策論Ⅰ		2		1後	1回/1年	
		環境経済論A		2		1後	1回/1年	

* 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認ください。

◇行動科学専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

必修のプログラム基礎科目10単位を修得し、選必①から2単位以上、選必②から4単位以上、選必③から4単位以上、選必④を2分野以上（アルファベットが分野を表す）から6単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から6単位以上、プログラム展開科目から6単位以上修得

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	社会調査実習	2			2前	1回/1年	
	心理学基礎実験（心理学実験）	2			2後	1回/1年	
	特殊実験調査Ⅰ	2			3前	1回/1年	
	特殊実験調査Ⅱ	2			3後	1回/1年	
	副 行動科学方法論（心理学研究法）	2			3後	1回/1年	
	副 基礎統計学		2		2前	1回/1年	選必①
	副 統計学（検定・推定）		2		2後	1回/1年	選必①
	副 行動科学統計法A（心理学統計法Ⅰ）	2			2前	1回/1年	選必①
	副 心理学概論		2		2前	1回/1年	選必②
	副 実験心理学（神経・生理心理学）		2		2後	1回/1年	選必②
	副 認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ）		2		2前	1回/1年	選必②
	副 人格心理学（感情・人格心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必②
	副 臨床心理学（臨床心理学概論）		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副 社会心理学（社会・集団・家族心理学）		2		2前	1回/1年	選必②
	副 人間学		2		2前	1回/1年	選必③
	副 社会学概論		2		2前	1回/1年	選必③
副 家族社会学		2		2前	1回/1年	選必③	
副 地域社会学		2		2後	1回/1年	選必③	
副 ソーシャルデザイン論		2		2後	1回/1年	選必③	
プログラム 展開科目	副 実験心理学特講（学習・言語心理学）	2			3・4前	1回/2年	
	副 実験心理学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必④a
	副 実験心理学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④a
	副 認知心理学特講（知覚・認知心理学Ⅱ）	2			3・4後	1回/2年	
	副 認知心理学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必④a
	副 認知心理学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④a
	副 人格心理学特講	2			3・4後	1回/2年	
	副 人格心理学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必④a
	副 人格心理学演習B		2		3・4前	1回/2年	選必④a
	副 心理演習		2		3後	1回/1年	
	副 臨床心理学特講（心理学的支援法Ⅰ）	2			3・4前	1回/2年	
	副 臨床心理学演習A		2		3・4後	1回/2年	選必④a
	副 臨床心理学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④a
	副 心理検査法実習（心理的アセスメント）	2			3・4前	1回/2年	
	副 社会心理学特講（産業・組織心理学）	2			3・4後	1回/2年	
	副 犯罪社会心理学（司法・犯罪心理学）	2			3・4後	1回/2年	
	副 社会心理学演習A		2		3前	1回/1年	選必④a
	副 社会心理学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④a
	副 犯罪心理学演習		2		3・4後	1回/2年	選必④a
	副 基礎心理学		2		2・3前	1回/2年	集中
副 応用心理学		2		3・4前	1回/2年	集中	
副 文化心理学		2		3・4後	1回/2年	集中	
副 心理療法論（心理学的支援法Ⅱ）		2		3・4後	1回/2年	集中	
副 心理学通論		2		3後	1回/1年		
副 生理学特講		2		3・4前	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開 科目	副 人間学特講A		2		2・3後	1回/2年	
	副 人間学特講B		2		2・3後	1回/2年	
	副 人間学演習A		2		3前	1回/1年	選必④b
	副 人間学演習B		2		3後	1回/1年	選必④b
	副 論理学		2		2・3後	1回/2年	集中
	副 社会調査特講		2		3前	1回/1年	
	副 家族社会学特講A		2		3・4後	1回/2年	
	副 家族社会学特講B		2		3・4後	1回/2年	
	副 家族社会学演習A		2		3前	1回/1年	選必④b
	副 家族社会学演習B		2		3後	1回/1年	選必④b
	副 地域社会学特講A		2		3・4前	1回/2年	
	副 地域社会学特講B		2		3・4前	1回/2年	
	副 地域社会学演習A		2		3前	1回/1年	選必④b
	副 地域社会学演習B		2		3後	1回/1年	選必④b
	副 現代社会論		2		3前	1回/1年	集中
	副 ソーシャルデザイン論特講		2		3前	1回/1年	
	副 ソーシャルデザイン論演習A		2		3前	1回/1年	選必④b
	副 ソーシャルデザイン論演習B		2		3後	1回/1年	選必④b
主専修プログラム最低必要単位数		10	24	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇スポーツ科学専修プログラム（令和6年度入学生から受入停止）

主専修・副専修として受入することは出来ません。本科目で修得した科目は全て自由選択科目になります。

自由選択科目の記載についてはⅢ－30を参照願います。

科目区分	授業科目名	単位数			対象学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
基礎科目	スポーツ文化論		2		2前	1回/1年	
	スポーツプロデュース論		2		2後	1回/1年	
	スポーツ行動論		2		2前	1回/1年	
	社会学概論		2		2前	1回/1年	
	心理学概論		2		2前	1回/1年	
	健康運動論		2		2後	1回/1年	
	健康管理論		2		2後	1回/1年	
	健康づくり運動論		2		2前	1回/1年	
	健康づくり運動実習		2		2後	1回/1年	
	健康スポーツ指導法Ⅰ		1		2前	1回/1年	
	健康スポーツ指導法Ⅱ		1		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	スポーツ科学方法論		2		3前	1回/1年	
	スポーツ科学実験・実習		2		2後	1回/1年	
	地域スポーツコーディネータ実習		1		3前	1回/1年	集中
	スポーツ社会調査実習		2		3後	1回/1年	
展開科目	スポーツ行動論演習A		2		3前	1回/1年	
	スポーツ行動論演習B		2		3後	1回/1年	
	スポーツプロデュース演習A		2		3前	1回/1年	
	スポーツプロデュース演習B		2		3後	1回/1年	
	健康障害と予防		2		3後	1回/1年	
	運動生理学		2		3後	1回/1年	
	スポーツ心理学		2		2後	1回/1年	
	スポーツNPO論		2		3・4後	1回/2年	
	コーチング論		2		3後	1回/1年	
	バイオメカニクス		2		3前	1回/1年	
	スポーツと栄養		2		3・4前	1回/2年	
	スポーツ政策論		2		3・4後	1回/2年	
	健康運動処方論		2		3前	1回/1年	
	生理学特講		2		3・4前	1回/2年	
	現代社会論		2		3前	1回/1年	集中
スポーツトレーナー実習		1		3後	1回/1年	集中	

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

◇現代文化専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

必修のプログラム基礎科目4単位を修得し、選必①を2分野（アルファベットが分野を表す、以下同様）以上から6単位以上、選必②を2分野以上から4単位以上、選必③を2分野以上から6単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から6単位以上、プログラム展開科目から6単位以上修得

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎 科目	文化事象探究A	1			2・3後	1回/2年	
	文化事象探究B	1			3・4前	1回/2年	
	文化事象探究C	1			2・3後	1回/2年	
	文化事象探究D	1			3・4前	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副 社会文化思想論Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	選必①a
	副 社会文化思想論Ⅲ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副 社会文化思想論Ⅳ		2		2・3後	1回/2年	選必①a
	副 人間学		2		2前	1回/1年	選必①a
	副 ロシア文化論講義A		2		2・3前	1回/2年	選必①b
	副 ロシア文化論講義B		2		2・3前	1回/2年	選必①b
	副 文化記号論Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	選必①c
	副 文化記号論Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	選必①c
	副 文化記号論Ⅲ		2		2・3前	1回/2年	選必①c
	副 文化記号論Ⅳ		2		2・3後	1回/2年	選必①c
	副 美学芸術学入門		2		2前	1回/1年	選必①d
	副 音楽文化史A		2		2前	1回/1年	選必①d
副 音楽文化史B		2		2後	1回/1年	選必①d	
プログラム 展開 科目	副 社会文化思想論特講A		2		2後	1回/1年	選必②e
	副 社会文化思想論特講B		2		3前	1回/1年	選必②e
	副 人間学特講A		2		2・3後	1回/2年	選必②e
	副 人間学特講B		2		2・3後	1回/2年	選必②e
	副 表象文化論特講A		2		2・3後	1回/2年	選必②f
	副 表象文化論特講B		2		2・3後	1回/2年	選必②f
	副 芸術文化論特講A		2		3・4前	1回/2年	選必②g
	副 芸術文化論特講B		2		3・4前	1回/2年	選必②g
	副 音楽文化論特講A		2		2・3後	1回/2年	選必②g
	副 音楽文化論特講B		2		2・3後	1回/2年	選必②g
	副 ソーシャルデザイン論		2		2後	1回/1年	選必②h
	副 ソーシャルデザイン論特講		2		2後	1回/1年	選必②h
	副 メディア文化論特講A		2		2後	1回/1年	選必②h
	副 メディア文化論特講B		2		3前	1回/1年	選必②h
	副 現代文化特講A		2		2・3前	1回/2年	選必②i 集中
	副 現代文化特講B		2		2・3前	1回/2年	選必②i 集中
	社会文化思想論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必③j
	社会文化思想論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必③j
	社会文化思想論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必③j
	社会文化思想論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必③j
人間学演習A		2		3前	1回/1年	選必③j	
人間学演習B		2		3後	1回/1年	選必③j	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開 科目	ロシア文学・文化論演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必③k
	ロシア文学・文化論演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必③k
	ロシア文学・文化論演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必③k
	文化記号論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必③l
	文化記号論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必③l
	文化記号論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必③l
	文化記号論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必③l
	芸術文化論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必③m
	芸術文化論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必③m
	芸術文化論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必③m
	芸術文化論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必③m
	ソーシャルデザイン論演習A		2		3前	1回/1年	選必③n
	ソーシャルデザイン論演習B		2		3後	1回/1年	選必③n
	論理学		2		2・3後	1回/2年	
主専修プログラム最低必要単位数		4	30	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇異文化間コミュニティ専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から8単位以上（うち、各分野（アルファベットが分野を表す、以下同様）から2単位以上）、選必②から2単位以上修得、選必①、②以外のプログラム基礎科目から4単位以上、選必③を2分野以上から6単位以上、選必④から6単位以上、選必③、④以外のプログラム展開科目から4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から6単位以上（うち、副選①から4単位以上）、プログラム展開科目から6単位以上（うち、副選②から4単位以上）修得

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。また、クォーター制で開講する可能性のある授業科目は、備考欄に「Q」と記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考		
		必	選	自					
プ ロ グ ラ ム 基 礎 科 目	副 ジェンダー論A		2		2・3後	1回/2年	選必①a	Q	副選①
	副 ジェンダー論B		2		2・3前	1回/2年	選必①a	Q	副選①
	副 ジェンダー論C		2		2・3・4後	1回/3年	選必①a	Q	副選①
	副 ジェンダー論D		2		2・3・4後	1回/3年	選必①a	Q	副選①
	副 ジェンダー論E		2		2・3・4後	1回/3年	選必①a	Q	副選①
	副 複合エスニシティ論A		2		2・3前	1回/2年	選必①b		副選①
	副 複合エスニシティ論B		2		2・3後	1回/2年	選必①b		副選①
	副 複合エスニシティ論C		2		2・3前	1回/2年	選必①b		副選①
	副 複合エスニシティ論D		2		2・3後	1回/2年	選必①b		副選①
	副 異文化コミュニケーション論A		2		2・3前	1回/2年	選必①c		副選①
	副 異文化コミュニケーション論B		2		2・3後	1回/2年	選必①c		副選①
	副 異文化コミュニケーション論C		2		2・3前	1回/2年	選必①c		副選①
	副 異文化コミュニケーション論D		2		2・3後	1回/2年	選必①c		副選①
	副 韓国文化論講義A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 韓国文化論講義B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 韓国文化論講義C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 文化記号論II		2		2・3後	1回/2年			
	副 文化記号論III		2		2・3前	1回/2年			
	副 日本史講義B		2		2・3前	1回/2年			
	副 日本思想史講義B		2		2・3後	1回/2年			
	副 日本思想史講義D		2		2・3後	1回/2年			
	副 アジア史講義A		2		2・3前	1回/2年			
	副 アジア史講義B		2		2・3前	1回/2年			
	副 西洋史講義A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 西洋史講義B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 西洋史講義C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 ドイツ語学講義A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 ドイツ語学講義B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 ドイツ語学講義C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 ドイツ文学講義A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 ドイツ文学講義B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 フランス文化論講義A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 フランス文化論講義B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 フランス文化論講義C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副 ロシア文化論講義A		2		2・3前	1回/2年			
	副 ロシア文化論講義B		2		2・3前	1回/2年			
	副 言語習得論B		2		2後	1回/1年			
	副 日本文学講義D		2		2・3後	1回/2年			
	副 日本語学講義A		2		2・3前	1回/2年			
	副 中国思想史講義II		2		2・3後	1回/2年			
副 中国語学講義D		2		3・4後	1回/2年				
副 社会学概論		2		2前	1回/1年				
副 人格心理学（感情・人格心理学）		2		2・3後	1回/2年				

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 臨床心理学（臨床心理学概論）		2		2・3前	1回/2年	
	副 人間学		2		2前	1回/1年	
	副 家族社会学		2		2前	1回/1年	
	民法（家族法）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	選必②
	民法（家族法）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	選必② 要「Ⅰ」
	社会保障論		2		2前	1回/1年	選必②
	国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年	選必②
プログラム 展開科目	副 ジェンダー論特講A		2		3・4前	1回/2年	選必③d Q 副選②
	副 ジェンダー論特講B		2		3・4後	1回/2年	選必③d Q 副選②
	副 ジェンダー論特講C		2		3・4前	1回/2年	選必③d Q 副選②
	副 ジェンダー論特講D		2		3・4後	1回/2年	選必③d Q 副選②
	副 複合エスニシティ論特講A		2		3・4前	1回/2年	選必③e 副選②
	副 複合エスニシティ論特講B		2		3・4後	1回/2年	選必③e 副選②
	副 複合エスニシティ論特講C		2		3・4前	1回/2年	選必③e 副選②
	副 複合エスニシティ論特講D		2		3・4後	1回/2年	選必③e 副選②
	副 異文化コミュニケーション論特講A		2		3・4前	1回/2年	選必③f 副選②
	副 異文化コミュニケーション論特講B		2		2・3後	1回/2年	選必③f 副選②
	副 異文化コミュニケーション論特講C		2		3・4前	1回/2年	選必③f 副選②
	副 異文化コミュニケーション論特講D		2		2・3後	1回/2年	選必③f 副選②
	副 ジェンダー論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必④
	副 ジェンダー論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④
	副 ジェンダー論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必④
	副 ジェンダー論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必④
	副 複合エスニシティ論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必④
	副 複合エスニシティ論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④
	副 複合エスニシティ論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必④
	副 複合エスニシティ論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必④
	副 異文化コミュニケーション論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必④
	副 異文化コミュニケーション論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必④
	副 異文化コミュニケーション論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必④
	副 異文化コミュニケーション論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必④
	副 社会文化思想論特講A		2		2後	1回/1年	
	副 社会文化思想論特講B		2		3前	1回/1年	
	副 メディア文化論特講A		2		2後	1回/1年	
	副 メディア文化論特講B		2		3前	1回/1年	
	副 現代文化特講A		2		2後	1回/1年	集中
	副 現代文化特講B		2		3前	1回/1年	集中
	副 芸術文化論特講B		2		3・4前	1回/2年	
	副 音楽文化論特講B		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史特講A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講B		2		2・3・4後	1回/3年	
副 西洋史特講C		2		2・3・4後	1回/3年		
副 文化心理学		2		3・4後	1回/2年	集中	
副 人間学特講A		2		2・3後	1回/2年		
副 家族社会学特講A		2		3・4後	1回/2年		
副 家族社会学特講B		2		3・4後	1回/2年		
副 地域社会学特講B		2		3・4前	1回/2年		
副 スポーツNPO論		2		3・4後	1回/2年		
副 環境思想		2		2・3後	1回/2年		
主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇歴史専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

必修のプログラム基礎科目4単位，選必から4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得

注意 クォーター制で開講する可能性のある授業科目は，備考欄に「Q」と記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プ ロ グ ラ ム 基 礎 科 目	副 歴史資料論	2			2・3後	1回/2年	
	副 史学史	2			2・3後	1回/2年	
	副 日本史講義A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本史講義B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本思想史講義A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本思想史講義B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本思想史講義C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本思想史講義D		2		2・3後	1回/2年	
	副 アジア史講義A		2		2・3前	1回/2年	
	副 アジア史講義B		2		2・3前	1回/2年	
	副 アジア史講読A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 アジア史講読B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史講読C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 アジア史講読D		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史講義A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 西洋史講義B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 西洋史講義C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 考古学講義A		2		2・3前	1回/2年	
	副 考古学講義B		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅲ		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅳ		2		2・3後	1回/2年	
	副 ギリシャ語Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 ギリシャ語Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 ラテン語Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 ラテン語Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 スキルアップ・イングリッシュA		2		2・3前	1回/2年	
	副 スキルアップ・イングリッシュB		2		2・3前	1回/2年	
	副 総合ドイツ語A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合ドイツ語B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合ドイツ語C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合フランス語A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合フランス語B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合フランス語C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合ロシア語		2		2前	1回/1年	
	副 中国思想史講義Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 中国思想史講義Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 ジェンダー論D		2		2・3・4後	1回/3年	Q
	副 ジェンダー論E		2		2・3・4後	1回/3年	Q
	副 複合エスニシティ論B		2		2・3後	1回/2年	
	副 複合エスニシティ論C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本文学講義A		2		2・3前	1回/2年	
副 日本文学講義B		2		2・3後	1回/2年		
副 日本文学講義C		2		2・3前	1回/2年		
副 日本文学講義D		2		2・3後	1回/2年		
副 日本語学講義A		2		2・3前	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	古典籍古文書講読A		2		2・3前	1回/2年	
	古典籍古文書講読B		2		2・3後	1回/2年	
	ドイツ文学講義A		2		2・3・4前	1回/3年	
	ドイツ文学講義B		2		2・3・4前	1回/3年	
	ドイツ文学講義C		2		2・3・4前	1回/3年	
	フランス文学講義A		2		2・3・4前	1回/3年	
	フランス文学講義B		2		2・3・4前	1回/3年	
	フランス文化論講義A		2		2・3・4前	1回/3年	
	フランス文化論講義B		2		2・3・4前	1回/3年	
	フランス文化論講義C		2		2・3・4前	1回/3年	
	音楽文化史A		2		2前	1回/1年	
	音楽文化史B		2		2後	1回/1年	
	書道史		2		2・3前	1回/2年	
	美学芸術学入門		2		2前	1回/1年	
	基礎法A		2		2・3前	1回/2年	
	基礎法B		2		2・3後	1回/2年	
	プログラム 展開科目	副 日本史特講A		2		2・3・4後	1回/3年
副 日本史特講B			2		2・3・4後	1回/3年	
副 日本史特講C			2		2・3・4後	1回/3年	
副 日本史講読A			2		3・4前	1回/2年	
副 日本史講読B			2		2・3後	1回/2年	
副 日本史講読C			2		3・4前	1回/2年	
副 日本史講読D			2		2・3後	1回/2年	
副 日本史演習Ⅰ			2		3前	1回/1年	選必
副 日本史演習Ⅱ			2		3後	1回/1年	選必
副 日本史演習Ⅲ			2		4前	1回/1年	選必
副 日本史演習Ⅳ			2		4後	1回/1年	選必
副 日本思想史特講A			2		3・4前	1回/2年	
副 日本思想史特講B			2		3・4後	1回/2年	
副 日本思想史特講C			2		2・3・4前	1回/3年	集中
副 日本思想史講読Ⅰ			2		3・4前	1回/2年	
副 日本思想史講読Ⅱ			2		3・4後	1回/2年	
副 日本思想史演習Ⅰ			2		3・4前	1回/2年	選必
副 日本思想史演習Ⅱ			2		3・4後	1回/2年	選必
副 日本思想史演習Ⅲ			2		3・4前	1回/2年	選必
副 日本思想史演習Ⅳ			2		3・4後	1回/2年	選必
副 アジア史特講A			2		2・3・4後	1回/3年	
副 アジア史特講B			2		2・3・4後	1回/3年	
副 アジア史特講C			2		2・3・4後	1回/3年	
副 アジア史特講D			2		2・3・4前	1回/3年	集中
副 アジア史演習A			2		3・4前	1回/2年	選必
副 アジア史演習B			2		3・4後	1回/2年	選必
副 アジア史演習C			2		3・4前	1回/2年	選必
副 アジア史演習D			2		3・4後	1回/2年	選必
副 西洋史特講A			2		2・3・4後	1回/3年	
副 西洋史特講B			2		2・3・4後	1回/3年	
副 西洋史特講C			2		2・3・4後	1回/3年	
副 西洋史特講D			2		2・3・4前	1回/3年	集中
副 西洋史講読A		2		2・3・4後	1回/3年		
副 西洋史講読B		2		3・4前	1回/2年		
副 西洋史講読C		2		2・3・4後	1回/3年		
副 西洋史講読D		2		3・4前	1回/2年		
副 西洋史講読E		2		2・3・4後	1回/3年		
副 西洋史演習A		2		3・4前	1回/2年	選必	
副 西洋史演習B		2		3・4後	1回/2年	選必	
副 西洋史演習C		2		3・4前	1回/2年	選必	
副 西洋史演習D		2		3・4後	1回/2年	選必	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	副 考古学特講A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 考古学特講B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 考古学特講C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 考古学文献講読A		2		3・4前	1回/2年	
	副 考古学文献講読B		2		2・3後	1回/2年	
	副 考古学文献講読C		2		3・4前	1回/2年	
	副 考古学文献講読D		2		2・3後	1回/2年	
	副 考古学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必
	副 考古学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必
	副 考古学演習C		2		3・4前	1回/2年	選必
	副 考古学演習D		2		3・4後	1回/2年	選必
	副 社会文化思想論特講A		2		2後	1回/1年	
	副 社会文化思想論特講B		2		3前	1回/1年	
	社会文化思想論演習A		2		3・4前	1回/2年	
	社会文化思想論演習B		2		3・4後	1回/2年	
	社会文化思想論演習C		2		3・4前	1回/2年	
	社会文化思想論演習D		2		3・4後	1回/2年	
	中国思想史特講A		2		3・4前	1回/2年	
	中国思想史特講B		2		3・4後	1回/2年	
	美術史Ⅰ		2		3前	1回/1年	
	美術史Ⅱ		2		3後	1回/1年	
	環境思想		2		2・3後	1回/2年	
	日本経済史		2		2・3後	1回/2年	
主専修プログラム最低必要単位数		4	30	—	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		—	16	—	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇芸術文化専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

必修のプログラム基礎科目 2 単位，プログラム展開科目 6 単位，選必①から 2 単位以上，選必②から 4 単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から 10 単位以上，プログラム展開科目から 6 単位以上修得

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	プロジェクト実践演習（基礎）	2			2後	1回/1年	
	副 美学芸術学入門		2		2前	1回/1年	選必①
	副 デザイン論		2		2前	1回/1年	選必①
	副 色彩演習		2		2後	1回/1年	選必①
	副 美術史入門		2		2後	1回/1年	選必①
	副 書道史		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副 音楽文化史 A		2		2前	1回/1年	選必①
	副 音楽文化史 B		2		2後	1回/1年	選必①
	副 音楽理論 I		2		2後	1回/1年	
	副 音楽理論 II		2		3後	1回/1年	
	副 造形実習（絵画） A		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（絵画） B		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（絵画） C		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（絵画） D		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（絵画） E		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（絵画） F		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（彫刻） A		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（彫刻） B		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（彫刻） C		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（彫刻） D		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（彫刻） E		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（彫刻） F		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（版画） I		1		2前	1回/2年	※ 3 注意事項参照
	副 造形実習（版画） II		1		2前	1回/2年	※ 4 注意事項参照
	副 造形実習（窯芸） I		1		2前	1回/1年	※ 5 注意事項参照
	副 造形実習（窯芸） II		1		2後	1回/1年	※ 5 注意事項参照
	副 造形実習（染織） I		1		2前	1回/1年	※ 5 注意事項参照
	副 造形実習（染織） II		1		2後	1回/1年	※ 5 注意事項参照
	副 造形実習（視覚文化） A		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（視覚文化） B		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（視覚文化） C		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（視覚文化） D		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（視覚文化） E		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（視覚文化） F		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（中国書法） A		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（中国書法） B		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（中国書法） C		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（中国書法） D		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（中国書法） E		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（中国書法） F		1		2・3・4後	1回/3年	
	副 造形実習（日本書法） A		1		2・3・4前	1回/3年	
	副 造形実習（日本書法） B		1		2・3・4後	1回/3年	
副 造形実習（日本書法） C		1		2・3・4前	1回/3年		
副 造形実習（日本書法） D		1		2・3・4後	1回/3年		
副 造形実習（日本書法） E		1		2・3・4前	1回/3年		
副 造形実習（日本書法） F		1		2・3・4後	1回/3年		
プログラム 展開科目	プロジェクト実践演習（発展） I	2			3前	1回/1年	
	プロジェクト実践演習（発展） II	2			3後	1回/1年	
	プロジェクト実践演習（発展） III	2			4前	1回/1年	
	副 美術史 I		2		3前	1回/1年	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プ ロ グ ラ ム 展 開 科 目	副 美術史Ⅱ		2		3後	1回/1年	
	副 書学		2		3・4前	1回/2年	
	副 芸術文化論特講A		2		3・4前	1回/2年	
	副 芸術文化論特講B		2		3・4前	1回/2年	
	副 音楽文化論特講A		2		2・3後	1回/2年	
	副 音楽文化論特講B		2		2・3後	1回/2年	
	芸術文化論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必②
	芸術文化論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必②
	芸術文化論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必②
	芸術文化論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必②
	美術史演習A		2		3・4前	1回/2年	選必②
	美術史演習B		2		3・4後	1回/2年	選必②
	美術史演習C		2		3・4前	1回/2年	選必②
	美術史演習D		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（絵画）A		2		3・4前	1回/2年	選必② 集中
	造形演習（絵画）B		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（絵画）C		2		3・4前	1回/2年	選必② 集中
	造形演習（絵画）D		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（彫刻）A		2		3・4前	1回/2年	選必②
	造形演習（彫刻）B		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（彫刻）C		2		3・4前	1回/2年	選必②
	造形演習（彫刻）D		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（版画）Ⅰ		2		3前	1回/2年	選必② ※3 注意事項参照
	造形演習（版画）Ⅱ		2		3前	1回/2年	選必② ※4 注意事項参照
	造形演習（窯芸）Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必② ※5 注意事項参照
	造形演習（窯芸）Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必② ※5 注意事項参照
	造形演習（染織）Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必② ※5 注意事項参照
	造形演習（染織）Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必② ※5 注意事項参照
	造形演習（視覚文化）A		2		3・4前	1回/2年	選必② 集中
	造形演習（視覚文化）B		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（視覚文化）C		2		3・4前	1回/2年	選必② 集中
	造形演習（視覚文化）D		2		3・4後	1回/2年	選必②
	造形演習（応用書法）Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必②
	造形演習（応用書法）Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必② 集中
	造形演習（応用書法）Ⅲ		2		4前	1回/1年	選必②
	造形演習（応用書法）Ⅳ		2		4後	1回/1年	選必②
主専修プログラム最低必要単位数		8	26	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

- *1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
 *2 単位数欄の「必」, 「選」, 「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。
 *3 上記※3の科目については, 令和6, 8年度のみ開講となります。令和9年度以降は開講しません。
 *4 上記※4の科目については, 令和7年度のみ開講となります。令和8年度以降は開講しません。
 *5 上記※5の科目については, 令和9年度以降開講しません。

◇英語圏文化専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

必修のプログラム基礎科目4単位，選必①から2単位以上，選必②から2単位以上，選必③から2単位以上，選必④から2単位以上，必修のプログラム展開科目2単位，選必⑤の1分野（アルファベットが分野を表す）から4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から12単位以上，プログラム展開科目から4単位修得

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 英米文化論講義A		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副 英米文化論講義B		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副 英米文化論講義C		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副 英米文化論講義D		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副 英米文化論講義E		2		2前	1回/1年	選必①
	副 英米文化論講義F		2		2後	1回/1年	選必①
	副 英米文学講義C		2		2前	1回/1年	選必②
	副 英米文学講義D		2		2後	1回/1年	選必②
	副 言語習得論A		2		2前	1回/1年	選必③
	副 言語習得論B		2		2後	1回/1年	選必③
	副 英語学講義A		2		2前	1回/1年	選必④
	副 英語学講義B		2		2・3後	1回/2年	選必④
	副 英語学講義C		2		2前	1回/1年	選必④
	副 英語学講義D		2		2後	1回/1年	選必④
	副 英語学講義E		2		2・3後	1回/2年	選必④
	副 英語学講義F		2		2後	1回/1年	選必④
	副 英語コミュニケーション基礎Ⅰ	2			2前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション基礎Ⅱ		2		2後	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション発展Ⅰ	2			3前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション発展Ⅱ		2		3後	1回/1年	
	副 西洋史講義A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 西洋史講義B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 西洋史講義C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 ギリシャ語Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 ギリシャ語Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 ラテン語Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 ラテン語Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 アカデミック・イングリッシュⅠ		2		2・3前	1回/2年	
	副 アカデミック・イングリッシュⅡ		2		2・3前	1回/2年	
	副 パワーアップ・イングリッシュA		2		2・3後	1回/2年	
	副 パワーアップ・イングリッシュB		2		2・3後	1回/2年	
	副 スキルアップ・イングリッシュA		2		2・3前	1回/2年	
副 スキルアップ・イングリッシュB		2		2・3前	1回/2年		
プログラム 展開科目	副 英米文学・文化論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤a
	英米文学・文化論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤a
	副 英米文学・文化論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必⑤a
	英米文学・文化論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必⑤a
	副 英語習得論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤b
	英語習得論演習B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤b
	副 英語習得論演習C		2		3・4前	1回/2年	選必⑤b
	英語習得論演習D		2		3・4後	1回/2年	選必⑤b

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開 科目	副 英語学演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c
	英語学演習 B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c
	副 英語学演習 C		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c
	英語学演習 D		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c
	副 英語学演習 E		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c
	英語学演習 F		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c
	副 英語学演習 G		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c
	英語学演習 H		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c
	英語コミュニケーション応用 I	2			3後	1回/1年	
	英語コミュニケーション応用 II		2		4前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション実践 I		2		3前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション実践 II		2		3後	1回/1年	
主専修プログラム最低必要単位数		6	28	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」, 「選」, 「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇ヨーロッパ語圏文化専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から4単位以上，選必②から4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から10単位以上（うち，副選①から6単位以上），プログラム展開科目から6単位以上（うち，副選②から2単位以上）修得

注意 クォーター制で開講する可能性のある授業科目は，備考欄に「Q」と記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 基礎科目	副 ドイツ語学講義A		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ語学講義B		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ語学講義C		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ文学講義A		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ文学講義B		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ文学講義C		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ文化論講義A		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ文化論講義B		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 ドイツ文化論講義C		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 フランス語学講義		2		2前	1回/1年	選必①	副選①
	副 フランス文学講義A		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 フランス文学講義B		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 フランス文学講義C		2		2・3・4前	1回/3年	選必①	副選①
	副 フランス文化論講義A		2		2・3・4後	1回/3年	選必①	副選①
	副 フランス文化論講義B		2		2・3・4後	1回/3年	選必①	副選①
	副 フランス文化論講義C		2		2・3・4後	1回/3年	選必①	副選①
	副 ロシア語学講義		2		2・3前	1回/2年	選必①	副選①
	副 ロシア文化論講義A		2		2・3前	1回/2年	選必①	副選①
	副 ロシア文化論講義B		2		2・3前	1回/2年	選必①	副選①
	副 総合ドイツ語A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 総合ドイツ語B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 総合ドイツ語C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 ドイツ語コミュニケーション発展A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 ドイツ語コミュニケーション発展B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 ドイツ語コミュニケーション発展C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 総合フランス語A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 総合フランス語B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 総合フランス語C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 フランス語コミュニケーション発展A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 フランス語コミュニケーション発展B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 フランス語コミュニケーション発展C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 総合ロシア語		2		2前	1回/1年		
	副 ロシア語コミュニケーション発展A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 ロシア語コミュニケーション発展B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 ロシア語コミュニケーション発展C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 英米文化論講義A		2		2・3前	1回/2年		
	副 英米文化論講義B		2		2・3後	1回/2年		
	副 英米文化論講義C		2		2・3前	1回/2年		
	副 英米文化論講義D		2		2・3後	1回/2年		
	副 英米文化論講義E		2		2前	1回/1年		
	副 英米文化論講義F		2		2後	1回/1年		
	副 英米文学講義C		2		2前	1回/1年		
副 英米文学講義D		2		2後	1回/1年			
副 言語習得論A		2		2前	1回/1年			
副 言語習得論B		2		2後	1回/1年			
副 英語学講義A		2		2前	1回/1年			
副 英語学講義B		2		2・3後	1回/2年			
副 英語学講義C		2		2前	1回/1年			

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 英語学講義D		2		2後	1回/1年	
	副 英語学講義E		2		2・3後	1回/2年	
	副 英語学講義F		2		2後	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション基礎Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション基礎Ⅱ		2		2後	1回/1年	
	副 ギリシャ語Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 ラテン語Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 西洋史講義A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 西洋史講義B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 西洋史講義C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 日本語学概説		2		2前	1回/1年	
	副 日本語学講義A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講義B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語学講義C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講義D		2		2・3後	1回/2年	
	副 ジェンダー論B		2		2・3前	1回/2年	Q
	副 ジェンダー論D		2		2・3・4後	1回/3年	Q
	副 複合エスニシティ論B		2		2・3後	1回/2年	
	副 複合エスニシティ論D		2		2・3後	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅲ		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会文化思想論Ⅳ		2		2・3後	1回/2年	
	副 音楽文化史A		2		2前	1回/1年	
プログラム 展開科目	副 ドイツ語学演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ語学演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ語学演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ文学演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ文学演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ文学演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ文化論演習A		2		3・4前	1回/2年	選必② 副選②
	副 ドイツ文化論演習B		2		3・4前	1回/2年	選必② 副選②
	副 フランス文学演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 フランス文学演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 フランス文学演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 フランス文化論演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 フランス文化論演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 フランス文化論演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
プログラム 展開科目	副 ロシア文学・文化論演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ロシア文学・文化論演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ロシア文学・文化論演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必② 副選②
	副 ドイツ語コミュニケーション実践A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス語コミュニケーション実践A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス語コミュニケーション実践B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス語コミュニケーション実践C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ロシア語コミュニケーション実践A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ロシア語コミュニケーション実践B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ロシア語コミュニケーション実践C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ロシア語コミュニケーション実践D		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ロシア語コミュニケーション実践E		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ロシア語コミュニケーション実践F		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アカデミック・イングリッシュⅠ		2		3・4前	1回/2年	
	副 アカデミック・イングリッシュⅡ		2		3・4前	1回/2年	
	副 英語コミュニケーション応用Ⅰ		2		3後	1回/1年	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 展開 科目	英語コミュニケーション応用Ⅱ		2		4前	1回/1年		
	副 英語コミュニケーション実践Ⅰ		2		3前	1回/1年		
	副 英語コミュニケーション実践Ⅱ		2		3後	1回/1年		
	副 西洋史特講A		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 西洋史特講B		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 西洋史特講C		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 ジェンダー論特講A		2		3・4前	1回/2年	Q	
	副 ジェンダー論特講B		2		3・4後	1回/2年	Q	
	副 ジェンダー論特講C		2		3・4前	1回/2年	Q	
	副 ジェンダー論特講D		2		3・4後	1回/2年	Q	
	副 複合エスニシティ論特講A		2		3・4前	1回/2年		
	副 複合エスニシティ論特講B		2		3・4後	1回/2年		
	副 複合エスニシティ論特講C		2		3・4前	1回/2年		
	副 複合エスニシティ論特講D		2		3・4後	1回/2年		
	副 社会文化思想論特講A		2		2後	1回/2年		
	副 表象文化論特講A		2		2・3後	1回/2年		
	副 表象文化論特講B		2		2・3後	1回/2年		
	副 人間学特講B		2		2・3後	1回/2年		
	主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
	副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇アジア圏文化専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から2単位以上，選必②から2単位以上，選必③から2単位以上，選必④から2単位以上，選必⑤を2分野以上（アルファベットが分野を表す，以下同様）から6単位以上，選必⑥の1分野から4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から10単位以上修得

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プ ロ グ ラ ム 基 礎 科 目	日本史講義A		2		2・3前	1回/2年	選必①
	日本史講義B		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副 日本思想史講義A		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副 日本思想史講義B		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副 日本思想史講義C		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副 日本思想史講義D		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副 アジア史講義A		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副 アジア史講義B		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副 アジア史講読A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 アジア史講読B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史講読C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 アジア史講読D		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 日本文学講義A		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副 日本文学講義B		2		2・3後	1回/2年	選必③
	副 日本文学講義C		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副 日本文学講義D		2		2・3後	1回/2年	選必③
	副 日本語学概説		2		2前	1回/1年	選必③
	副 日本語学講義A		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副 日本語学講義B		2		2・3後	1回/2年	選必③
	副 日本語学講義C		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副 日本語学講義D		2		2・3後	1回/2年	選必③
	副 日本語学講読A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講読B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語教育概論I		2		2前	1回/1年	
	副 日本語教育概論II		2		2後	1回/1年	
	副 日本語教授法講義I		2		2前	1回/1年	
	副 日本語教授法講義II		2		2後	1回/1年	
	副 学校教育を受けるための日本語		2		2後	1回/1年	
	副 古典籍古文書講読A		2		2・3前	1回/2年	
	副 古典籍古文書講読B		2		2・3後	1回/2年	
	副 中国思想史講義I		2		2・3前	1回/2年	
	副 中国思想史講義II		2		2・3後	1回/2年	
	副 中国文学講義I		2		2・3前	1回/2年	選必④
	副 中国文学講義II		2		2・3後	1回/2年	選必④
	副 中国語学講義A		2		2・3前	1回/2年	選必④
	副 中国語学講義B		2		2・3後	1回/2年	選必④
	副 中国語学講義C		2		2・3前	1回/2年	選必④
	副 中国語学講義D		2		2・3後	1回/2年	選必④
	副 中国語学講読A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 中国語学講読B		2		2・3・4後	1回/3年	
副 中国語学講読C		2		2・3・4前	1回/3年		
副 中国語学講読D		2		2・3・4後	1回/3年		
副 中国語学講読E		2		2・3・4前	1回/3年		
副 中国語学講読F		2		2・3・4後	1回/3年		
副 韓国文化論講義A		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国文化論講義B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国文化論講義C		2		2・3・4前	1回/3年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 考古学講義A		2		2・3前	1回/2年	
	副 考古学講義B		2		2・3前	1回/2年	
	副 書道史		2		2・3前	1回/2年	
	副 地域社会学		2		2後	1回/1年	
	副 漢文学概論		2		2前	1回/1年	
	副 漢文学講義		2		2後	1回/1年	
	副 複合エスニシティ論A		2		2・3前	1回/2年	
	副 複合エスニシティ論B		2		2・3後	1回/2年	
	副 複合エスニシティ論C		2		2・3前	1回/2年	
	副 複合エスニシティ論D		2		2・3後	1回/2年	
プログラム 展開科目	副 書学		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本史特講A		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑤a
	副 日本史特講B		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑤a
	副 日本史特講C		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑤a
	副 日本史講読A		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本史講読B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本史講読C		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本史講読D		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本史演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	
	副 日本史演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	
	副 日本史演習Ⅲ		2		4前	1回/1年	
	副 日本史演習Ⅳ		2		4後	1回/1年	
	副 日本思想史特講A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤a
	副 日本思想史特講B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤a
	副 日本思想史特講C		2		2・3・4前	1回/3年	選必⑤a 集中
	副 日本思想史講読Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本思想史講読Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本思想史演習Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	選必⑥d
	副 日本思想史演習Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	選必⑥d
	副 日本思想史演習Ⅲ		2		3・4前	1回/2年	選必⑥d
	副 日本思想史演習Ⅳ		2		3・4後	1回/2年	選必⑥d
	副 アジア史特講A		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑤a
	副 アジア史特講B		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑤a
	副 アジア史特講C		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑤a
	副 アジア史特講D		2		2・3・4前	1回/3年	選必⑤a 集中
	副 アジア史演習A		2		3・4前	1回/2年	選必⑥e
	副 アジア史演習B		2		3・4後	1回/2年	選必⑥e
	副 アジア史演習C		2		3・4前	1回/2年	選必⑥e
	副 アジア史演習D		2		3・4後	1回/2年	選必⑥e
	副 日本文学特講A		2		2後・3前	1回/2年	選必⑤b
	副 日本文学特講B		2		2後・3前	1回/2年	選必⑤b
	副 日本文学講読A		2		2後・3前	1回/2年	選必⑤b
	副 日本文学講読B		2		2後・3前	1回/2年	選必⑤b
	副 日本文学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必⑥f
	副 日本文学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必⑥f
	副 日本文学演習C		2		3・4前	1回/2年	選必⑥f
	副 日本文学演習D		2		3・4後	1回/2年	選必⑥f
	副 日本語学特講A		2		3・4後	1回/2年	選必⑤b
	副 日本語学特講B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤b
	副 日本語学特講C		2		2・3後	1回/2年	選必⑤b
副 日本語学特講D		2		2・3後	1回/2年	選必⑤b	
副 日本語学演習Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	選必⑥g	
副 日本語学演習Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	選必⑥g	
副 日本語学演習Ⅲ		2		3・4前	1回/2年	選必⑥g	
副 日本語学演習Ⅳ		2		3・4後	1回/2年	選必⑥g	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開 科目	副 中国思想史特講A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c
	副 中国思想史特講B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c
	副 中国文学特講A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c
	副 中国文学特講B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c
	副 中国語学特講A		2		3・4前	1回/2年	選必⑤c 集中
	副 中国語学特講B		2		3・4後	1回/2年	選必⑤c 集中
	副 中国語学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必⑥h
	副 中国語学演習B		2		3・4後	1回/2年	選必⑥h
	副 中国語学演習C		2		3・4前	1回/2年	選必⑥h
	副 中国語学演習D		2		3・4後	1回/2年	選必⑥h
	副 社会文化思想論特講B		2		3前	1回/1年	
主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

7. 地域政策課程 科目等一覧

注1 単位数の「必」は必修科目、「選」は選択必修科目、「自」は自由選択科目の略です。必修、選択必修科目については、「4. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。

注2 下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は、備考欄に「要『（単位修得が必要な授業科目名の数字）』」を記載しています。

注3 「総合科学基礎（人間文化）A・B」を4単位修得した場合、2単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数			対象学年	開講間隔	備考
			必	選	自			
学部共通科目	2	総合科学論	2			3前	1回/1年	集中 集中 集中 集中 集中
	4	総合科学基礎（地域政策）A	2			1前	1回/1年	
		総合科学基礎（地域政策）B	2			1後	1回/1年	
	2	総合科学基礎（人間文化）A		2		2前	1回/1年	
		総合科学基礎（人間文化）B		2		2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（英語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（フランス語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（中国語）			2	1・2後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（韓国語）			2	1・2前	1回/1年	
		統計的機械学習実践			2	3後	1回/1年	
	プログラミング基礎			1	1後	1回/1年		
	プログラミング入門			2	2・3後	1回/1年		
課程共通科目	8	民法（総則）Ⅰ	2			1前	1回/1年	要「Ⅰ」 要「Ⅰ」
		民法（総則）Ⅱ		2		1後	1回/1年	
		経済学基礎Ⅰ	2			1前	1回/1年	
		経済学基礎Ⅱ		2		1後	1回/1年	
		環境政策論Ⅰ	2			1後	1回/1年	
	環境経済論A		2		1後	1回/1年		
6	特別研究	6			4通	1回/1年		
他課程科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年	
		日本語表現基礎		2		2前後	1回/1年	
		日本語読解基礎		2		2前後	1回/1年	
		ドイツ語基礎		2		2後	1回/1年	
		フランス語基礎		2		2後	1回/1年	
		ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		中国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		社会調査法		2		1後	1回/1年	
		人間行動論		2		2前	1回/1年	
		スポーツ科学		2		1後	1回/1年	
		現代文化論		2		2前	1回/1年	
		異文化間コミュニティ論		2		2前	1回/1年	
		芸術文化論		2		2前	1回/1年	
		歴史学概論		2		2前	1回/1年	
		英語圏文化論		2		2前	1回/1年	
		ヨーロッパ語圏文化論		2		2前	1回/1年	
		アジア圏文化論		2		2前	1回/1年	
		デザイン基礎A		2		1前	1回/1年	
		書法基礎		2		1後	1回/1年	
		ドイツ語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年	
フランス語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年			
ロシア語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年			

* 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

◇政策法務専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から4単位以上，選必②から2単位以上，選必③から2単位以上，選必④から同名授業科目Ⅰ及びⅡを4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

副選から4単位以上修得

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 憲法（人権）Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 憲法（人権）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 憲法（統治機構）A		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 憲法（統治機構）B		2		2後	1回/1年	
	副 刑法総論A		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 刑法総論B		2		2後	1回/1年	
	副 政治学（政治過程）		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必②
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必②
	副 環境統計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必②
	副 民法（物権）Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 民法（物権）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 民法（債権総論）A		2		2・3前	1回/2年	
	副 民法（債権総論）B		2		2・3後	1回/2年	
	副 民法（債権各論）A		2		2・3前	1回/2年	
	副 民法（債権各論）B		2		2・3後	1回/2年	
	副 民法（家族法）Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 民法（家族法）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	副 雇用管理法		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 刑法各論A		2		2・3前	1回/2年	
	副 刑法各論B		2		2・3後	1回/2年	
	副 刑事訴訟法（証拠法・公判法）		2		2・3後	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	要「Ⅰ」
	副 行政法（救済法）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（救済法）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	要「Ⅰ」
	副 政治学（政治理論）		2		2後	1回/1年	
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 刑事政策		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 基礎法A		2		2・3前	1回/2年	
	副 基礎法B		2		2・3後	1回/2年	
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 社会保障論		2		2前	1回/1年	
副 環境政策論Ⅱ		2		2前	1回/1年	要「Ⅰ」	
プログラム 展開科目	副 地域政策実践演習A		2		3後	1回/1年	選必③
	副 地域政策実践演習B		2		3後	1回/1年	選必③
	副 民法（相続法）		2		2後	1回/1年	
	副 刑事訴訟法（捜査法・公訴法）		2		3・4前	1回/2年	
	副 国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
副 少年法		2		3・4前	1回/2年	集中	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 展開科目	法律学特講 A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	法律学特講 B		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	法律学特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	法律学特講 D		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	法律学特講 E		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	法律学特講 F		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 地方財政論			2		3・4前	1回/2年	
	政治学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	憲法演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（財産法）演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（家族法）演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	商法演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑法演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑事訴訟法演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	労働法演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	理論経済学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治経済学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	財政学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	農業経済論演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	経営学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境政策論演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境経済論演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境社会学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	自然環境学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境生態学演習 I			2		3前	1回/1年	選必④
環境生態学演習 II			2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと			
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと			

*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇企業法務専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から4単位以上，選必②から2単位以上，選必③から2単位以上，選必④から同名授業科目Ⅰ及びⅡを4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

副選から4単位以上修得

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 民法（物権）Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 民法（物権）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 民法（債権総論）A		2		2・3前	1回/2年	選必① 副選
	副 民法（債権総論）B		2		2・3後	1回/2年	
	副 民法（債権各論）A		2		2・3前	1回/2年	選必① 副選
	副 民法（債権各論）B		2		2・3後	1回/2年	
	副 会社法A		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副 会社法B		2		2後	1回/1年	
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	選必① 副選
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必②
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必②
	副 環境統計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必②
	副 憲法（人権）Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 憲法（人権）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 民法（家族法）Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 民法（家族法）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 刑法総論A		2		2前	1回/1年	
	副 刑法総論B		2		2後	1回/1年	
	副 刑法各論A		2		2・3前	1回/2年	
	副 刑法各論B		2		2・3後	1回/2年	
	副 商法A		2		2前	1回/1年	
	副 商法B		2		2後	1回/1年	
	副 雇用管理法		2		2・3前	1回/2年	
	副 基礎法A		2		2・3前	1回/2年	
	副 基礎法B		2		2・3後	1回/2年	
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 理論経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 理論経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 政治経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 政治経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
副 会計学Ⅰ		2		2前	1回/1年		
副 会計学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」	
副 経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年		
副 経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」	
副 金融論		2		2・3前	1回/2年	集中	
副 環境経済論B		2		2前	1回/1年	要「Ⅰ」	
プログラム 展開科目	副 地域政策実践演習A		2		3後	1回/1年	選必③
	副 地域政策実践演習B		2		3後	1回/1年	選必③
	副 民法（相続法）		2		2後	1回/1年	
	副 民事訴訟法A		2		3・4前	1回/2年	
	副 民事訴訟法B		2		2・3後	1回/2年	
副 金融法		2		2・3後	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	知的財産法		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講A		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講C		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講E		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講F		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	企業論		2		2・3前	1回/2年	集中
	労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	環境経済論特講		2		2・3後	1回/2年	
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④	
環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇地域社会経済専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から4単位以上，選必②から2単位以上，選必③から2単位以上，選必④から同名授業科目Ⅰ及びⅡを4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

副専修プログラム科目から16単位以上修得

※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎Ⅰ」を履修することが望ましい。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 理論経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副 理論経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必① 要「Ⅰ」
	副 財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副 財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必① 要「Ⅰ」
	副 国際経済論A		2		2前	1回/1年	選必①
	副 国際経済論B		2		2後	1回/1年	選必①
	副 農業経済論Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副 農業経済論Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必① 要「Ⅰ」
	副 ミクロ経済学		2		2前	1回/1年	選必①
	副 金融論		2		2・3前	1回/2年	選必① 集中
	経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	会計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	会計学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	経済外書講読		2		2・3後	1回/2年	
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年	
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年	
	行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	要「Ⅰ」
	副 環境政策論Ⅱ		2		2前	1回/1年	要「Ⅰ」
	政治学（政治理論）		2		2後	1回/1年	
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年	
	副 地域経済調査演習		2		2前	1回/1年	選必②
	副 地域経済実践演習		2		2後	1回/1年	選必②
	副 環境統計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必③
	環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必③
	自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必③
プログラム 展開科目	応用マクロ経済学		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本経済史		2		2・3後	1回/2年	
	人的資源管理論		2		2・3後	1回/2年	要「経営学総論Ⅰ」
	経済思想		2		2・3後	1回/2年	
	企業論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本経済論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年	
	経済学特講		2		2・3前	1回/2年	集中
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「Ⅰ」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「Ⅰ」
財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇地域社会連携専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

選必①から4単位以上，選必②から2単位以上，選必③から2単位以上，選必④から同名授業科目Ⅰ及びⅡを4単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

副専修プログラム科目から16単位以上修得

※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎Ⅰ」を履修することが望ましい。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副 経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必① 要「Ⅰ」
	副 会計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副 会計学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必① 要「Ⅰ」
	副 社会保障論		2		2前	1回/1年	選必①
	副 政治経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副 政治経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必① 要「Ⅰ」
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年	選必①
	副 農業経済論Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 農業経済論Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 国際経済論A		2		2前	1回/1年	
	副 国際経済論B		2		2後	1回/1年	
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 会社法A		2		2・3前	1回/2年	
	副 会社法B		2		2・3後	1回/2年	
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	副 社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 環境政策論Ⅱ		2		2前	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 社会学概論		2		2前	1回/1年	
	副 環境社会学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副 環境社会学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副 地域経済調査演習		2		2前	1回/1年	選必②
	副 地域環境マネジメント実践演習		2		2後	1回/1年	選必②
	副 環境統計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必③
副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必③	
副 自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必③	
プログラム 展開科目	副 地方財政論		2		3・4前	1回/2年	
	副 協同組合論		2		2・3後	1回/2年	
	副 マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 日本経済論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 経済学特講		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 国際法A		2		3・4前	1回/2年	集中
	副 国際法B		2		3・4前	1回/2年	集中
	副 国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
副 家族社会学		2		3前	1回/1年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④	
刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④	
労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
主専修プログラム最低必要単位数		0	34	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇環境共生専修プログラム

★主専修プログラム単位修得要件

必修のプログラム基礎科目 2 単位，選必①から 4 単位以上，選必②から 2 単位以上，選必③から 2 単位以上，選必④から同名授業科目Ⅰ及びⅡを 4 単位以上修得

★副専修プログラム単位修得要件（副専修プログラム科目から選択）

副選①から 4 単位以上，副選②から 2 単位以上修得

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考		
		必	選	自					
プログラム基礎科目	副 環境政策論Ⅱ		2		2前	1回/1年	選必①	要「Ⅰ」	副選①
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年	選必①		副選①
	副 環境社会学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①		副選①
	副 環境社会学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①	要「Ⅰ」	副選①
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必②		副選②
	副 環境生態学B		2		2後	1回/1年			副選②
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必②		副選②
	副 自然環境学B		2		2後	1回/1年			副選②
	副 環境統計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必②		副選②
	副 環境統計学Ⅱ		2		2後	1回/1年		要「Ⅰ」	副選②
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年			
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年			
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年			
	副 政治学（政治過程）		2		2前	1回/1年			
	副 政治学（政治理論）		2		2後	1回/1年			
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年			
	副 理論経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年			
	副 理論経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年		要「Ⅰ」	
	副 経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年			
	副 経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年		要「Ⅰ」	
	副 農業経済論Ⅰ		2		2前	1回/1年			
	副 農業経済論Ⅱ		2		2後	1回/1年		要「Ⅰ」	
	副 財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年			
	副 財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年		要「Ⅰ」	
	副 ミクロ経済学		2		2前	1回/1年			
	副 国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年			
	副 環境科学演習	2			2前	1回/1年			
	副 環境科学実験		2		2前	1回/1年			集中
	副 環境社会調査実習		2		2・3後	1回/2年			
	副 環境社会調査演習		2		2前	1回/1年		選必③	
	副 地域環境マネジメント実践演習		2		2後	1回/1年		選必③	
	プログラム展開科目	副 環境経済論特講		2		2・3後	1回/2年		
副 環境社会学特講			2		3・4前	1回/2年			
副 環境思想			2		2・3後	1回/2年			
副 環境倫理学			2		3・4前	1回/2年			
副 国際法A			2		3・4前	1回/2年			集中
副 国際法B			2		3・4前	1回/2年			集中
副 企業論			2		2・3前	1回/2年			集中
副 地方財政論			2		3・4前	1回/2年			
副 環境学特講A			2		2・3・4前	1回/3年			集中
副 環境学特講B			2		2・3・4前	1回/3年			集中
副 環境学特講C			2		2・3・4前	1回/3年			集中

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」
農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④	
農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④	
経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④ 要「I」	
主専修プログラム最低必要単位数		2	32	-	基礎・展開から各10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2 単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

8. 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧

《課程横断型プログラム》

人間文化課程，地域政策課程のどちらにも属さない，課程横断型のプログラムです。どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できます。（このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。）

◇グローバル・地域人材育成プログラム

目的・養成人材像

海外の研修等で獲得したグローバルな視点や行動力を生かし，個々の学生の所属する課程に応じた専門性に基づく，社会的・文化的あるいは環境問題にかかわる地域の諸問題の解決に貢献する能力と意欲を育成します。

科目の履修について

本プログラムを副専修プログラムに選択し，「留学型」または「国際研修型」どちらかの要件を満たして修得した単位は，「副専修プログラム科目」の修得しなければならない単位数に算入されます。

国際教育科目の授業科目は現時点のもので，廃止・追加される場合があります。授業科目の廃止・追加は，掲示により周知します。なお，教養教育の修得単位に算入される海外研修や外国語研修等は，本プログラムの修得単位には算入できませんが，教養教育科目の単位になる海外研修や外国語研修等を単位修得した場合は，国際研修型の科目区分ごとの必要修得単位数が変わりますので，備考欄で確認してください。教養教育科目の単位になる海外研修や外国語研修等は，本手引きの「資格試験等による単位認定」や「教養教育科目について」のページ，国際教育センター（または国際課）で確認してください。また，国際教育科目の修得単位および留学により修得した単位には制限があるので，Ⅲ-30の「自由選択科目」の説明をよく読み，注意してください。

科目区分等		授業科目名	単位数	必要修得単位数	備考
留学型	国際教育科目	Comparative Japanese History A	2	4	対象学年や開講時期等は国際教育センターまたは国際課で確認すること。
		Comparative Japanese History B	2		
		Japanese History A	2		
		Japanese History B	2		
	専修プログラム科目	国際経済論A	2		
		国際経済論B	2		
		国際政治学	2		
		複合エスニシティ論A	2		
		複合エスニシティ論B	2		
		複合エスニシティ論C	2		
		複合エスニシティ論D	2		
		異文化コミュニケーション論A	2		
		異文化コミュニケーション論B	2		
		異文化コミュニケーション論C	2		
		異文化コミュニケーション論D	2		
個別履修科目	履修生それぞれの履修目的に沿って，専門教育科目の中から指定された授業科目	-	4	履修生個別科目申請書により申請し，了承を得ること。	
留学	交換留学（海外協定大学への留学）により履修した授業科目 ※半年～1年間で帰国後報告義務有	-	8	修得単位を主専修プログラム科目の単位に申請・登録した場合は本区分には算入できない。 事前に担当の教員と人文社会科学部のどの専門教育科目に振り替えるか相談すること。	
合計			16		

科目区分等		授業科目名	単位数	必要修得単位数	備考
		課題解決型国際研修（英語）	2		教養教育科目の単位になる海外研修や外国語研修等を単位修得した場合は本区分の単位修得は不要。
		課題解決型国際研修（ドイツ語）	2		
		課題解決型国際研修（フランス語）	2		
		課題解決型国際研修（中国語）	2		
		課題解決型国際研修（韓国語）	2		
		国際合宿 注：国際教育科目です	2		
関連科目	国際教育科目	留学型「国際教育科目」と同じ		4	対象学年や開講時期等は国際教育センターまたは国際課で確認すること。
	専修プログラム科目	留学型「専修プログラム科目」と同じ			
外国語科目		スキルアップ・イングリッシュA	2	2以上	計10（12）
		スキルアップ・イングリッシュB	2		
		総合ドイツ語A	2		
		総合ドイツ語B	2		
		総合ドイツ語C	2		
		総合フランス語A	2		
		総合フランス語B	2		
		総合フランス語C	2		
		総合ロシア語	2		
		英語コミュニケーション基礎Ⅰ	2		
		英語コミュニケーション基礎Ⅱ	2		
		中国語学講読A	2		
		中国語学講読B	2		
		中国語学講読C	2		
中国語学講読D	2				
中国語学講読E	2				
中国語学講読F	2				
個別履修科目※		履修生それぞれの履修目的に沿って、専門教育科目の中から指定された授業科目	-	6（8）以上	履修生個別科目申請書により申請し、了承を得ること。教養教育科目の単位になる海外研修や外国語研修等を単位修得した場合は、括弧書きの単位数を修得しなければならない。
合 計				16	

※履修生個別科目

本プログラムは副専修プログラムであることから、グローバル・地域人材育成副専修プログラムの目的と養成人材像を踏まえて、主専修以外のプログラムの専門科目から選択してください。

◇課外科目

注 課外科目は、単位修得しても卒業に必要な単位に算入できません。

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講間隔	備考	
課外科目	模擬裁判実践演習	1	2前	1回/1年	集中	
	教職入門	2	1前	1回/1年	集中 集中 集中	
	教育概論	2	2前	1回/1年		
	教育・学校心理学	2	1後	1回/1年		
	教育法規	2	2前	1回/1年		
	学校経営・制度論	2	2後	1回/1年		
	特別支援教育	2	2前	1回/1年		
	教育課程・教育方法論	2	2前	1回/1年		
	道德教育の理論と実践	2	2後	1回/1年		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2後	1回/1年		
	特別活動の理論と方法	2	1後	1回/1年		
	教育におけるICT活用法	1	3年	1回/1年		
	生徒指導・進路指導	2	1後	1回/1年		
	教育相談	2	2前	1回/1年		
	中学校教育実習	4	4通	1回/1年		
	高等学校教育実習	2	4通	1回/1年		
	教育実習事前事後指導	1	3～4	1回/1年		
	教職実践演習(中・高)	2	4後	1回/1年		
	国語科教育法Ⅰ	2	2前	1回/1年		
	国語科教育法Ⅱ	2	2後	1回/1年		
	国語科教育法Ⅲ	2	3前	1回/1年		
	国語科教育法Ⅳ	2	4後	1回/1年		
	社会科教材研究法	2	2前	1回/1年		
	社会科学習内容構築論	2	4後	1回/1年		
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2	2後	1回/1年		
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2	2前	1回/1年		
	地理歴史科教育法	2	2前	1回/1年		
	公民科教育法	2	2後	1回/1年		
	英語科教育法Ⅰ	2	2前	1回/1年		
	英語科教育法Ⅱ	2	2・3後	1回/2年		
	英語科教育法Ⅲ	2	2・3後	1回/2年		
	英語科教育法Ⅳ	2	4後	1回/1年		
	人文地理学概論A	2	1後	1回/1年		
	地誌学	2	2前	1回/1年		
	学芸員関係	生涯学習概論Ⅱ	2	1前	1回/1年	集中
		博物館概論	2	1後	1回/1年	
		博物館経営論	2	3後	1回/1年	
		博物館資料論	2	3前	1回/1年	
		博物館資料保存論	2	2前	1回/1年	
		博物館展示論	2	2前	1回/1年	集中
		博物館教育論	2	2後	1回/1年	
		博物館情報・メディア論	2	2後	1回/1年	
博物館実習		3	4前	1回/1年		
日本語	日本語教育実習事前指導	1	2後	1回/1年	集中	
	日本語教育実習	1	2後	1回/1年	集中	
公認心理師	公認心理師の職責	1	1後	1回/1年	集中 集中	
	健康・医療心理学	1	2前	1回/1年		
	福祉心理学	1	2後	1回/1年	集中	
	精神疾患とその治療	2	2後	1回/1年		
	関係行政論	1	3前	1回/1年		
	発達心理学	2	2後	1回/1年		
心理実習	2	4通	1回/1年	集中		

*備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

9. 取得可能な資格等について

本学部で取得可能な資格等は以下のとおりです。

一部の資格では、課外科目（卒業に必要な単位に算入できない授業科目）の単位修得が必要なものもあります。また、授業科目の履修する順番が決まっている場合もありますので、本手引きをよく読んで、資格取得を目指してください。

- ・教育職員免許状（教員免許）
- ・学芸員資格
- ・日本語教員
- ・社会調査士
- ・認定心理士
- ・公認心理師（受験資格の一部※）
- ・環境再生医 初級
- ・自然再生士補

※公認心理師については、大学で所定の単位を修得し、その後、大学院で所定の単位を修得するルート等で、受験資格が得られます。

■教育職員免許状

本学部で取得できる教員免許は、以下のとおりです。所属課程により、取得できる教員免許の種類が異なるので注意してください。

人間文化課程

中学校：国語，社会，英語

高等学校：国語，地理歴史，公民，英語

地域政策課程

高等学校：公民

教員免許取得のために必要な授業科目や修得単位数，また，履修条件等の詳細は，本手引きの「Ⅷ教育職員免許状・各種資格の取得について」で確認してください。

■学芸員資格

学芸員の職務や資格取得方法等の概略は，文化庁ホームページで確認してください。

文化庁HP https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html

本学部で開講する学芸員資格取得のための科目は以下のとおりです。履修対象学年や開講学期等は課外科目の科目等一覧で確認してください。

- ・生涯学習概論Ⅱ
- ・博物館概論
- ・博物館経営論
- ・博物館資料論
- ・博物館資料保存論
- ・博物館展示論
- ・博物館教育論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館実習

なお、「博物館実習」を履修するには、「博物館実習」以外の学芸員資格取得のための授業科目全ての単位（16単位）を修得していなければなりません。

■日本語教員養成

日本語教員の職務等の概略は文化庁ホームページ及び法務省ホームページで確認してください。

文化庁HP <https://www.bunka.go.jp/> 法務省HP <https://www.moj.go.jp/index.html>

本学部では、日本語教員養成に関して文化庁が示した標準的な教育内容に基づき、日本語教員養成のための科目を以下のとおり開講します。下記の所定の科目を履修し単位を修得した者に対しては、「日本語教育科目単位修得証明書」を交付します。

科目区分	科目名	単位数	修得すべき 単位数
教養教育科目	基礎ゼミナール	1	1
教養教育科目	外国語科目 ※	1	2
人社専門 アジア圏文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅰ	2	2
人社専門 アジア圏文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅱ	2	2
人社専門 アジア圏文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅰ	2	2
人社専門 アジア圏文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅱ	2	2
人社専門 アジア圏文化・基礎科目	学校教育を受けるための日本語	2	2
人社専門 アジア圏文化・基礎科目	日本語学概説	2	2
人社専門 人間文化課程・課程科目	異文化間コミュニティ論	2	2
人社専門 人間文化課程・課程科目	国際交流研修	2	2
人社専門 課外科目	日本語教育実習事前指導	1	1
人社専門 課外科目	日本語教育実習	1	1
教養教育科目	欧米の言語論	2	2
教養教育科目	言葉の世界 ※※	2	
教養教育科目	多文化コミュニケーションA	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションB	2	
人社専門 課外科目（教職）	教育・学校心理学	2	2
人社専門 英語圏文化・基礎科目	言語習得論A	2	
人社専門 英語圏文化・基礎科目	言語習得論B	2	
合計			27

※外国語科目は2単位まで充当できる。

※※「言葉の世界」は指定クラスを受講すること。（掲示でお知らせします。）

■社会調査士

社会調査士資格の概要は、一般社団法人社会調査協会HPで確認してください。

一般社団法人社会調査協会HP <https://jasr.or.jp/>

本資格の取得は、行動科学専修プログラムおよび環境共生専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

■認定心理士

認定心理士資格の概要は、公益社団法人日本心理学会HPで確認してください。

公益社団法人日本心理学会HP <https://www.psych.or.jp/>

本資格の取得は、行動科学専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

■公認心理師

公認心理師資格の概要は、厚生労働省HPで確認してください。

厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

本資格の取得は、行動科学専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

■環境再生医 初級

環境再生医資格の概要は、認定NPO法人自然環境復元協会HPで確認してください。

認定NPO法人自然環境復元協会HP <https://www.narec.or.jp/>

本資格の取得は、環境共生専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

■自然再生士補

自然再生士補資格の概要は、一般財団法人日本緑化センターHPで確認してください。

一般財団法人日本緑化センターHP <http://www.jpgreen.or.jp/>

本資格の取得は、環境共生専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

VIII

教育職員免許状・ 各種資格の取得方法

VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は、教育職員免許状を取得しようとする場合は、正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが、学科・課程によっては代替できない場合もある）、**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが25単位～37単位）及び教養教育科目として開講している**「憲法」2単位、「健康・スポーツ科目」から2単位、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、中級ドイツ語、中級フランス語、中級ロシア語、中級中国語、中級韓国語」から2単位、「情報基礎」2単位**を修得する必要がある、相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は、次ページ以降（人文社会科学部、理工学部、農学部）のとおりです。教育学部の学生はⅣ－8ページ以降のとおりです。

※農学部共同獣医学科では教育職員免許状を取得することはできません。

・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に、教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護・介助等の体験を**7日間**行うことが必要です。ただし、介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学 部	学 科 等	免許状の種類	教 科 ・ 領 域
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭1種免許状	国語，社会，英語
		高等学校教諭1種免許状	国語，地理歴史，公民，英語
	地域政策課程	高等学校教諭1種免許状	公民
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，英語
		高等学校教諭1種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，音楽，美術，保健体育，英語
		特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者に関する教育の領域，肢体不自由者に関する教育の領域，病弱者に関する教育の領域
理工学部	化学・生命理工学科	高等学校教諭1種免許状	理科，工業
	物理・材料理工学科		数学，理科，工業
	システム創成工学科		
農学部	植物生命科学科	高等学校教諭1種免許状	理科，農業
	応用生物化学科		
	森林科学科		
	食料生産環境学科		
	動物科学科		

○人文社会科学部

本学部所属学生が教育職員免許状（以下「教員免許」という。）を取得するには、以下の条件を満たしていなければなりません。

- ①教員免許取得の基礎資格（学士の学位）を有していること。
- ②表1の単位を修得していること。
- ③教養教育で開講する以下の授業科目の単位を修得していること。

- ・憲法 2単位
- ・健康・スポーツ 2単位
- ・英語コミュニケーション※ 2単位

※中級ドイツ語，中級フランス語，中級ロシア語，中級中国語，中級韓国語でも可

- ・情報基礎 2単位

- ④中学校教員免許を取得する場合は、「介護等の体験（特別支援学校2日間，社会福祉施設等5日間の実習）」を実施していること。

詳細については1年前期に開講する「教職入門」で説明するので，教員免許取得希望者は必ず「教職入門」を申告のうえ履修してください。

なお，各課程で取得できる教員免許は，前ページの「1 教育職員免許状の取得に当たって」で確認してください。

表1 教員免許取得に必要な単位数

	教職に関する科目	独自科目	各教科の指導法	教科に関する科目	計
中学校1種	30単位	3単位	8単位	20単位	61単位
高等学校1種	26単位	11単位	4単位	20単位	61単位

◆教育実習について

「教育実習事前事後指導（1単位）」の内容

1. 教育実習ガイダンス（3年次4月中～下旬）

教育実習申込に係る必要書類配付および実習実施にあたっての注意事項説明

2. 事前指導（3年次）

事前指導①（7月）

教員養成支援センター教員による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

事前指導②（8月）

教育学部附属中学校教諭による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

および附属中学校見学にあたっての注意事項説明

事前指導③（8月）

教育学部附属中学校における観察実習

事前指導④（12月下旬）

教育実習報告会の聴講

3. 事前指導（4年次4月中～下旬）

教育実習記録簿配付と教育実習直前での実習実施に係る心構えに関する講話

4. 事後指導（4年次後期）

事後指導①（教育実習終了後2週間以内）

教育実習レポートの提出

事後指導②（12月下旬）

教育実習報告会に参加し、他の学生の教育実習実施報告を聴講し、教育実習を振り返る

教育実習実施の要件

3年次末までに、以下に掲げる要件を満たしていること。

- ①事前指導をすべて受講している
- ②「教育実習ガイダンス」に参加している
- ③卒業に必要な単位（課外科目を除く）を96単位以上修得している
- ④教職に関する科目のうち3年次末までに修得できる単位数の半数以上を修得している
- ⑤「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得している
- ⑥教育実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得している
- ⑦教科に関する科目を10単位以上修得していること

教育実習の実施について

教育実習を行う学校は、原則、各自の出身校（母校）です。母校での実習が困難な時は、学生センター③窓口にご相談ください。中学校教員免許取得の場合は、中学校で4週間（約160時間）、高等学校教員免許取得の場合は、高等学校で2週間（約80時間）、実習を行わなければなりません。実習は、5月中旬～6月下旬に行われることが多いですが、実習校により異なりますので、申込みの際に必ず確認してください。

教育実習実施希望者は、3年次の「教育実習ガイダンス」に参加してください。教育実習申込書を配付しますので、期日までに必要事項を記入した申込書を学生センター③窓口提出してください。7月中旬頃に、実習予定校宛の依頼文書等をお渡しします。

実習予定校への申し込みは、事前に実習予定校に連絡し、訪問日時を予約した後、長期休業（夏休み）期間中に上記依頼文書持参で、実習予定校に依頼してください。近年、教育実習生の受け入れを制限する学校が増えており、実習を断られる場合もあります。2年次から実習予定校のHPの確認や実習予定校への連絡を行い、教育実習実施の意思を伝えると共に、教育実習の申込時期を問い合わせるなど、早めの行動を心がけてください。

教育実習終了後は、2週間以内にレポートを提出してください。教育実習事後指導の一部で、「教育実習事前事後指導」の単位修得に関わりますので、忘れずに提出してください。

◆教育職員免許取得に係る注意事項

教職ポートフォリオの作成

教員免許取得に関する指導の際に、その学修状況を確認するため、教職ポートフォリオ（学修記録）を作成しなければなりません。毎年度末に教職ポートフォリオを提出してもらいますので、日頃から配付された資料の整理や記録を行ってください。提出時期等は掲示板・アイアシスタントでお知らせします。

4年次後期に履修する「教職実践演習」では、教職ポートフォリオを使ってグループワーク等を行います。毎年度末の教職ポートフォリオの確認を受けていないと「教職実践演習」を履修することができませんので、十分注意してください。

「介護等の体験」の実施（中学校教員免許取得希望者のみ）

中学校教員免許を取得するには、「介護等の体験（介護等体験実習）」を行わなければなりません。

ん。この実習は個人で申し込むことはできませんので、中学校教員免許取得を希望する場合は、2年次11月中～下旬に行われるガイダンスと3年次4月に行われる事前指導に必ず出席してください。2年次のガイダンスでは介護等体験実習の申込用紙等を配付しますので、期日までに学生センター③窓口へ提出してください。3年次の事前指導は2回行いますが、全て出席しなければなりません。

介護等体験実習は、3年次の6～12月に行われ、期間は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の計7日間です。実習先や実習日は、申込書に基づき、岩手県社会福祉協議会（社会福祉施設等）および岩手県教育委員会（特別支援学校）が決めます。

教員免許状の授与申請

教員免許は、岩手県教育委員会に申請し、授与されますが、本学では、卒業見込者の教員免許状申請を一括して行っています。卒業と同時に免許状授与を希望する場合は、期日までに必要書類を学生センター③窓口へ提出してください。申請書類の配付や提出締切等は掲示板・アイアシスタントでお知らせいたします（12月中旬頃）。

◆教職に関する科目の履修について

教職に関する科目は、一部授業科目で履修する順番が下記のとおり決まっています。

- ①「教職入門」履修後でなければ、他の教職に関する科目を履修できない
- ②国語科教育法は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修しなければならない
- ③中学校（社会）の免許取得希望者の「各教科指導法」の履修に当たって、社会科教材研究法は、少なくとも中等社会科教育法A（社会・地理）あるいは中等社会科教育法B（社会・公民）のどちらかの科目を履修した後に履修すること。
- ④高等学校（地理歴史）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法A（社会・地歴）、地理歴史科教育法の順に履修しなければならない
- ⑤高等学校（公民）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法B（社会・公民）、公民科教育法の順に履修しなければならない

上記以外にも履修の要件がある場合もありますので、シラバスや掲示板をよく確認して履修してください。

◆教科に関する科目および独自科目の履修について

「教科に関する科目」は、免許状の種類および教科により、表2のとおり科目（区分）が定められています。各科目（区分）1単位以上修得したうえで「教科に関する科目」の免許取得に必要な単位数を修得しなければなりません。「独自科目」は、教科に関する科目、各教科の指導法、および教職に関する科目のそれぞれの免許取得に必要な修得単位数を超えて修得した単位が算入されます。

表2 免許種・教科別の科目区分

免許種	教科	科目（区分）
中学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
		国文学（国文学史を含む。）
		漢文学
		書道（書写を中心とする。）
	社会	日本史・外国史
		地理学（地誌を含む。）
		「法律学、政治学」
		「社会学、経済学」
	英語	英語学
		英語文学
		英語コミュニケーション
		異文化理解
	高等学校 第1種	国語
国文学（国文学史を含む。）		
漢文学		
地理歴史		日本史
		外国史
		人文地理学・自然地理学
		地誌
公民		「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」
英語		英語学
		英語文学
		英語コミュニケーション
	異文化理解	

※「 」は、鍵括弧内の科目（区分）から、1つ以上の科目（区分）の授業科目の単位を修得しなければなりません。例えば、中学校社会の「法律学、政治学」では、法律学の科目（区分）の授業科目だけを修得しても教員免許を取得できます。

教職に関する科目(中学校30単位、高校26単位)

科目	各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
				中学 必 選	高校 必 選	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ※「(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」を含む。	教職入門	1前	2	2	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「(チーム学校運営への対応を含む。)」を含む。	教育概論	2前	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育法規	2前	2	2	教育法規, 学校経営・制度論から2単位必修
		学校経営・制度論	2後	2	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1後	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2前	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2後	2		中学のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2後	2	2	
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	1後	2	2	
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」を含む。	教育課程・教育方法論	2前	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	3年	1	1	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1後	2	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2前	2	2		
教育実践に関する科目	教育実習 中5単位、高3単位 ※事前指導含むこと	教育実習事前事後指導	3~4	1	1	
		中学校教育実習	4通	4		
		高等学校教育実習	4通		2	
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	4後	2	2	

各教科の指導法に関する科目(中学校8単位、高校4単位)

各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
			中学 必 選	高校 必 選	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	2前	2	2	ⅠからⅣの順に履修 高校:Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	国語科教育法Ⅱ	2後	2	2	
	国語科教育法Ⅲ	3前	2	2	
	国語科教育法Ⅳ	4後	2		
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2後	2	2	高校地歴:中等社会科教育法Aと地理歴史科教育法を履修
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2前	2	2	
	社会科教材研究法	3前	2		
	社会科学習内容構築論	4後	2		高校公民:中等社会科教育法Bと公民科教育法を履修
	地理歴史科教育法	3前		2	
	公民科教育法	2後		2	
	英語科教育法Ⅰ	2前	2	2	高校:Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	英語科教育法Ⅱ	2・3後	2	2	
	英語科教育法Ⅲ	2・3後	2	2	
	英語科教育法Ⅳ	4後	2		

教科に関する科目 科目区分別授業科目一覧

《人間文化課程》

科目	科目 (区分)	授業科目名	単位	免許種	備考
国語	国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	必 日本語学概説	2	中学 高校	高等学校免許取得希望者が「書法基礎」を修得しても、「独自科目」の単位には算入できない。 授業科目名の「必」は必修の授業科目であることを意味している (以下同様)。
		日本語学講義A	2	中学 高校	
		日本語学講義B	2	中学 高校	
		日本語学講義C	2	中学 高校	
		日本語学講義D	2	中学 高校	
		日本語学講読A	2	中学 高校	
		日本語学講読B	2	中学 高校	
		日本語学特講A	2	中学 高校	
		日本語学特講B	2	中学 高校	
		日本語表現基礎	2	中学 高校	
		日本語読解基礎	2	中学 高校	
		中国語学講義B	2	中学 高校	
	国文学 (国文学史を含む。)	必 日本文学講義A	2	中学 高校	
		必 日本文学講義B	2	中学 高校	
		必 日本文学講義C	2	中学 高校	
		必 日本文学講義D	2	中学 高校	
		古典籍古文書講読A	2	中学 高校	
		古典籍古文書講読B	2	中学 高校	
	漢文学	必 漢文学概論	2	中学 高校	
		漢文学講義	2	中学 高校	
書道 (書写を中心とする。)	必 書法基礎	2	中学		
社会史	日本史	必 日本史講義A	2	中学 高校	中学校免許では、日本史＋外国史の授業科目＝日本史・外国史の授業科目、人文地理学・自然地理学＋地誌の授業科目＝地理学 (地誌を含む。) の授業科目。必修、選択必修の授業科目も同様である。 授業科目名の「選必」は選択必修の授業科目であることを意味している (以下同様)。
		必 日本史講義B	2	中学 高校	
		日本史特講A	2	中学 高校	
		日本史特講B	2	中学 高校	
		日本史特講C	2	中学 高校	
		日本史講読A	2	中学 高校	
		日本史講読B	2	中学 高校	
		日本史講読C	2	中学 高校	
		日本史講読D	2	中学 高校	
		考古学講義A	2	中学 高校	
	考古学講義B	2	中学 高校		
	外国史	必 西洋史講義A	2	中学 高校	選必 アジア史講義A, 同Bから2単位修得すること。
		必 西洋史講義B	2	中学 高校	
		西洋史講義C	2	中学 高校	
		選必 アジア史講義A	2	中学 高校	
		選必 アジア史講義B	2	中学 高校	
		西洋史特講A	2	中学 高校	
		西洋史特講B	2	中学 高校	
		西洋史講読A	2	中学 高校	
		西洋史講読B	2	中学 高校	
西洋史講読C		2	中学 高校		
西洋史講読D	2	中学 高校			
西洋史講読E	2	中学 高校			
アジア史特講A	2	中学 高校			
アジア史特講B	2	中学 高校			
アジア史特講C	2	中学 高校			
人文地理学・自然地理学	必 人文地理学概論A	2	中学 高校	※課外科目	
地誌	必 地誌学	2	中学 高校	※課外科目	

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
社	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	中学 高校	中学校免許では、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」の授業科目＝「法律学、政治学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。 本科目（区分）の授業科目は、全て地域政策課程の授業科目（一部専修プログラムでは専修プログラム科目になっている授業科目もある）。
		民法（総則）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（総則）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（家族法）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（家族法）Ⅱ	2	中学 高校	
		憲法（人権）Ⅰ	2	中学 高校	
憲法（人権）Ⅱ	2	中学 高校			
会	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 社会学概論	2	中学 高校	中学校免許では、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の授業科目＝「社会学、経済学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		地域社会学	2	中学 高校	
		地域社会学特講A	2	中学 高校	
		地域社会学特講B	2	中学 高校	
		家族社会学	2	中学 高校	
		家族社会学特講A	2	中学 高校	
家族社会学特講B	2	中学 高校			
公	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人間学	2	中学 高校	中学校免許では、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の授業科目＝「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目である。心理学は高等学校のみで、中学校免許取得のための修得単位数には算入できない。 中学社会「選必」人間学、日本思想史講義A、日本思想史講義Bから2単位修得すること。 高校公民「選必」人間学、日本思想史講義A、日本思想史講義B、心理学概論から2単位修得すること。
		選必 日本思想史講義A	2	中学 高校	
		人間学特講A	2	中学 高校	
		人間学特講B	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義B	2	中学 高校	
		日本思想史講義C	2	中学 高校	
		日本思想史講義D	2	中学 高校	
		日本思想史特講A	2	中学 高校	
		日本思想史特講B	2	中学 高校	
		日本思想史特講C	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅰ	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅱ	2	中学 高校	
		社会文化思想論Ⅱ	2	中学 高校	
		社会文化思想論Ⅳ	2	中学 高校	
選必 心理学概論	2	高校			
選必 実験心理学（神経・生理心理学）	2	高校			
選必 認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ）	2	高校			
選必 社会心理学（社会・集団・家族心理学）	2	高校			
選必 臨床心理学（臨床心理学概論）	2	高校			
選必 認知心理学特講（知覚・認知心理学Ⅱ）	2	高校			
選必 人格心理学特講	2	高校			
民					

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
英語	英語学	必 英語学講義D	2	中学 高校	
		言語習得論A	2	中学 高校	
		言語習得論B	2	中学 高校	
		英語学講義A	2	中学 高校	
		英語学講義B	2	中学 高校	
		英語学講義C	2	中学 高校	
		英語学講義F	2	中学 高校	
	英語文学	必 英米文学講義D	2	中学 高校	
		英米文学講義C	2	中学 高校	
	英語コミュニケーション	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ	2	中学 高校	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ，スキルアップ・イングリッシュBから2単位修得すること。
		選必 スキルアップ・イングリッシュB	2	中学 高校	
		英語コミュニケーション基礎Ⅱ	2	中学 高校	
		スキルアップ・イングリッシュA	2	中学 高校	
	異文化理解	必 英米文化論講義E	2	中学 高校	
		英米文化論講義A	2	中学 高校	
		英米文化論講義B	2	中学 高校	
		英米文化論講義C	2	中学 高校	
		英米文化論講義D	2	中学 高校	
		英米文化論講義F	2	中学 高校	

《地域政策課程》

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考	
公	「法学（国際法を含む。） 政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	高校		
		民法（総則）Ⅰ	2	高校		
		民法（総則）Ⅱ	2	高校		
		民法（物権）Ⅰ	2	高校		
		民法（物権）Ⅱ	2	高校		
		民法（家族法）Ⅰ	2	高校		
		民法（家族法）Ⅱ	2	高校		
		憲法（人権）Ⅰ	2	高校		
	憲法（人権）Ⅱ	2	高校			
	民	「社会学、経済学（国際 経済を含む。）」	必 経済学基礎Ⅰ	2		高校
			環境社会学Ⅰ	2		高校
			環境社会学Ⅱ	2		高校
			経済学基礎Ⅱ	2		高校
			農業経済論Ⅰ	2		高校
農業経済論Ⅱ			2	高校		
理論経済学Ⅰ			2	高校		
理論経済学Ⅱ			2	高校		
財政学Ⅰ			2	高校		
財政学Ⅱ			2	高校		
環境経済論A			2	高校		
環境経済論特講	2	高校				
	「哲学、倫理学、宗教 学、心理学」	選必 人間学	2	高校	選必：人間学，日本思想史講義A，日本思想史講義B，心理学概論から2単位修得すること。 本科目（区分）の授業科目は，全て人間文化課程の授業科目。	
		選必 日本思想史講義A	2	高校		
		選必 日本思想史講義B	2	高校		
		選必 心理学概論	2	高校		

○理工学部

本学部で取得できる教員免許状（Ⅷ-1ページ参照）を取得するためには、以下の条件を満たす必要があります。

- 1) 基礎資格（学士の学位）を有していること
- 2) Ⅷ-11ページ表1に示す、教職に関する科目を**26単位**修得していること
- 3) 表2に示す各教科の指導法に関する科目を**4単位**修得していること及びⅧ-13～Ⅷ-22ページ表3に示す教科に関する科目を**31単位**修得していること（**計35単位以上**）
- 4) 教養教育科目で開講している、下記の単位を修得していること（**計8単位**）
「憲法」2単位 「健康・スポーツA」1単位 「健康・スポーツB」又は「健康・スポーツC」1単位
「英語コミュニケーションⅠ」1単位 「英語コミュニケーションⅡ」1単位 「情報基礎」2単位

詳細については、1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修してください。なお1年次前期に「教職入門」を履修できない学生は、学生センターA棟④番窓口（学務課）に相談してください。

※教員免許状に関する問い合わせ先は、学生センターA棟④番窓口（学務課）です。

表1. 教職に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 ※注1	修得すべき単位数 (合計26単位)			履修年次	開講期
			数学	理科	工業 ※注4		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	2	2	2	1	前期
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2	2	2	2～	前期
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	2	2	2	1～	後期
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規 ※注2	2	2	2	2～	前期
		学校経営・制度論 ※注2					
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2	2	2～	前期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2～	後期
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2	2	2	1～	後期
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2	2	2	2～	前期
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	1	1	1	3～	後期
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	2	2	1～	後期
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	1～	後期
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	2	2	2	4	後期
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前・事後指導1単位含む）※注3	3	3	3	3～4	

表 2. 各教科の指導法に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 ※注 1	修得すべき単位数 (合計 4 単位)			履修年次	開講期
			数学	理科	工業 ※注 4		
教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法 I	2	—	—	2～	前期
		数学科教育法 II	2	—	—	2～	後期
		理科教法 I	—	2	—	2～	前期
		理科教法 II	—	2	—	2～	後期
		工業教育法 I	—	—	2	2～	前期
		工業教育法 II	—	—	2	2～	後期

注 1 ・理工学部在籍時に、理工学部で開設している科目で必要単位を取得してください。
 ・隔年開講又は専門科目（必修）と開講時期が重なる等で履修できない場合は、次年度以降に履修して単位を取得してください。

注 2 「教育法規」又は「学校経営・制度論」から 1 科目を選択履修してください。

注 3 教育実習については、ガイダンスを 3 年次の 5 月頃におこないますが、特に以下のことに注意してください。

(1) 教育実習ができる条件について（下記 1～5 を全て満たしている必要があります）

- 1) 卒業見込みの者（研究室に配属されていること）
- 2) 教職に関する科目の単位の 1/2 以上（13 単位）を修得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の 1/2 以上（16 単位）を修得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を 2 単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること

* ただし、編入学生には適用しません。

(2) 実習校及び実習期間について

実習校は、原則として各自の出身校とします。実習期間は 2 週間で、例年 6 月～9 月の予定ですが、実習校の事情により多少の変更もあります。

3 年次の 7 月頃に、大学から実習校への依頼書を配付し、夏期休業中に実習予定者自身が持参して内諾をもらう必要がありますが、受け入れ人数に制限があり受け入れを断られる場合もあるので、2 年次の終わり頃など、早めに出身校と連絡を取って確認してください。

(3) 事前・事後指導について

教育実習は、実習の他に事前指導（3 年次・4 年次）と事後指導（4 年次）を必ず受けなければなりません。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

注 4 「工業」の免許状における教職に関する科目の 2.6 単位及び教科の指導法に関する科目の 4 単位の計 3.0 単位については、全部又は一部を教科に関する科目（工業）で代替することができます。ただし、学科・コースによっては履修すべき単位（職業指導を除き 5.9 単位）に不足することもありますので、その場合は、学生センター A 棟④ 番窓口（学務課）に相談してください。

表3. 教科に関する科目の修得すべき単位数

化学・生命理工学科 【理科】

化学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
物理学	○物理学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○物理学Ⅱ	2	〃	
化学	○化学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○化学Ⅱ	2	〃	
	○無機構造化学	2	〃	
	○量子化学	2	〃	
	○有機化学Ⅰ	2	〃	
	有機分子解析学	2	〃	
	○有機化学Ⅱ	2	化学コース	
	○有機化学Ⅲ	2	〃	
	○無機反応化学	2	〃	
	無機物質化学Ⅰ	2	〃	
	無機物質化学Ⅱ	2	〃	
	物性物理化学	2	〃	
	構造物理化学	2	〃	
有機分子構築学	2	〃		
有機分子構造学	2	〃		
生物学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上
	神経科学概論	2	〃	
	生化学	2	〃	
	発生生物学	2	〃	
	分子遺伝学	2	〃	
医薬科学	2	〃		
地学	○地学	2	システム創成工学科	1以上
化学実験	○化学理工学実験Ⅰ	3	化学コース	1以上
	○化学理工学実験Ⅱ	3	化学コース	
				合計 31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

生命コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
物理学	○物理学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○物理学Ⅱ	2	〃	
化学	○化学Ⅰ	2	化学・生命理工学科	1以上
	○化学Ⅱ	2	〃	
	無機構造化学	2	〃	
	量子化学	2	〃	
	有機化学Ⅰ	2	〃	
有機分子解析学	2	〃		
生物学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上
	○神経科学概論	2	〃	
	○生化学	2	〃	
	○発生生物学	2	〃	
	分子遺伝学	2	〃	
	医薬科学	2	〃	
	○分子細胞生物学Ⅰ	2	生命コース	
	○分子細胞生物学Ⅱ	2	〃	
	○分子細胞生物学Ⅲ	2	〃	
	○生理学	2	〃	
	○組織形態学	2	〃	
ブレインサイエンス	2	〃		
地学	○地学	2	システム創成工学科	1以上
化学実験	○化学実験	1	生命コース	1以上
生物学実験	○生命理工学実験Ⅰ	2	生命コース	
				合計 31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

化学・生命理工学科 【工業】

化学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2	合計 31
	確率統計学	2	化学・生命理工学科	29	
	分析化学	2	化学コース		
	無機工業化学	2	〃		
	有機工業化学	2	〃		
	○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
	○化学生命研修Ⅰ	1	〃		
	○化学生命研修Ⅱ	1	〃		
	○基礎分析化学	2	〃		
	○基礎物理化学	2	〃		
	○物理化学Ⅰ	2	〃		
	○基礎化学工学	2	〃		
	○物理化学Ⅱ	2	化学コース		
	○基礎高分子化学	2	〃		
	○高分子合成化学	2	〃		
	化学工学Ⅰ	2	〃		
	機器分析化学	2	〃		
	反応工学	2	〃		
	化学工学Ⅱ	2	〃		
	分子構造解析学	2	〃		
	高分子材料化学	2	〃		
	○化学理工学情報Ⅰ	1	〃		
	○化学理工学演習Ⅰ	1	〃		
	○化学理工学演習Ⅱ	1	〃		
	○化学理工学研修	1	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

生命コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2	合計 31
	○確率統計学	2	化学・生命理工学科	29	
	分析化学	2	化学コース		
	無機工業化学	2	〃		
	有機工業化学	2	〃		
	基礎高分子化学	2	〃		
	○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
	○化学生命研修Ⅰ	1	〃		
	化学生命研修Ⅱ	1	〃		
	基礎分析化学	2	〃		
	基礎物理化学	2	〃		
	物理化学Ⅰ	2	〃		
	基礎化学工学	2	〃		
	○バイオテクノロジー	2	生命コース		
	再生医療工学	2	〃		
	○生命情報学	2	〃		
	○生命理工学演習Ⅰ	1	〃		
	○生命理工学演習Ⅱ	1	〃		
	○生命理工学実験Ⅱ	2	〃		
	○生命理工学情報Ⅰ	1	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

物理・材料理工学科 【数学】
数理・物理コース，マテリアルコース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○線形代数学	2	物理・材料理工学科	1以上	合計 31
	○基礎数学	1	〃		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	○ベクトル解析	2	物理・材料理工学科		
	物理数学演習Ⅰ	1	数理・物理コース		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	物理・材料理工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○微分方程式	2	〃		
	○複素解析	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	○応用微分方程式	2	数理・物理コース		
	物理数学演習Ⅱ	1	〃		
	ゲーム理論	2	〃		
	応用解析学	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	物理・材料理工学科	1以上	
	応用確率統計学	2	数理・物理コース		
	複雑系科学	2	〃		
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	○プログラミング学	2	物理・材料理工学科	1以上	
	○数値計算法	2	物理・材料理工学科		
	論理回路	2	システム創成工学科		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

物理・材料理工学科 【理科】
数理・物理コース，マテリアルコース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
物 理 学	○物理学	2	物理・材料理工学科	1以上	合計 31
	○熱力学	2	〃		
	○電磁気学Ⅰ	2	〃		
	電磁気学Ⅱ	2	〃		
	○量子物理学Ⅰ	2	〃		
	○統計物理学	2	〃		
	○固体物理学	2	〃		
	電子物性学	2	〃		
	磁性理工学	2	〃		
	超伝導理工学	2	〃		
	ナノ理工学	2	〃		
	量子物理学Ⅱ	2	数理・物理コース		
	粒子線計測学	2	〃		
	現代物理学Ⅰ	2	〃		
	現代物理学Ⅱ	2	〃		
光学	2	物理・材料理工学科			
化 学	○化学Ⅰ	2	物理・材料理工学科	1以上	
	○化学Ⅱ	2	〃		
	○材料物理化学Ⅰ	2	マテリアルコース		
	○電気化学	2	マテリアルコース		
生 物 学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上	
地 学	○地学	2	システム創成工学科	1以上	
物理学実験	○物理学実験	1	物理・材料理工学科	1以上	
	○物理・材料理工学実験Ⅱ	2	〃		
化学実験	○化学実験	1	物理・材料理工学科	1以上	
	○物理・材料理工学実験Ⅰ	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

物理・材料理工学科 【工業】
数理・物理コース，マテリアルコース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2	合計 31
工業	○材料組織学Ⅰ	2	物理・材料理工学科	29	
	○電気回路学	2	〃		
	○材料計測学	2	〃		
	○誘電体材料学	2	〃		
	○半導体理工学	2	〃		
	○有機材料学	2	〃		
	○材料力学	2	マテリアルコース		
	○材料組織学Ⅱ	2	〃		
	○金属構造材料学	2	〃		
	○材料強度学	2	〃		
	○材料物理化学Ⅱ	2	〃		
	○半導体デバイス工学	2	〃		
	○エコ材料学	2	〃		
	○接合工学	2	〃		
	○反応工学	2	〃		
	○製錬工学	2	〃		
○鑄造材料学	2	〃			
○複合材料学	2	〃			

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

システム創成工学科 【数学】

電気電子通信コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○基礎数学	1	システム創成工学科	1以上	合計 31
	○線形代数学	2	システム創成工学科		
	○電気数学	1	電気電子通信コース		
	基礎計算力学	2	機械科学コース		
	線形代数学Ⅱ	2	システム創成工学科		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	○ベクトル解析	2	システム創成工学科		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	○微分方程式	2	〃		
	複素解析	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	システム創成工学科	1以上	
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	△数値計算	2	知能・メディア情報コース	1以上	
	論理回路	2	システム創成工学科		
	形式言語とオートマトン	2	知能・メディア情報コース		
	コンピュータグラフィックス	2	〃		
	△数値計算法	2	機械科学コース		
	システム制御工学	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

△印科目は、免許区分ごとの選択必修科目を示し、1科目以上を修得すること。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

知能・メディア情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○線形代数学Ⅰ	2	知能・メディア情報コース	1以上	合計 31
	電気数学	1	電気電子通信コース		
	基礎計算力学	2	機械科学コース		
	線形代数学Ⅱ	2	システム創成工学科		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	ベクトル解析	2	システム創成工学科		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	微分方程式	2	〃		
	複素解析	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	システム創成工学科	1以上	
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	○数値計算	2	知能・メディア情報コース	1以上	
	○論理回路	2	システム創成工学科		
	形式言語とオートマトン	2	知能・メディア情報コース		
	コンピュータグラフィックス	2	〃		
	数値計算法	2	機械科学コース		
	システム制御工学	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

機械科学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○基礎数学	1	システム創成工学科	1以上	合計 31
	○線形代数学	2	システム創成工学科		
	電気数学	1	電気電子通信コース		
	基礎計算力学	2	機械科学コース		
	線形代数学Ⅱ	2	システム創成工学科		
幾 何 学	○幾何学Ⅰ	2	数理・物理コース	1以上	
	○幾何学Ⅱ	2	〃		
	○ベクトル解析	2	システム創成工学科		
解 析 学	○微分積分学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○微分積分学Ⅱ	2	〃		
	○フーリエ解析	2	〃		
	○微分方程式	2	〃		
	○複素解析	2	〃		
確率論、統計学	○確率統計学	2	システム創成工学科	1以上	
	データ解析	2	知能・メディア情報コース		
コンピュータ	数値計算	2	知能・メディア情報コース	1以上	
	論理回路	2	システム創成工学科		
	形式言語とオートマトン	2	知能・メディア情報コース		
	コンピュータグラフィックス	2	〃		
	○数値計算法	2	機械科学コース		
	システム制御工学	2	〃		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

システム創成工学科 【理科】

社会基盤・環境コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数	
物 理 学	○物理学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	合計 31
	○物理学Ⅱ	2	〃		
	○構造力学Ⅰ	2	〃		
	○構造力学Ⅱ	2	社会基盤・環境コース		
	○構造力学演習	1	〃		
	○水理学Ⅰ	2	〃		
	○水理学Ⅱ	2	〃		
	水理学演習	1	〃		
	○土質力学Ⅰ	2	〃		
	○土質力学Ⅱ	2	〃		
土質力学演習	1	〃			
耐震工学	2	〃			
化 学	○化学Ⅰ	2	システム創成工学科	1以上	
	○化学Ⅱ	2	〃		
	大気環境工学	2	社会基盤・環境コース		
	水環境工学	2	〃		
生 物 学	○生物学	2	化学・生命理工学科	1以上	
地 学	○地学	2	システム創成工学科	1以上	
	地質工学	2	社会基盤・環境コース		
	地震・火山防災工学	2	〃		
	水・土砂防災工学	2	〃		
物理学実験	△物理学実験	1	システム創成工学科	1以上	
化学実験	△化学実験	1	システム創成工学科		
地学実験	社会基盤・環境工学実験	1	社会基盤・環境コース		

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

△印科目は、免許区分ごとの選択必修科目を示し、1科目以上を修得すること。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

システム創成工学科【工業】

電気電子通信コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○組込ソフトウェア実習	1	電気電子通信コース	29
	○組込ハードウェア実習	1	〃	
	○電気回路論Ⅰ	2	システム創成工学科	
	○電気回路論Ⅱ	2	電気電子通信コース	
	○電気回路論Ⅲ	2	〃	
	○電気理論の基礎	2	システム創成工学科	
	○電磁気学Ⅰ	2	電気電子通信コース	
	○電磁気学Ⅱ	2	電気電子通信コース	
	○電磁波工学	2	〃	
	○アナログ電子回路	2	システム創成工学科	
	○応用電子回路	2	電気電子通信コース	
	○電気電子計測学	2	〃	
	○制御システム工学	2	〃	
	○電子デバイス工学Ⅰ	2	〃	
	○エネルギー変換工学	2	〃	
	○電気機器工学	2	〃	
	○通信システム	2	〃	
	○電子材料物性学	2	〃	
	○半導体LSI工学	2	〃	
	○電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	○光エレクトロニクス	2	〃	
	○高電圧プラズマ工学	2	〃	
	○発電工学	2	〃	
	○送配電工学	2	〃	
	○電気電子工学特別講義	2	〃	
	○電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	○コンパイラ	2	知能・メディア情報コース	
	○ネットワーク実験	1	〃	
	○デジタル通信	2	〃	
	○信号処理	2	〃	
	○情報理論	2	〃	
	○データベース	2	〃	
	○ヒューマンインタフェース	2	〃	
	○メディアシステム	2	〃	
	○画像処理とパターン認識	2	〃	
	○人工知能	2	〃	
	○ロボティクス	2	〃	
	○数理計画法	2	〃	
	○ハードウェア実験	1	〃	
	○環境とエネルギー	2	機械科学コース	
	○固体力学	2	〃	
	○精密工学	2	〃	
	○粘性流体工学	2	〃	
	○航空流体工学	2	〃	
	○燃焼工学	2	〃	
	○生産加工学	2	〃	
○生体工学	2	〃		
○トライボロジー	2	〃		
○航空宇宙システム工学	2	〃		
○材料力学Ⅱ	2	〃		
○伝熱工学	2	〃		
○計測工学	2	〃		
○ロボティクス工学	2	〃		
○測量学	2	システム創成工学科		
○資源循環工学	2	社会基盤・環境コース		
○地盤環境工学	2	〃		
○公共政策学	2	〃		
○水工学	2	〃		
○地盤工学	2	〃		
○鋼構造学	2	〃		
○生態環境保全学	2	〃		
○建設材料学	2	〃		
○施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
				合計 31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

知能・メディア情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○電気回路論Ⅰ	2	システム創成工学科	29
	通信システム	2	電気電子通信コース	
	電子材料物性学	2	〃	
	半導体LSI工学	2	〃	
	電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	光エレクトロニクス	2	〃	
	高電圧プラズマ工学	2	〃	
	発電工学	2	〃	
	送配電工学	2	〃	
	電気電子工学特別講義	2	〃	
	電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	○コンピュータアーキテクチャ	2	知能・メディア情報コース	
	○ソフトウェア構成論	2	〃	
	○コンピュータネットワーク	2	〃	
	○デジタル回路設計	2	〃	
	○オペレーティングシステム	2	〃	
	○ハードウェア設計及び演習	2	〃	
	○プログラミング言語及び演習Ⅰ	2	〃	
	○プログラミング言語及び演習Ⅱ	2	〃	
	○プログラミング言語及び演習Ⅲ	2	〃	
	○ソフトウェア設計及び演習	2	〃	
	コンパイラ	2	〃	
	ネットワーク実験	1	〃	
	デジタル通信	2	〃	
	信号処理	2	〃	
	情報理論	2	〃	
	データベース	2	〃	
	ヒューマンインタフェース	2	〃	
	メディアシステム	2	〃	
	画像処理とパターン認識	2	〃	
	人工知能	2	〃	
	ロボティクス	2	〃	
	数理計画法	2	〃	
	ハードウェア実験	1	〃	
	○環境とエネルギー	2	機械科学コース	
	固体力学	2	〃	
	精密工学	2	〃	
	粘性流体工学	2	〃	
	航空流体工学	2	〃	
	燃焼工学	2	〃	
	生産加工学	2	〃	
	生体工学	2	〃	
	トライボロジー	2	〃	
	航空宇宙システム工学	2	〃	
	材料力学Ⅱ	2	〃	
	伝熱工学	2	〃	
	計測工学	2	〃	
	ロボティクス工学	2	〃	
	○測量学	2	システム創成工学科	
資源循環工学	2	社会基盤・環境コース		
地盤環境工学	2	〃		
公共政策学	2	〃		
水工学	2	〃		
地盤工学	2	〃		
鋼構造学	2	〃		
生態環境保全学	2	〃		
建設材料学	2	〃		
施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
				合計
				31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

機械科学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○電気回路論 I	2	システム創成工学科	29
	通信システム	2	電気電子通信コース	
	電子材料物性学	2	〃	
	半導体LSI工学	2	〃	
	電子デバイス工学II	2	〃	
	光エレクトロニクス	2	〃	
	高電圧プラズマ工学	2	〃	
	発電工学	2	〃	
	送配電工学	2	〃	
	電気電子工学特別講義	2	〃	
	電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	コンパイラ	2	知能・メディア情報コース	
	ネットワーク実験	1	〃	
	デジタル通信	2	〃	
	信号処理	2	〃	
	情報理論	2	〃	
	データベース	2	〃	
	ヒューマンインタフェース	2	〃	
	メディアシステム	2	〃	
	画像処理とパターン認識	2	〃	
	人工知能	2	〃	
	ロボティクス	2	〃	
	数理計画法	2	〃	
	ハードウェア実験	1	〃	
	○機械材料学	2	機械科学コース	
	○機械工作実習	1	〃	
	○機械基礎製図 I	1	〃	
	○機械基礎製図 II	1	〃	
	○CAD実習	1	〃	
	○機械設計学	2	システム創成工学科	
	○機械設計製図	1	機械科学コース	
	○材料力学 I	2	システム創成工学科	
	○水力学	2	機械科学コース	
	○機械力学	2	システム創成工学科	
	○熱力学	2	機械科学コース	
	○機械加工学	2	〃	
	○制御工学	2	〃	
	○環境とエネルギー	2	〃	
	固体力学	2	〃	
	精密工学	2	〃	
	粘性流体工学	2	〃	
	航空流体工学	2	〃	
	燃焼工学	2	〃	
	生産加工学	2	〃	
	生体工学	2	〃	
	トライボロジー	2	〃	
航空宇宙システム工学	2	〃		
材料力学II	2	〃		
伝熱工学	2	〃		
計測工学	2	〃		
ロボティクス工学	2	〃		
○測量学	2	システム創成工学科		
資源循環工学	2	社会基盤・環境コース		
地盤環境工学	2	〃		
公共政策学	2	〃		
水工学	2	〃		
地盤工学	2	〃		
鋼構造学	2	〃		
生態環境保全学	2	〃		
建設材料学	2	〃		
施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
			合計	31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

社会基盤・環境コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設学科・コース等	修得すべき単位数
職業指導	○職業指導	2	理工学部	2
工業	○電気回路論Ⅰ	2	システム創成工学科	29
	通信システム	2	電気電子通信コース	
	電子材料物性学	2	〃	
	半導体LSI工学	2	〃	
	電子デバイス工学Ⅱ	2	〃	
	光エレクトロニクス	2	〃	
	高電圧プラズマ工学	2	〃	
	発電工学	2	〃	
	送配電工学	2	〃	
	電気電子工学特別講義	2	〃	
	電気設計製図	2	〃	
	○情報工学基礎	2	システム創成工学科	
	コンパイラ	2	知能・メディア情報コース	
	ネットワーク実験	1	〃	
	デジタル通信	2	〃	
	信号処理	2	〃	
	情報理論	2	〃	
	データベース	2	〃	
	ヒューマンインタフェース	2	〃	
	メディアシステム	2	〃	
	画像処理とパターン認識	2	〃	
	人工知能	2	〃	
	ロボティクス	2	〃	
	数理計画法	2	〃	
	ハードウェア実験	1	〃	
	○環境とエネルギー	2	機械科学コース	
	固体力学	2	〃	
	精密工学	2	〃	
	粘性流体工学	2	〃	
	航空流体工学	2	〃	
	燃焼工学	2	〃	
	生産加工学	2	〃	
	生体工学	2	〃	
	トライボロジー	2	〃	
	航空宇宙システム工学	2	〃	
	材料力学Ⅱ	2	〃	
	伝熱工学	2	〃	
	計測工学	2	〃	
	ロボティクス工学	2	〃	
	○入門地域創生論	2	社会基盤・環境コース	
	○設計製図	1	〃	
	○測量学	2	システム創成工学科	
	○測量学実習Ⅰ	1	社会基盤・環境コース	
	○測量学実習Ⅱ	1	〃	
	○都市計画学	2	〃	
	○交通計画学	2	〃	
	○コンクリート工学	2	〃	
○鉄筋コンクリート工学	2	〃		
○上下水道工学	2	〃		
○環境工学	2	〃		
資源循環工学	2	〃		
地盤環境工学	2	〃		
公共政策学	2	〃		
水工学	2	〃		
地盤工学	2	〃		
鋼構造学	2	〃		
生態環境保全学	2	〃		
建設材料学	2	〃		
施設維持管理工学	2	〃		
○化学生命概論	2	化学・生命理工学科		
				合計 31

○印科目は、免許区分ごとの必修科目を示す。

※他学科・他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

○農 学 部

農学部（共同獣医学科を除く）では高等学校教諭1種免許状（理科・農業）が取得可能です。そのためには下記のように修得する必要があります。

- ①基礎資格（「学士の学位」）を有している
- ②下記に示した **A表から26単位**と **B表から35単位以上**の合計61単位以上を修得している
- ③教養教育科目から決められた科目と単位数を修得している
（Ⅷ教育職員免許状・各種資格の取得方法（Ⅷ-1ページ）を参照）

詳細については、1年次前期に開講する「教職入門」で説明するので、**免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告のうえ受講してください。**

A表 教職に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	最低修得単位数		
					農業	理科	
教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	1	前期	2	2
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2～	前期	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2～	前期	} 1科目 選択	} 1科目 選択	
		学校経営・制度論	2～	後期			2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1～	後期	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2～	前期	2	2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2～	後期	2	2
		特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	1～	後期	2	2
		教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2～	前期	2	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用方法	3～		1	1
生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導・進路指導	1～	後期	2	2	
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	1～	後期	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前事後指導含む） （注1・注2）	3～4		3	3	
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	4	後期集中	2	2	
A表 小 計					26	26	

B表 教科及び教科の指導法に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	開設科目単位数による最低修得単位数			
					農業	理科		
教科及び教科の指導法に関する科目	理科に関する専門的事項 (注4)	物理学	物理学入門 ※				2	
		化学	化学入門 ※				2	
		生物学	生物学入門 ※				2	
		地学	地学入門 ※				2	
		「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	基礎物理学実験	}				このうちから 1
			基礎化学実験					
	基礎生物学実験							
	理科の関係科目	(注3)					2 2	
	理科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		理科教育法Ⅰ	2～	前期			2
			理科教育法Ⅱ	2～	後期			2
農業に関する専門的事項	農業の関係科目	(注3)			2 9			
	職業指導	職業指導	1～	前期集中	2			
農業の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		農業教育法Ⅰ	2～	前期	2			
		農業教育法Ⅱ	2～	後期	2			
B表 小 計					3 5	3 5		
A表 B表 合 計					6 1	6 1		

(注1) 教育実習について

1) 教育実習は4年次の6～9月頃に2週間の日程で行います。実習校は原則として各自の出身高等学校とします。

3年次の4月下旬～5月上旬にガイダンスを行ったうえで、7月頃に、実習校への大学からの依頼文を配布し、希望者が実習校に持参することにしてはいますが、実習生の受入人数を制限している学校があるので、実習を希望する学生は、2年次の終わり頃に出身校に連絡を取り、受け入れ手続きの確認をしておいてください。

2) 実習のほかに事前指導(3年次・4年次)と事後指導(4年次)を必ず受ける必要があります。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

(注2) 教育実習実施にあたっては、下記の条件を全て満たしていなければなりません。

- 1) 卒業見込の者(研究室配属されていること)
- 2) 教職に関する科目の単位の1/2以上(13単位以上)を取得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の1/2以上(18単位以上)を取得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること
- 6) 教育実習事前指導を受講していること

(注3) 理科及び農業の関係科目に対応する授業科目については、農学部専門教育科目履修表の備考欄の教員免許法上の科目の表示を確認し、所属学科(食料生産環境学科は他のコースも含む。)の科目を修得してください。

なお、各学科で指定されている免許を取得するための必修科目(「必一」が記載された科目)を必ず履修してください。(食料生産環境学科は、所属コース以外の必修科目も必ず履修してください。)

(注4) B表の理科に関する専門的事項のうち、物理学、化学、生物学及び地学の科目として履修する科目は、※印の授業科目が必修科目(一般的包括的内容を含む科目)です。

○教員免許状授与申請について

免許状は都道府県教育委員会に必要書類を取りそろえて申請することによって授与されます。

卒業時に岩手県教育委員会に一括して申請しますので、希望者は必要書類を学生センターA棟④番窓口へ提出して下さい。

必要書類や提出の日程については冬季休業前に掲示します。

2 その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては、特定科目の単位取得と卒業をもって、各種の資格を取得できたり、資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また、この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－72 ページ
教育学部	Ⅳ－42～66 ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

IX

国際教育科目について

IX 国際教育科目について

1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

① 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生在が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

<共修科目群リスト>

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修	2	2	前期	集中
	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修—世界から地域を考える」および国際教育科目「海外研修」履修者対象
	国際合宿	2	2	前期	集中

※対象学年以上の学生が履修可能です。

※備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

※備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

※講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

②交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生，日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また，科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが，正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」*として登録した科目については単位が認められます。

<交換留学生専用科目群>

①日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	火・木×0.5 コマ
初級日本語 I 会話	1	前期・後期	
初級日本語 I 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 I 文法	1	前期・後期	
初級日本語 II 文法	1	前期・後期	
初級日本語 II 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 II 会話	1	前期・後期	
中級日本語 I 文法 1	1	前期・後期	
中級日本語 I 文法 2	1	前期・後期	
中級日本語 I 会話	1	前期・後期	
中級日本語 I 読解	1	前期・後期	
中級日本語 I 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 I 作文	1	前期・後期	
中級日本語 II 会話	1	前期・後期	
中級日本語 II 文法	1	前期・後期	
中級日本語 II 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 II アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 II 読解	1	前期・後期	
中級日本語 II 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

② 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
スクールインターンシップ I	2	前期	
スクールインターンシップ II	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割, 単位数, 履修手続き, 試験, 成績評価等については, 「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

2. 履修方法および開設授業科目

履修については, 本冊子及び時間割を参考にし, 大学からのお知らせ, 中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して, 間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については, 当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部, 学科, 課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので, 各学部の説明の項を熟読してください。また, 履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や, 年度により開設しない科目があるので注意してください。

X

関係法規等



国立大学法人

岩手大学
IWATE UNIVERSITY